

吉 田 巖 書 誌

吉田
巖
書
誌

北海道立アイヌ民族文化研究センター調査研究報告書4

二〇〇八年三月

A Bibliography of YOSHIDA Iwao

吉 田 巖 書 誌

序

北海道立アイヌ民族文化研究センターでは、中・長期的な調査研究事業の成果などをまとめた形で提供するため、平成16年度より、研究紀要の別冊として『北海道立アイヌ民族文化研究センター調査研究報告書』を刊行しています。

4冊目となる本書は、当研究センターが平成15～19年度において実施した研究課題「吉田巖関係資料の調査研究」の成果報告として、研究職員・小川正人による、「吉田巖書誌」を掲載しました。

吉田巖氏（1882～1963年）は、帯広や平取、虻田（現洞爺湖町）等において長くアイヌ児童を対象とした小学校の教員を勤め、そのかたわら地域のアイヌ文化・歴史を調査し、生前、多くの論文や調査報告などを著しました。

吉田巖氏が収集・整理した資料は、昭和30（1955）年より『帯広市社会教育叢書』（昭和47年発行No.16からは『帯広叢書』と改称）として順次活字化され出版がすすめられるとともに、氏の没後、ご遺族から帯広市に寄贈され、帯広市図書館において整理・保存されています。このほか、各地の資料館などにも吉田巖氏の書簡などの関係資料が残されており、近年、それらの概要が明らかにされています。

本研究課題では、アイヌの歴史・文化に関する基礎的な資料としてたいへん貴重な吉田巖氏の関係資料を、アイヌ文化研究に今後活用していくために、吉田巖氏の書誌を作成することとし、吉田巖氏の著作や吉田巖氏に関する文献の目録のほか、これまでに刊行された叢書や資料集の情報をとりまとめました。

本書が、アイヌの文化や歴史に関する調査研究等に寄与することができれば幸いです。

最後になりましたが、吉田巖氏の肖像写真の掲載について許可をいただきました吉田ヨシ子様、帯広市図書館をはじめ、本調査研究事業の実施と本書の刊行に協力してくださった方々に、心から感謝を申し上げます。

平成20年3月

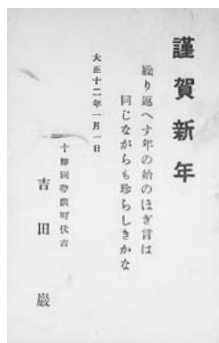
北海道立アイヌ民族文化研究センター



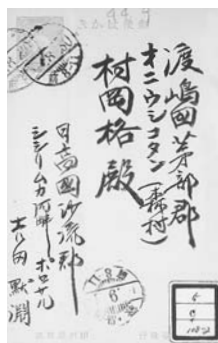
帯広市図書館所蔵吉田巖遺稿資料の一部
(吉田巖の論文が掲載された雑誌など、図書・雑誌類は、このように箱に収め保存されている)



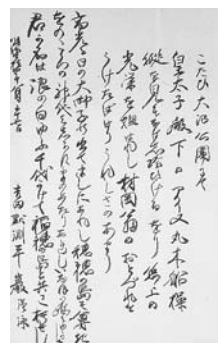
第二伏古(日新)尋常小学校(帯広市)の、跡地に立つ案内板
(帯広市教育委員会設置)



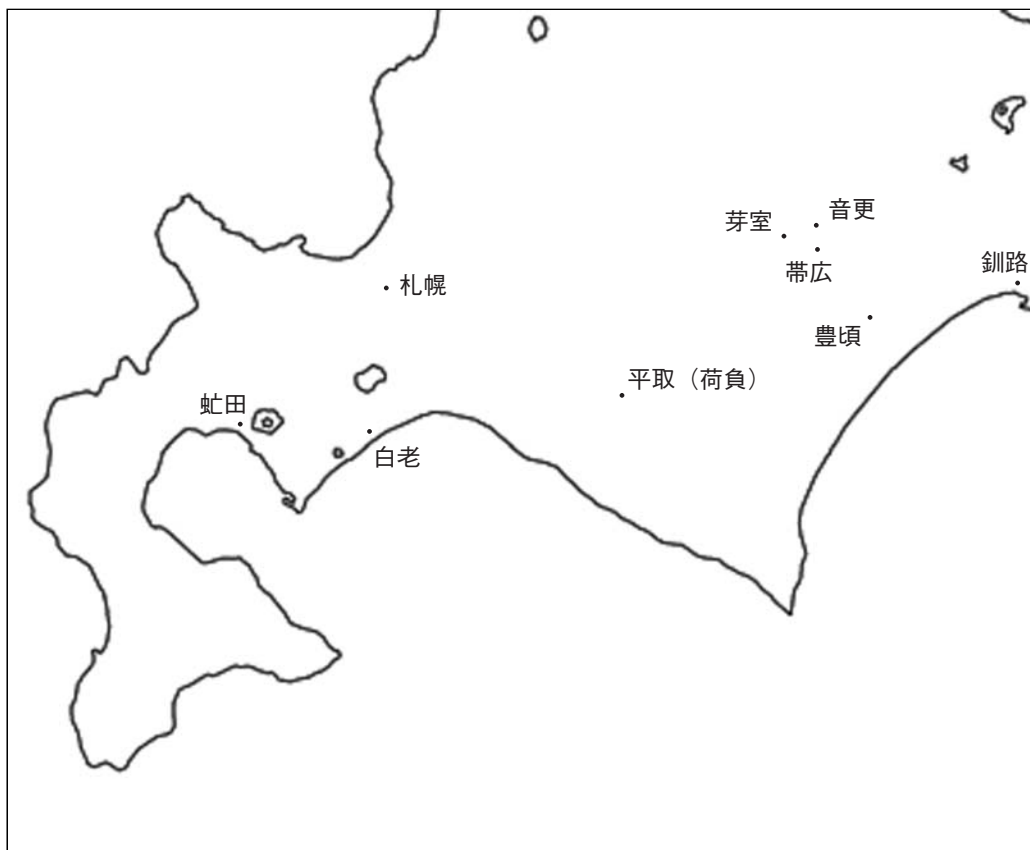
吉田巖の年賀状 (左)



吉田巖から村岡格に宛てられた葉書 (中央及び右)
[森町教育委員会所蔵村岡文庫]



〔関係地域地図〕



目 次

C O N T E N T S

序

口絵写真

目次

凡例

I はじめに	1
付：吉田巖 略年譜	8
II 吉田巖著作目録	9
III 吉田巖関係文献目録	21
IV 「帯広市社会教育叢書」「帯広叢書」の吉田巖関係事項の細目	33
V 参考資料	55
(1) 帯広市図書館所蔵吉田巖遺稿資料の概要	55
付：「吉田巖著作稿本年表」より	61
(2) 帯広市図書館以外の公的機関が所蔵する吉田巖関係資料の概要	63
付：北海道立図書館所蔵複写製本一覧	65
(3) 既刊の資料集・叢書の中の吉田巖著作の一覧	67

凡 例

- 1 本書は、北海道立アイヌ民族文化研究センターによる研究課題「吉田巖関係資料の調査研究」(事業期間：平成15～19年度)の成果報告書として編さんしたものである。
- 2 資料の引用に際しては、漢字の旧字体等については原則として現在用いられる漢字に改めた。新聞記事の見出しの改行箇所は「／」で、新聞・雑誌のコーナータイトルは〔 〕で表した。
〔 〕は編者による注記を表す。
- 3 吉田巖の名は本来は「巖」であるが、実際の著作や関係文献の表記では「巖」と「巖」が混在していることから、本書では、Ⅱ以下の書誌情報では原則として「巖」に統一した。
また、『帯広市社会教育叢書』『帯広叢書』の巻数の記載も、実際の記載には複数のパターンが見られるが、本書では原則として、「帯広市社会教育叢書 No. 1」のように、「叢書名」＋「No.」＋「巻数」とした。
- 4 資料の引用部分や文献の表題などには、今日では適切とは言えない用語や表現もあるが、学術資料としての性格上そのままとした。
また、資料の引用部分や内容の概要をまとめた文章中に、現在の研究成果や社会常識に照らせば不適切な内容や文言が含まれている場合もあるが、当時の資料の状態を示すものとして、予め注意し理解していただきたい。
本文の記載にあたっては、謝辞などを除き、原則として敬称を省略した。
- 5 上記以外の、各目録の凡例については、それぞれの目録の冒頭に記した。
- 6 この研究課題には、主に北海道立アイヌ民族文化研究センター研究職員小川正人が従事した。本書の編集も主に小川が行った。個々の目録のデータ入力は、北海道立アイヌ民族文化研究センター臨時職員加賀菜々子、同後藤久美子、同干場ゆかり、同下村聡子が分担した。

謝辞

本書の編さんに至る調査において、以下の機関・個人にお世話になった。深く感謝する。

帯広市図書館 帯広叢書編集委員会 帯広百年記念館

幕別町ふるさと館 市立釧路図書館 北海道立図書館北方資料室

北海道大学附属図書館 北海道立文書館 社団法人北海道ウタリ協会 森町教育委員会

福島県立相馬高等学校 渋沢史料館 筑波大学附属中央図書館 国立国会図書館

国文学研究資料館 三康図書館 大宅壮一文庫 日本近代文学館

竹ヶ原幸朗 井黒弥太郎 石原誠 内田祐一

I はじめに

本書は、北海道立アイヌ民族文化研究センターにおける研究課題「吉田巖関係資料の調査研究」（実施期間：2003～2007年度）の成果報告書として、アイヌ学校⁽¹⁾教員・アイヌ文化研究者・郷土史研究者として知られる吉田 巖^{よし だ いわお}（1882～1963年）の著作や関係文献、資料の情報をまとめたものである。

後述のとおり、吉田巖はその生涯を通してアイヌ文化や郷土史に関する膨大な記録資料を作成し、またこれらをもとに『心の碑 アイヌ学校教員体験記』（北海出版社、1935年）や多くの論文を著した。これらの著作や記録資料の全体を俯瞰し、かつこれらの情報を集約し整理しておくことは、アイヌ史・アイヌ文化研究のための基礎的条件整備の一環としての意義を有するのではないか。本研究課題の発端と本書編さんの目的はこのような点にある⁽²⁾。

以下ここでは、吉田巖の略歴と関係資料の概要、これらに関する整理・資料紹介等のこれまでの蓄積、及び本報告書の内容構成について説明する。

1 吉田巖の略歴

吉田巖の略歴を本項の末尾に年表形式でまとめた。

吉田巖は1882（明治15）年7月6日、相馬郡中村町（現福島県相馬市）に生まれた。父恭重はもと相馬藩士、母佐牟は二宮尊親（二宮尊徳の孫、北海道豊頃に興復社社長として移住）の妹である。1898年、巖が福島県立第四中学校（のち相馬中学校）に合格した年に父が死去、同年、母や兄夫婦は北海道豊頃の興復社に移住し、巖は相馬に残って中学校に通った。

1903年に同中学校の第一期生として卒業、その後しばらく地元で小学校教員などをつとめ、1906年に豊頃に移住する。巖は、北海道移住当初から、いわゆる義経伝説に対する関心や、アイヌ語・アイヌ文化に対する関心を強く持っていたようである⁽³⁾。

1906年中に音更尋常小学校の教員となり、以後、アイヌ学校の教員を歴任した。翌07年芽室村の毛根尋常小学校教員に転任、同年中に北海道旧土人教育会⁽⁴⁾の経営する実業補習学校（乙種）虻田学園

(1) アイヌ児童の教育を目的として設置された学校を、本報告書ではさしあたりこのように呼ぶこととする。

(2) 筆者は、近代日本におけるアイヌ教育政策の展開過程をそのアイヌ学校の実態分析をとおして考察することを自身の課題としているが、学校・教育の歴史に関する調査において、これまで幾度となく吉田巖の著作と吉田巖が遺した資料を閲覧し、たいへん膨大かつ濃密な記録資料であることを実感してきた。これらを、自身が必要なときにそのつど関心のある部分を閲覧するだけでなく、これからの利用のための情報の集約と整理をしておくことは、ひるがえって自分の仕事に益することも多いだろうと考えた。本書の編さんに対する筆者自身の動機はこのような点にもある。

の教員に転じるものの、1910年の有珠山噴火による学園の閉鎖に伴い一時職を失う。その後一時的に虻田第二尋常小学校の教員代理などを務め、1911年に沙流郡平取村荷負尋常小学校教員となった。

1913年同校から豊頃村報徳教育所に転じ、しばらく豊頃で過ごす、1916年1月から（任命は前年12月）帯広の第二伏古尋常小学校（1919年に日新尋常小学校と改称）の教員となり、1931年8月の閉校まで同校の校長兼訓導をつとめ、同校廃止後も亡くなるまで帯広に住んだ。

この間、赴任した土地でそれぞれの地域のアイヌ文化や郷土史の調査研究を続けた。生前からアイヌ文化に関する多くの論文を『東京人類学雑誌』などに掲載し、アイヌ学校教員・アイヌ文化研究者として、関係者の間では広く名の知られる存在となった⁽⁵⁾。

また、1922年に北海道庁が「保導委員」制度を創設するとその委嘱を受け、制度の制定・改変に伴い、1923年から「土人保導委員」、1932年から方面委員、1946年より民生委員となり1949年まで同委員をつとめた。このほか帯広市史編纂委員の委嘱を受けるなど、地域の生活や歴史と深く関わる職も多くつとめた。

(3) 例えば転居の前年・1905年に北海道を旅行した記録の中に、早くも「アイヌノ話」と題して、アイヌの歴史、文化、現状に関する見聞や感想などを箇条書きにしたと思われる記述がある（『吉田巖日記 第4』20～21、23ページ）。北海道を旅行した者の紀行文の中にアイヌに対する関心を示した記述が散見されることは、特に吉田巖に限ったことではないが、吉田の記述はそれらに比べても詳細であり、釧路に上陸して最初に乗車した列車の中で、早くも「アイヌト談話」したと日記に記す（同前、10ページ）など、関心の強さをうかがわせる。

また北海道移住の際も、先ず釧路に上陸した吉田巖は、その足で釧路・春採のアイヌ学校（当時は釧路第三尋常小学校所属春採特別教授所）を訪ね教員永久保秀二郎と面談している。その際、永久保から言われたという言葉の中に、「あなた様は、さやうな御志願ではその方便として、やはり土人の教育をやって御覧」「いずれ御志願のアイヌ語専門といふがはでは、やはり沙流のほうがよからうと思ひます」（『同前』56ページ、圏点は筆者による）とあることからすると、このとき既にアイヌ文化の調査・研究に強い関心を持ち、その「方便」としてアイヌ学校の教員を志していたことが推測できる。

もっとも、吉田巖に限らず、当時、比較的「熱心」にその任にあたったと評されたアイヌ学校教員には、程度や動機の差異こそあれ、なんらかの「関心」ないし「同情」「義憤」を抱いて自らアイヌ学校を志願した者が少なくなかった（小川『近代アイヌ教育制度史研究』北海道大学図書刊行会、270～272ページ）。なお付言すれば、上述した1905年の「談話」の件は、北海道に来て初めて乗った列車で、いったいどのような認識にもとづいて相手が「アイヌ」だと判断したのか、吉田を含むシャモ（和人）のアイヌ観の実相を示唆する逸話でもある。

ただし、単に後年の知見や認識、社会通念などに基づき吉田巖らのあり方を批判的に検討することには、筆者は賛同しない。吉田巖による記録、特に日記は、そこに吉田自身の述懐がその都度記されているがゆえに、自らアイヌに関心を持ったシャモ（和人）のありようを考えさせる機会と示唆が多く含まれてもいると思うのであり、この点において近現代日本社会におけるアイヌ認識の様態を省察する重要な記録だと筆者は感じている。

(4) アメリカ留学中に黒人教育政策などを見聞してアイヌに関心を抱いた小谷部全一郎（1867～1941）が中心となり1900年5月に発足した組織。「アイヌを教育し工芸、技術、農事の知識を与え自営自活の道を教ゆる」（同会「会則」第1条）ことを目的に掲げ、アイヌ「救済」をうたった「慈善音楽会」の開催などの事業を展開した。実業補習学校虻田学園の開設・運営は同会の主な事業の一つであったが、1910年の有珠山の噴火により同校は休校、のち再開することなく廃止となり、同会の活動もこれと前後して先細りになった。

(5) 本書Ⅱの著作目録とⅢの関係文献目録を対比してみると、アイヌ文化に関する著作が『東京人類学雑誌』などの学術雑誌に掲載され始めるのが1910年頃からであり、1910年代半ば以降から関係文献の数が増加し、吉田巖が学界で着目され始めたことがうかがえる。

2 吉田巖の著作と関係資料の概要

吉田巖には、公刊されただけでもきわめて多くの著作がある。アイヌ語・アイヌ文化に関する著作には、研究史上で重要な位置を占めるもの、あるいは、貴重な一次資料を提供しているものが少なくない。勤務する学校での教育実態や地域の生活状態の問題に関する著述、古老から聞き取りした回想談などは、他に類のない記録になっている。

これらの著作のほとんどが吉田巖自身による調査資料に基づいていることも、大きな特徴である。今日遺されている吉田巖による記録資料には、生涯を通じて書かれた日記、アイヌ文化に関する様々な調査記録、他の文献などの写し、他のアイヌ文化研究者や行政・教育関係者との間で交わされた書簡などがある。アイヌ文化に関する調査資料については、日記の中にそのオリジナルな記録が含まれている場合が多く⁽⁶⁾、日記やノートをもとに吉田巖自身が再構成したアイヌ語の語彙カード、著作の原稿なども相当作成されている。これらの資料は、それ自体として貴重なものであることは勿論、その多くが吉田の著作のバックデータとなっており、このことは、例えば著作や稿本の日付をもとに日記の記述を確認してみる等の相互の参照によって、これらの著作と資料双方の理解や検討をいっそう深めることができる可能性も有している。

また、吉田巖自身がこうした記録の保存⁽⁷⁾と整理に意識的につとめていたと思われる。自身が編さん・整理したノート、草稿の類には、作成年月日などを記載しているものが多く見られるし、典拠とした日記の日付や他の記録名などを付記していることも多い。また自ら、自身の詳細な年譜や履歴のまとめ、「公職年表」や「旅行年表」、日記の抄録などを作成している（これらは主に、後掲する『吉田巖伝記資料』に収録されている）。吉田巖の資料を参照するにあたって有益かつ示唆的なデータが、このように資料そのものの中にも多く含まれているのである。

特に、自筆でまとめられた稿本「吉田巖著作年表」（以下「著作年表」）は、吉田巖の著作と関係資料の全貌を伝える重要な目録である。これは、「吉田巖著作年表」はもとより、「吉田巖身辺関係記事被掲載資料年表」（吉田巖について記述・言及のある文献の目録。以下「被掲載年表」）、「吉田巖著作稿本年表」（吉田巖が自身の調査記録をまとめなおして執筆した草稿・稿本類の目録）、「秩父宮殿下行啓関係吉田巖身辺記事新聞集」（1928年に秩父宮が日新尋常小学校を来訪した際の関係新聞記事の

(6) このことについては、『吉田巖日記 第一』の「発刊にあたって」も、「この日誌は先生の研究上のノートとも云うべきもので、これをベースに民族学論考・アイヌ調査書へと結実していくものであり、先生の遺業を識る上で重要な意味をもつものであります」と記している（3ページ）。

(7) 例えば、吉田が生涯に何度も転勤し、その中には有珠山の噴火により虻田を離れた時期などの緊急・不遇な転居などがあったにもかかわらず、日記をはじめとする多くの資料が遺されているのは、記録資料の保存に対する意志の一つの表れだと思う。

目録⁽⁸⁾の4つの目録からなる。いずれも最晩年の文献までを含んだ相当に詳細な記録であり⁽⁹⁾、本書誌も、この『著作年表』に多くを負っている。

以上を総じて言えば、吉田巖の著作と吉田巖が遺した資料は、十勝をはじめとする道内各地のアイヌの文化と歴史に関する膨大かつ重厚な基礎資料群であり、かつ、次節でも述べるとおり、今後の活用余地と可能性をおおいに有していると考えられる。

3 これまでの資料整理・公刊と研究の状況

吉田巖は、生前から自身の調査記録をもとに稿本類を多く作成し、それらを順次論文や調査報告として学術雑誌などに発表していった。1955年からは、帯広市教育委員会により『帯広市社会教育叢書』としてこれらの稿本などの翻刻・刊行が開始された。しかし、吉田が高齢になった1960年12月発行のNo.6（愛郷春秋）をもって、刊行はいったん中断される⁽¹⁰⁾。

1963年の吉田巖の没後、遺された資料は、遺族・親戚と帯広市教育委員会との協議の結果、遺族らの厚意によりそのほとんどは帯広市に寄贈され、帯広市図書館が保管し、「吉田巖遺稿資料保存委員会」が管理することとなった。この当時から、帯広市教委の中では、これら「吉田巖遺稿資料」（以下「遺稿資料」）を中心として広く吉田巖の関係資料を収集し、整理し、かつ順次刊行していくことが意図されていたようであり⁽¹¹⁾、翌1964年5月に『帯広市社会教育叢書』No.9として『吉田巖伝記資料』が刊行され、「遺稿資料」の整理と翻刻・出版が再開された。

現在、「遺稿資料」は帯広市図書館が保管し、同館のもとに設けられた帯広叢書編集委員会によって、その整理と『帯広叢書』（1972年発行のNo.16から、『帯広市社会教育叢書』を改題⁽¹²⁾：以下、これらを一括して「叢書」と記し、またその号数を「No.1」の如く略記する）の刊行がすすめられており、2008年2月時点でNo.57まで（一部に『十勝国移住案内』など吉田巖関係以外の内容のものがある）が刊行されている。アイヌ文化・アイヌ史の分野において、個人が遺した、或いはその個人

(8) 内容としては「吉田巖身辺関係記事被掲載資料年表」に含まれるものであるが、特に件数が多く、また吉田巖の生涯にとって特に重要な出来事であったため、別に目録を作成したものと思われる

(9) 特に「吉田巖身辺関係記事被掲載資料年表」には、古書目録中の吉田巖著書の掲載状況や、編輯後記のような欄のちょっとした記述も収録されており、吉田巖及び吉田巖の著作に触れた論文、新聞記事を、微細な記述に至るまでよく確認していたようすがうかがえる。

(10) 同書の「あとがき」（小林正雄執筆）は、「先生すでに老境に入られ、その意気はまだまだ壮年をしのぐものがありますが、夜間の執筆・読書が不可能の状態に陥られてから月日を経ました。この上の労を先生に強いるに忍びません。遺憾ながら一たん打切らざるを得ない所以であります。」と記している。このことについては小林正雄「吉田巖先生の生涯」『北海道の文化』第4号、1963年9月（若干の補訂・改稿ののち『吉田巖伝記資料』に再録）も参照。

(11) 『吉田巖伝記資料』の序文による。

(12) 吉田巖著、小林正雄・帯広市図書館編『書簡自叙伝 帯広叢書 No.16』帯広市教育委員会、1972年の「あとがき」による。これによれば、改題したのは出版事務担当を帯広市教委社会教育課から帯広市図書館に移管したためである。

に関わる資料について、これだけのボリュームが継続的に刊行されているのは、他には北海道教育委員会による、いわゆる「金成マツノート」の整理・翻刻・出版事業（1978年度から毎年1冊刊行）など僅かな例しか見当たらず、『叢書』は、この点でも数少ない重要な蓄積となっている。また帯広市図書館では、2005年までに「遺稿資料」のほとんどについてマイクロフィルム撮影を行い、閲覧利用にはこのマイクロフィルムまたは原資料のコピー製本を供しており、2006年度の新館移転と併せて、利用条件も整備されてきている⁽¹³⁾。

しかし一方で、「遺稿資料」の膨大な分量とその内容からすれば、これまでに『叢書』として刊行されたものは依然として一部にとどまっていることも確かである。また「遺稿資料」以外の資料情報については、一部⁽¹⁴⁾を除いて今までほとんど集約されたことがない。吉田巖の、生涯にわたってアイヌと関わった経歴、交友を持った研究者・教育者らの多彩な顔ぶれ、そして著作及び関連する資料の豊富さからすれば、吉田巖の足跡・業績全体を俯瞰しつつ、これら既存の資料整理・公刊事業に関わる情報を集約しておくことが、これらの貴重な資料群をアイヌ文化・アイヌ史の学習・研究等に活用するための条件整備として有益かつ必要ではないだろうか。

本書のもとになった研究課題「吉田巖関係資料の調査研究」は、このような目的意識のもと、「遺稿資料」のほか他機関所蔵の関係資料を含めた資料・情報の収集と整理をすすめてきたものである⁽¹⁵⁾。

(13) ただし、「遺稿資料」の資料整理の問題に関わって残念なこととして、吉田巖の没後から現在まで幾度もの保管場所の移動や整理作業が行われたことによるためであろうか、いわゆる資料の原秩序がほとんどうかがえなくなっていることを断っておかねばならない。例えば「遺稿資料」中の稿本類には、表紙に「行記三十一」との如く「行記」の二文字と漢数字が記されているものが多く見られる。これらは、その整理年代や内容から、1911年の皇太子行啓に際して平取に侍従が派遣され、吉田がこれに「拜謁」してアイヌについて説明を行ったときに、その準備と「献上」のために作成された資料に付けられたものと思われるが、現在の遺稿資料のマイクロフィルムやコピー製本では、この資料がバラバラに配列されている。もっとも、これは生前の吉田による資料の保管・使用状況を反映している可能性もある。

(14) いわゆる民具資料については、北海道家庭学校所蔵資料中のアイヌ民族資料（吉田巖と親交を持った同校職員品川義介が吉田を通じて収集した資料）や板橋区立郷土資料館所蔵石田収蔵資料中の関係資料（人類学者石田収蔵が吉田巖の仲介により収集した資料）の紹介が行われている。また財団法人啓明会の事業として河野常吉と吉田巖が行ったアイヌ文化・アイヌ史の調査事業について、その関係資料が河野本道選『アイヌ史資料集』（第2期）に収録されている（この事業において吉田巖が作成した資料については、『叢書』の中で順次公刊されている）。

(15) 研究課題の成果報告を書誌としてまとめることにしたのは、多くの記録と著作を遺した吉田巖の業績を包括的に把握するためには、このようなかたちが有効だと考えたことによるが、アイヌ文化研究の分野におけるこのような研究情報整備の必要性をかねてから感じていることも、理由の一つである。例えば文学、思想、民俗などの研究分野では、著名な作家、研究者についてはその書誌が作成され、人物研究の資料としてばかりでなく、その著作と関係資料に行き着くまでの手引き・案内として活用される例が多く見られる。しかしアイヌ文化研究では、このような基礎的な研究情報の集約・整理の事例は少なく、近年ようやく、知里幸恵、知里真志保、N.G.マンローについて書誌が刊行され、また河野常吉について北海道立図書館所蔵「河野常吉資料」を駆使した詳細な評伝が刊行されているなど、わずかな例を見るにすぎない。このような研究情報の整備は、公的な調査研究機関である北海道立アイヌ民族文化研究センターが担うべき役割の一つだと考える次第である。

4 本報告書の構成

本報告書の構成は、次のとおりである。

まず、吉田巖の業績の全体を把握するための手引きとして、「吉田巖著作目録」及び「吉田巖関係文献目録」を作成した。上述のとおり、これらについては既に吉田巖自身による「著作年表」と「被掲載年表」がある。本書ではそれらを下敷きにしつつ、吉田巖没後の出版物を中心としたデータの補足・整理を行い、新たに目録を組み直した。ただし、「吉田巖関係文献目録」については、吉田巖の著作を引用・参照した論文は極めて膨大な数量に及ぶため⁽¹⁶⁾、現時点ではそれらの全体の把握に至ることができず、本書ではそのほとんどを割愛せざるを得なかった。また吉田巖の動向を示す資料についても、例えば帯広、音更、芽室の3つのアイヌ学校の教員は年に数回の頻度でアイヌ学校での教育実践や学校経営等に関する「打合会」を開催しており、『十勝毎日新聞』などにはこれらに関する記事も散見できるが、やはり件数が多く、今回は原則として全て割愛した。これらの点について、「被掲載年表」には、そこに書き込まれた吉田巖自身の注記・説明書きとあいまって、吉田巖が生前目にした論文・新聞記事における自身の著作・資料からの引用・参照に関する膨大な情報が見られるが、本書にはほとんど反映できていない。

次に、これまでの『叢書』の内容を俯瞰するデータとして、『叢書』中の吉田巖関係の巻の細目を作成した。吉田巖によるアイヌ文化関係の調査は、日記の中に、その記録や、あるいは聞き取り内容そのものが記述されていることが多く、この点で日記はフィールドノートのような性格も有しているが、『叢書』には吉田巖の日記が1938年まで含まれており（2008年2月時点）、この細目を整備することで、吉田巖のアイヌ文化に関する調査の記録や、いわば一次資料的な記述の検索の手引きにもなると考えている。ただし、これについても、紙幅の制約などもあり、実際に作成しているデータから一部を抽出するにとどまっている。また、特に吉田巖が生徒の作品などを掲載している箇所については、プライバシーの問題等を考慮し、細目では氏名の掲載などを極力控えている。

さらに参考資料という位置付けで、「遺稿資料」及び「遺稿資料」以外の吉田巖関係資料のそれぞれの概要と、『アイヌ史資料集』など既刊の資料集の中で吉田巖の著作を翻刻または再録している文献の情報をまとめた。遺稿資料については、大きくは、日記などの文書類を中心に、図書、雑誌、書簡、写真などがあるが、本書では、全体の中で主要な位置を占められる文書類を中心に紹介することとし、図書、雑誌、写真、書簡については割愛した。（なお、図書・雑誌は、吉田巖の著作及

(16) 当研究センターを例にとると、研究紀要に掲載した論考の、主なものに限ってみても、本田優子「アイヌ農耕史研究にみられる伝承資料利用の問題点」（第1号掲載）、大谷洋一「「オンネバシクル」のアイヌ語原文資料」（第2号掲載）などが、吉田巖の論文及び吉田巖遺稿資料を主な資料の一つとして用いている。

び関係文献が多いので、著作目録及び関係文献目録によっておおその内容をうかがうことができる。書簡を割愛したのは、後述するプライバシーの問題によるが、概要は『帯広叢書』中の『書簡自叙伝』の細目を通してうかがうことができる。）

「遺稿資料」以外の吉田巖関係資料については、帯広市図書館以外の図書館等において所蔵を確認できた、吉田巖の書簡等の資料のほか、北海道立図書館が所蔵する1970年代に作成された「遺稿資料」のコピーを取り上げた。本書ではこれらの概要をまとめるとともに、特に道立図書館所蔵のコピーについて、“原本”である帯広市図書館での閲覧用資料との対応関係を整理した。

本報告書が、吉田巖による膨大な記録資料を検索し利用していくための条件を整え、もってアイヌ文化の学習・調査研究に寄与できるような、基礎的データを提供することになればと願っている。

最後に、吉田巖の著作と関係資料について、特に注意すべき点として著作権とプライバシーの問題を述べておきたい。吉田巖が記録・収集した資料の中には、学校の生徒の作文や提出物（家庭での伝統文化・習俗のようすなどを親から聞き取らせて提出させたものなどがある）が多く含まれている。また様々な資料の中の記述にも、地域の住民の生活状況等に関する記述が頻出する。これらの資料や記述は、吉田巖が学校教員や「土人保導委員（方面委員）」だったからこそ調査・記録できたものであろうことは十分認識しておかねばならない。これらの資料が、教育実践や生活実態に関する貴重な記録にもなっていることも確かであるが、一方で、プライバシーなど様々な問題を含むものも少なくない。これまでも、例えば『吉田巖日記』の公刊にあたっては私的な叙述を割愛する等の配慮が示されるなど、資料の公開や取扱いに注意が払われてきているが、これらの資料が永く適切に活用されるためには、閲覧・利用における不断の慎重な注意が求められる⁽¹⁷⁾。

(17) 本書においても、吉田巖遺稿資料の中でも多くの分量があり、研究者や教育・行政の関係者らとの交友関係、資料・情報のやりとりなどがうかがえる資料である書簡類については、プライバシーに関わる内容が多いことから、これに関する情報提供は今後の機会に譲ることにした。また本書に掲載した目録においても、このような情報を含む資料については、あえて情報の一部を割愛して記述した場合がある。

吉田巖 略年譜

〔出典〕『吉田巖伝記資料』中の「吉田巖年譜」（吉田巖著）をもとに、適宜「吉田巖日記」その他を参照して作成した。

年（元号）	こと
1882（明治15）	7月6日 福島県相馬郡中村町（現相馬市）にて生誕
1888（明治21）	4月 中村尋常高等小学校尋常科入学（1892年に高等科入学）
1895（明治28）	5月1日より学校日誌を書き始める。以後亡くなる直前まで日記の記入を継続。
1898（明治31）	4月 福島県立第四中学校（相馬中学校）入学。父死去。 6月 母、兄夫婦らが北海道豊頃村の興復社農場に移住。
1899（明治32）	「北海道旧土人保護法」成立、施行
1903（明治36）	3月 福島県立相馬中学校卒業 10月～11月 相馬中学校事務員として勤務
1904（明治37）	2月 鹿島尋常高等小学校代用教員となる
1905（明治38）	8～9月 北海道豊頃村の興復社の母らのもとを来訪。最初の北海道行。
1906（明治39）	6月 小学校を退職し北海道へ。 8月 釧路に上陸。9月から豊頃村役場に勤務。 11月 音更村音更尋常小学校教員となる。
1907（明治40）	4月 茅室村毛根尋常小学校教員に転任。同月准教員免許を受ける。 8月 毛根尋常小学校を退職、9月から北海道旧土人教育会の実業補習学校虻田学園の教員に着任。
1910（明治43）	7月 有珠山噴火、避難生活に入る。9月に学園生徒を帰郷させ、吉田巖は幡溪温泉にて転地療養。
1911（明治44）	1月 虻田第二尋常小学校の教員となる（教員白井柳治郎が札幌にて講習会出席の間の代理）。 4月 平取村荷負尋常小学校教員となる。 9月 皇太子（後の大正天皇）北海道行啓に際して平取村義経神社に侍従派遣、吉田巖は侍従に「引見」され「下問」を受ける。アイヌに関する調査記録類の目録を「献上」。
1913（大正2）	2月 荷負尋常小学校を辞任、豊頃村報徳教育所教員となる。（同教育所は1915年に尋常小学校となる。）
1914（大正3）	7月 本科正教員の免許を受ける。
1915（大正4）	12月 帯広の伏古第二尋常小学校の教員に転任、翌1916年1月に着任。妻テイも同校代用教員（裁縫科）となる（テイとは3月に結婚）。
1919（大正8）	このころ、財団法人啓明会による「アイヌ調査事業」に協力、調査資料の収集、執筆等を行う。 12月 第二伏古尋常小学校を日新尋常小学校と改称
1922（大正11）	7月 この年に北海道庁が創設した「保導委員」の委嘱を受ける。（1923年から「土人保導委員」、1932年から「方面委員」となる）
1923（大正12）	6月 北海道庁が開催した「全道土人学校長会議」に出席。
1927（昭和2）	5月～6月 北海道庁の命により、台湾の「学事調査」に出張。
1928（昭和3）	2月28日 秩父宮が日新尋常小学校を来訪。
1931（昭和6）	8月 日新尋常小学校閉校
1935（昭和10）	7月 北海道庁が主催した「旧土人保護施設改善座談会」に出席。
1936（昭和11）	9月 天皇北海道行幸。10月12日、札幌の大本営にて「方面委員の体験」を「奏上」。
1937（昭和12）	「北海道旧土人保護法」改正
1940（昭和15）	帯広市史編纂委員の委嘱を受ける。
1946（昭和21）	9月に北海道児童保護委員、12月に民生委員の委嘱を受ける。
1950（昭和25）	5月 日本人類学会特待会員となる
1953（昭和28）	7月 北海道教育研究所による北海道教育史編纂事業の委員の委嘱を受ける。 11月 著作及び草稿類を帯広市にて刊行する事業計画の話が起こる。
1963（昭和38）	5月頃から健康を害する。6月4日没

Ⅱ 吉田巖著作目録

〔凡例及び注〕

- 1 吉田巖による「著作年表」をもとに、編者の調査を踏まえて作成した。ただし、一部の文献については現物未確認のままである。掲載ページ等について確認できなかったものについては、当該データの記載を割愛した。
- 2 「発行年月日」「文獻名、所収書名、掲載ページ、発行者名」「備考」の順に記載している。単行本の場合は発行者名の後に続けてページ数を記載した。
- 3 新聞への連載については、原則として一件にまとめた。
- 4 吉田の名が著者として記されている文献であっても、吉田が「著作目録」ではなく「被掲載目録」のほうに挙げている場合がある。たいていは新聞記事であり、それぞれ吉田自身における何らかの認識にもとづくものと考えられるが、本書では、原則として著者名として吉田の名が明記されているもの、筆名であっても吉田であると判断できたものは、ここに掲載した。

発行年月日	表題、所収書名、ページ、発行者 備 考
1898	〔短歌一首〕『中学世界』第1巻第5号、106ページ、博文館
1902.3.10	〔短歌一首〕『国文学』第39号、45ページ、国文学雑誌社
1902.5.10	〔短歌一首〕『国文学』第41号、40ページ、国文学雑誌社
1902.8.10	〔短歌一首〕『国文学』第44号、34ページ、国文学雑誌社
1902.9.10	〔短歌一首〕『国文学』第45号、38ページ、国文学雑誌社
1903.7.10	〔短歌一首〕『国文学』第56号、34ページ、国文学雑誌社
1903.9.10	〔短歌一首〕『国文学』第58号、36ページ、国文学雑誌社
1904.11.3	〔短歌一首〕『読売新聞』
1907.3.25	「蝦夷ぶり」〔短歌〕『学友会雑誌』第2号、71～75ページ、相馬中学校学友会
1908.3.6	「続蝦夷ぶり」〔短歌〕『学友会雑誌』第3号、122～124ページ、相馬中学校学友会
1909.2.15	「続蝦夷ぶり」〔短歌〕『学友会雑誌』第4号、128～130ページ、相馬中学校学友会
1909.9.10	「アイヌの語義」『学友会雑誌』第5号、26～31ページ、相馬中学校学友会 「北海隠士」名で執筆
1910.1.20	「アイヌ子弟に対する余の感想」『学友会雑誌』第6号、32～37ページ、相馬中学校学友会
1910.1.20	「続々蝦夷ぶり」〔短歌〕『学友会雑誌』第6号、118～121ページ、相馬中学校学友会
1910.1.31	『北海道旧土人教育会虻田学園報』第1号、北海道旧土人教育会虻田学園 吉田巖が編輯兼発行者。自身は「北海道旧土人教育会虻田学園沿革」「教授雑感」「雑録」を執筆。「学園子弟の詞藻」も本文を執筆。
1910.2.28	『北海道旧土人教育会虻田学園報』第2号、北海道旧土人教育会虻田学園 吉田巖が編輯兼発行者。自身は「北海道旧土人教育会虻田学園沿革」「雑録」「時報」を執筆。
1910.3.31	『北海道旧土人教育会虻田学園報』第3号、北海道旧土人教育会虻田学園 吉田巖が編輯兼発行者。「北海道旧土人教育会虻田学園沿革」「痛哭二則」「祝賀二則」などは全文を執筆。
1910.4.30	『北海道旧土人教育会虻田学園報』第4号、北海道旧土人教育会虻田学園 吉田巖が編輯兼発行者。自身は「北海道旧土人教育会虻田学園沿革」「学窓寸言」などを執筆。
1910.6.30	『北海道旧土人教育会虻田学園報』第6号、北海道旧土人教育会虻田学園 吉田巖が編輯兼発行者。2～3面未見。「続北海道旧土人教育会虻田学園沿革」などを執筆か。(同学園報5号は未見。)
1910.7.10	「感ズルコトアリテ」『良友』第5号、有珠虻田土人学校良友会
1910.7.31	『北海道旧土人教育会虻田学園報』第7号、北海道旧土人教育会虻田学園 吉田巖が編輯兼発行人。「旧土人青年ノ教育」「学園子弟の思想界研究」を執筆。
1910.8.24、 25、27、31	桑原雷晏「噴火日誌／隠れたる「アイヌ」二教育家の手記」『東京日日新聞』3面 8月24日付から9月2日付までに計7回連載。有珠山噴火に関する吉田巖と白井柳治郎の「手記」を掲載。このうち吉田の分は7月22、23、24、25日付のものが8月24～31日付の紙面に掲載される。

発行年月日	表題、所収書名、ページ、発行者
1910.9.10	「学生と夏季休業」『学友会雑誌』第7号、30～36ページ、相馬中学校校友会 「北海隠士」名で執筆
1910.9.10	「[夕星]ほか新体詩10編」『学友会雑誌』第7号、88～95ページ、相馬中学校校友会
1910.9.10	「北海通信（冬の十勝）」『学友会雑誌』第7号、104～110ページ、相馬中学校校友会
1910.12.20	「有珠嶽とアイヌの伝説」『東京人類学雑誌』第26巻第297号、111～114ページ、東京人類学会
1911.1.20	「アイヌ命名考」『東京人類学雑誌』第26巻第298号、134～143ページ、東京人類学会
1911.2.20	「アイヌ命名考（承前）」『東京人類学雑誌』第26巻第299号、184～189ページ、東京人類学会
1911.3.10	「読書法」『学友会雑誌』第8号、41～55ページ、相馬中学校校友会 「北海隠士」名（目次では「吉田北海」）で執筆。
1911.7.10	「日本語とアイヌ語との比較」『人類学雑誌』第27巻第4号（通巻第304号）、221～226ページ、東京人類学会
1911.9.1	「日本語とアイヌ語との比較（続）」『人類学雑誌』第27巻第6号（通巻第306号）、358～364ページ、東京人類学会
1911.10.5	「星に関するアイヌの伝説」『北海之教育』第225号、334～340ページ（「寄書及通信」欄）、北海道教育連合会
1911.10.10	「星に関するアイヌの伝説」『東京人類学雑誌』第27巻第7号（通巻第307号）、396～401ページ、東京人類学会
1911.11.3	「ホトトギスにつきて」『学友会雑誌』第9号、30～35ページ、相馬中学校校友会 「北海隠士」名で執筆。
1911.11.3	「[おたより] 日高荷負 吉田巖先生」『良友』第17号、有珠虻田土人学校良友会
1911.12.10	「アイヌ語より見たる日本地名」『人類学雑誌』第27巻第9号（通巻第309号）、556～562ページ、東京人類学会
1912.1.10	「丹波大江山の語源につきて」『人類学雑誌』第28巻第1号（通巻第310号）、56～57ページ、東京人類学会
1912.2.10	「アイヌ語より見たる日本地名」『人類学雑誌』第28巻第2号（通巻第311号）、108～116ページ、東京人類学会
1912.4.10	「死に関するアイヌの観念と風習」『人類学雑誌』第28巻第4号（通巻第313号）、201～210ページ、東京人類学会
1912.5.10	「死に関するアイヌの観念と風習」〔前号の続き〕『人類学雑誌』第28巻第5号（通巻第314号）、267～274ページ、東京人類学会
1912.6.10	「アイヌのト笠禁厭」『人類学雑誌』第28巻第6号（通巻第315号）、314～328ページ、東京人類学会
1912.7.10	「夢に関するアイヌの説話」『人類学雑誌』第28巻第7号（通巻第316号）、394～403ページ、東京人類学会
1912.7.10	「樹木崇拜より来れりと思はるるアイヌの人名につきて」『人類学雑誌』第28巻第7号（通巻第316号）、426～427ページ、東京人類学会
1912.7.24	「アイヌに関する雑話」『学友会雑誌』第6号、25～37ページ、上川中学校校友会
1912.9.10	「アイヌ勇士物語」『東京人類学雑誌』第28巻第9号（通巻第318号）、532～546ページ、東京人類学会 構成：一、地勢と人物ノ二、サカナの祖とその育立ノ三、奥市の山狐ノ四、南北両勇士の初体面ノ五、熊の霊によりて美女を救ふノ六、再び深山に二美女を助くノ七、奥市党の征服ノ八、サカナの後裔と口碑
1912.9.30	「[アイヌ]ノ死ニ関スル観念」『人性』第8巻第9号、342ページ、人性学会 『人類学雑誌』第28巻第4号掲載からの抄録とあり。

発行年月日	表題、所収書名、ページ、発行者
1912.10.10	「アイヌ謎々集」『人類学雑誌』第28巻第10号（通巻第319号）、592～604ページ、東京人類学会
1912.11.20	「アイヌの古都」『学友会雑誌』第10号、28～39ページ、相馬中学校学友会 平取外八ヶ村に関する報告。
1913.2.1	「金の珠銀の珠（アイヌ童話）」『少女』第2号、22～26ページ、時事新報社
1913.5.28	「アイヌの童話、謎々」『民俗』第1年第1報、61～62ページ、人文社 物語は「人捕石と婆」。他に「俗謡」「謎々」からなる。
1913.9.25	「アイヌ童話」『民俗』第1年第2報、112～113ページ、人文社 物語の表題は「木菟〔つく〕の縫師」。
1913.8.10	「アイヌの桃太郎童話」『郷土研究』第1巻第6号、346～348ページ、郷土研究社
1913.10.25	「静慮庵慈隆尊師遺詠」『学友会雑誌』第11号、41～48ページ、相馬中学校学友会
1913.10.25	「在学当時の回想」『学友会雑誌』第11号、95～98ページ、相馬中学校学友会
1914.1.10	「アイヌの動物説話(一)（其一、鳥類説話）」『郷土研究』第1巻第11号、672～676（32～36）ページ、郷土研究社
1914.1.10	「アイヌ童話」『民俗』第2年第1報、36～39ページ、人文社 「大猫の宝琴」「六星と三星」の2編。
1914.2.10	「アイヌの動物説話(二)（其一、鳥類説話）」『郷土研究』第1巻第12号、745～750（41～46）ページ、郷土研究社
1914.2.20	「アイヌの命名につきて」『人類学雑誌』第29巻第2号（通巻第322号）、48～54ページ、東京人類学会
1914.3.20	「アイヌの英雄神話」『人類学雑誌』第29巻第3号（通巻第323号）、95～103ページ、東京人類学会
1914.4.10	「アイヌの学問」「物を言ふ犬」「アイヌの謎」『民俗』第2年第2報、109～110ページ、人文社 前2編は「サマイクル」の物語。
1914.5.1	「アイヌ人と鳥の啼き真似」『少年』第128号、35～36ページ、時事新報社 冒頭に同誌記者による紹介文あり。著者の肩書きとして「日高国荷負旧土人学校」とあり。
1914.5.5	「アイヌの鳥類説話(三)」『郷土研究』第2巻第3号、161～166（33～38）ページ、郷土研究社
1914.5.20	「アイヌの命名につきて（続）」『人類学雑誌』第29巻第5号（通巻第325号）、188～198ページ、東京人類学会
1914.6.1	「アイヌの鳥類説話四」『郷土研究』第2巻第4号、230～234ページ、郷土研究社
1914.7.1	「アイヌの鳥類説話(五)」『郷土研究』第2巻第5号、292～297（36～41）ページ、郷土研究社
1914.7.20	「アイヌの妖怪説話」『人類学雑誌』第29巻第7号（通巻第327号）、267～276ページ、東京人類学会
1914.7.20	「井上博士を弔す」『神祇の日本』
1914.9.20	「アイヌの写声語につきて」『人類学雑誌』第29巻第9号（通巻第329号）、373～375ページ、東京人類学会
1914.10.7	「相馬方言とアイヌ語」『学友会雑誌』第12号、58～62ページ、相馬中学校学友会 本文の表題は「愛奴語」
1914.10.20	「アイヌの妖怪説話（続）」『人類学雑誌』第29巻第10号（通巻第330号）、397～409ページ、東京人類学会
1914.11.20	「アイヌ謎集（後編）」『人類学雑誌』第29巻第11号（通巻第331号）、437～450ページ、東京人類学会
1915.1.20	「相馬方言とアイヌ語」『人類学雑誌』第30巻第1号（通巻第333号）、27～29ページ、東京人類学会

発行年月日	表題、所収書名、ページ、発行者
1915.2.20	「アイヌ語会話篇(一)『人類学雑誌』第30巻第2号(通巻第334号)、58～63ページ、東京人類学会 「一、十勝土人話(音更村の部)」を掲載。
1915.3.25	「アイヌの動植物名について」『人類学雑誌』第30巻第3号(通巻第335号)、100～102ページ、東京人類学会
1915.4.25	「身体に因めるアイヌの説話」『人類学雑誌』第30巻第4号(通巻第336号)、151～153ページ、東京人類学会 冒頭に、「竊に本誌上〔中略〕にて身体に因める説話の幾部分を既載したが更に補遺とも見る可き断片説話をものする」とあり。
1915.5.25	「アイヌ語会話篇(二)『人類学雑誌』第30巻第5号(通巻第337号)、190～193ページ、東京人類学会 「二、十勝土人話(伏古別村の部)」を掲載。
1915.6.25	「アイヌの婦女掠奪物語」『人類学雑誌』第30巻第6号(通巻第338号)、209～217ページ、東京人類学会
1915.8.25	「アイヌの婦女掠奪物語(二)『人類学雑誌』第30巻第8号(通巻第340号)、293～304ページ、東京人類学会
1915.9.25	「アイヌ語会話篇(三)『人類学雑誌』第30巻第9号(通巻第341号)、350～355ページ、東京人類学会 「三、十勝土人話(毛根、芽室太村の部)」「四、胆振土人話(白老村の部)」「五、胆振土人話(有珠村の部)」を掲載。
1915.10.25	「アイヌ語会話篇(四)『人類学雑誌』第30巻第10号(通巻第342号)、387～391ページ、東京人類学会 「六、胆振土人話(虻田村の部)」「七、釧路土人話(白糠村の部)」「八、日高土人話(荷負、幌去、二風谷、平取、シケレベ、ペナコリ、長知内村の部)」を掲載。
1915.11.25	「アイヌの天地山水説話」『人類学雑誌』第30巻第11号(通巻第343号)、425～431ページ、東京人類学会
1916.4.25	「アイヌの植物説話」『人類学雑誌』第31巻第4号(通巻第348号)、119～125ページ、東京人類学会
1916.4.25	「ドンボ舟について」『人類学雑誌』第31巻第4号(通巻第348号)、148ページ、東京人類学会
1916.5.25	「アイヌの発音上、母音 I と鼻音 ン との転呼について」『人類学雑誌』第31巻第5号(通巻第349号)、184～185ページ、東京人類学会
1916.6.25	「アイヌ語会話篇(五)『人類学雑誌』第31巻第6号(通巻第350号)、219～223ページ、東京人類学会 「七〔ママ〕、渡島土人話(長万部村の部)」を掲載。
1916.7.25	「アイヌの魚介類説話」『人類学雑誌』第31巻第7号(通巻第351号)、248～252ページ、東京人類学会
1916.8.25	「アイヌの蟲類説話」『人類学雑誌』第31巻第8号(通巻第352号)、267～272ページ、東京人類学会
1916.9.25	「アイヌの衣食住」『人類学雑誌』第31巻第9号(通巻第353号)、296～309ページ、東京人類学会 表紙の目次部分の掲載表題は「アイヌ衣食住」。
1916.9.25	「アイヌの言葉遣」『人類学雑誌』第31巻第9号(通巻第353号)、319ページ、東京人類学会
1916.10.25	「アイヌ学童の発音と使用語とにつきて」『人類学雑誌』第31巻第10号(通巻第354号)、340～347ページ、東京人類学会
1916.10.25	「アイヌ婦女夫の名を語らぬこと」『人類学雑誌』第31巻第10号(通巻第354号)、356～357ページ、東京人類学会
1916.10.25	「アイヌの遊戯」『東京人類学雑誌』『人類学雑誌』第31巻第10号(通巻第354号)、357ページ、東京人類学会
1916.11.25	「アイヌの生誕と命名とにつきて」『人類学雑誌』第31巻第11号(通巻第355号)、373～376ページ、東京人類学会 「本誌二六卷二九八・二九九号アイヌ命名考、三九卷三・五アイヌの命名につきての補遺資料」とあり。
1916.12.15	「相馬郷友会に寄す」〔短歌2首〕『相馬郷』第1号、6ページ、相馬郷友会
1916.12.15	「咏草」〔短歌9首〕『相馬郷』第1号、34～35ページ、相馬郷友会 「米国人類学博士スタール氏ひそかに吾アイヌ謎々集を刊行せられし折」の歌もあり。
1916.12.25	「アイヌの自家療法」『人類学雑誌』第31巻第12(第356号)号、394～396ページ、東京人類学会

発行年月日	表題、所収書名、ページ、発行者
1917.1.25	「アイヌと年頭所感」『人類学雑誌』第32巻第1号(通巻第357号)、15～21ページ、東京人類学会
1917.2.25	「アイヌの暦と十二箇月」『人類学雑誌』第32巻第2号(通巻第358号)、48～51ページ、東京人類学会
1917.2.25	「アイヌ学童より見たる彼等同族の現代風習」『人類学雑誌』第32巻第2号(通巻第358号)、56～68ページ、東京人類学会
1917.3.25	「アイヌの黥について」『人類学雑誌』第32巻第3号(通巻第359号)、81～83ページ、東京人類学会
1917.4.25	「阿夷奴哀歌：Kuyainu yupo」『阿夷奴研究』第1号、8～12ページ、日本阿夷奴学会 江賀寅三から採録した「Yaishama-ne」を対訳形式で掲載。冒頭に金田一京助による紹介文あり。
1917.5.25	「三田氏に対して」『人類学雑誌』第32巻第5号(通巻第361号)、144～145ページ、東京人類学会 『吉田巖日記』に「余の三田氏への言は、山田とニヶ所まで誤植、気の毒にくわんじた」とあり(第9、37ページ)。
1917.5.25	「温泉にものして」『石狩山中汽車の窓にて』『咏草』『相馬郷』第2号、52ページ、相馬郷友会 短歌8首ほか。
1917.7.25	「アイヌの祈祷詞」『アイヌ研究』第2号、11～15ページ、日本アイヌ学会 「明治四十三年一月一日北海道胆振国虻田村酋長エカシ・ワッカ神酒を捧ぐる際の詞」など4編を掲載。冒頭と末尾に小田切剣二による文章あり。掲載誌巻末「世評一斑」欄には第1号発行に関する新聞・雑誌の紹介記事を抄録。
1917.12.1	「瓦礫集」〔短歌19首〕『相馬郷』第3号、25～26ページ、相馬郷友会
1917.10.25	「カムイユカラ」『アイヌ研究』第3号、52ページ、日本アイヌ学会 「数年前日高国ボロサル村スケレベに於て故ヌカンロクテより得たるものである。」とあり。金田一京助による「附記」あり。掲載誌巻末「世評一斑」欄には第2号に関する新聞・雑誌の紹介記事を抄録。
1918.6.20	「閑田詠草」〔短歌23首〕『相馬郷』第4号、33～34ページ、相馬郷友会
1918.6.20	「北海道より」『相馬郷』第4号、57～58ページ、相馬郷友会
1918.5.15	「アイヌ ウチャスクマ」『アイヌ研究』第4号、79～81ページ、日本阿夷奴学会
1918.6.25	「アイヌの薬用並に食用植物」『人類学雑誌』第33巻第6号(通巻第374号)、161～164ページ、東京人類学会
1918.12.10	「閑田詠草」〔短歌11首〕『相馬郷』第5号、36～37ページ、相馬郷友会
1918.12.10	「北海道より」『相馬郷』第5号、39～40ページ、相馬郷友会 81ページ「編輯だより」にもこの号に掲載された吉田の文章について言及あり。
1919.6.20	「十勝より」『相馬郷』第6号、81ページ、相馬郷友会 本文表題は「十勝片信」。筆名「黙淵」。
1921.3.6	「アイヌのお話」『少女』第100号、14～15ページ、時事新報社 目次には著者の肩書きとして「伏古アイヌ小学校長」とあり
1921.9.15	「日高国沙流郡平取村地方誌資料」『平取外八箇村誌』152～161ページ、平取村外八箇村戸長役場
1922.7.19	「奉迎鶴駕」〔短歌1首〕『十勝毎日新聞』1面
1922.7.19、20	「旧土人の教育」『十勝毎日新聞』 19日は「旧土人の教育」と題し2面に掲載、20日は「旧土人教育(承前)」と題し1面に掲載。
1922.8.5	「帯広より」『相馬郷』第11号、76～77ページ、相馬郷友会
1922.8.5	「瓦礫集」『相馬郷』第11号、77～78ページ、相馬郷友会
1923.9.1	「アイヌ語地名解」『内観』第42号、9ページ、内観社
1924.1.1	「子の年に因だアイヌの鼠の説話」『十勝毎日新聞』15面
1924.1.16	「十勝アイヌの伝説／其の一／三星と六星」『十勝毎日新聞』3面
1924.1.17	「十勝アイヌの伝説／其の二／阿寒嶽の硫黄」『十勝毎日新聞』3面

発行年月日	表題、所収書名、ページ、発行者
1924.5.31	「短信」『相馬郷』第12号、30～31ページ、相馬郷友会 近況を報告。
1924.12.1	「アイヌの熊送り」『相馬郷』第13号、47～49ページ、相馬郷友会
1924.11.17	「熊の王子」『セツボシ』第12号、7～8ページ、七星社（札幌市）
1925.2.15	「熊送り」『セツボシ』第15号、5ページ、七星社（札幌市）
1925.3.1	「コロボックル考」『北道』第2巻第2号、19～29ページ、北海道社（帯広町）
1925.3.1	「論者に與ふ」『北道』第2巻第2号、30～32ページ、北海道社（帯広町）
1925.3.1	「瓦礫集」〔短歌10首〕『北道』第2巻第2号、70ページ、北海道社（帯広町）
1925.3.15	「キナンボ（アイヌの童話）」『セツボシ』第16号、8ページ、七星社（札幌市）
1925.4.1	「成吉思汗は源義経也の論駁につきて」『北道』第2巻第3号、23～30ページ、北海道社（帯広町）
1925.4.1	「瓦礫集」〔短歌15首〕『北道』第2巻第3号、40ページ、北海道社（帯広町）
1925.4.10	『北海道河西郡庁立日新尋常小学校要覧』20ページ
1925.4.15	「海鮑と海月（クラゲ）」「梟とイケマ」『セツボシ』第17号、8ページ、七星社
1925.5.18	「猿と兎」『セツボシ』第18号、5ページ、七星社
1925.5.5	「原元辰の母」『北道』第2巻第4号、36ページ、北海道社（帯広町） 「熟淵」名で執筆
1925.5.6	「瓦礫集」〔短歌16首〕『北道』第2巻第4号、42ページ、北海道社（帯広町）
1925.6.17	「狐の毛色と河獺の頭」『セツボシ』第19号、5～6ページ、七星社
1925.6.30	「十勝名蹟神居沼伝説」『相馬郷』第14号、61ページ、相馬郷友会
1925.7.5	「杓子定規」『北道』
1925.7.5	「資格」『北道』
1925.7.18	「だまされ狐」『セツボシ』第20号、7ページ、七星社 目次のタイトルは「だまされた狐」
1925.8.15	〔狂歌1首〕『北道』
1925.8.15	「將軍遺訓」『光』
1926.3.15	「序文」工藤梅次郎著『アイヌ民話』、9～12ページ、工藤書店〔小樽市〕
1926.12.25	「短信及挨拶」『相馬郷』第17号、48ページ、相馬郷友会
1926.12.31	『北海道河西郡帯広町伏古旧土人地調査資料』、32ページ 発行所は北海道庁立日新尋常小学校、発行者は吉田巖。
1926	〔祝歌四首〕『靈泉誌』4ページ、寺島写真館（本別） 発行月日の記載なし。本別中村神社の葛内重胤の米寿を記念して発行。祝賀の歌の中に吉田のものあり。
1927.4.15	『北海道庁立日新尋常小学校要覧』
1927.9.10	『台湾学事調査復命書（写）』、105ページ

発行年月日	表題、所収書名、ページ、発行者
1927.9.10	『台湾の旅』、45ページ 日誌体の記述と歌からなる。
1929.12.1	〔短歌1首〕『昭和歌人名鑑』
1927.12.25	〔短信及挨拶〕『相馬郷』第19号、53ページ、相馬郷友会 近況を報告。
1927.12.25	〔短歌〕『台湾まで』『相馬郷』第19号、115～122ページ、相馬郷友会 吉田巖『台湾の旅』巻末の短歌からの抜粋。冒頭に編集者によると思われる紹介文があり、「紀行誌『台湾の旅』から転載させて戴きました」と記す。
1929.12.28	〔蝦夷の黥について〕『相馬郷』第23号、3～6ページ、相馬郷友会
1929.12.28	〔十勝通信〕『相馬郷』第23号、35ページ、相馬郷友会
1929.12.28	〔かしこみてよめる〕〔短歌22首〕『相馬郷』第23号、57ページ、相馬郷友会 秩父宮の日新尋常小学校来訪に際しての「御下問」に対し「奉答しまつりけるにかしこみてよめる歌の中」とあり。
1929.12.28	〔故森要人兄を弔す〕『相馬郷』第23号、82ページ、相馬郷友会 森要人は相馬出身、台湾台南第一中学校教員。
1929.12.	『北海道庁立日新尋常小学校要覧』1枚、折り畳み。 発行年月日記載なし。「昭和4年12月末現在」とあり。
1930.12.15	〔狂歌2首〕『内外調査通信』
1930.12.20	〔岩崎宗山先生遺芳〕『相馬郷』第25号、46～52ページ、相馬郷友会 吉田が自身の日記の中から岩崎宗山とのやりとりの記録などを紹介。
1931.1.15	〔熊送〕『蝦夷往来』創刊号、10～13ページ、尚古堂 「未定稿」と付記された「熊送の意義」と題した文章を含む。
1931.1.15	〔「吉田巖氏より」〕として吉田の書翰を掲載』『蝦夷往来』創刊号、25ページ、尚古堂 同号掲載「熊送の意義」に関する説明などを記す。
1931.4.12	〔アイヌの飢饉について〕『蝦夷往来』第2号、51～52ページ、尚古堂
1931.6.1	〔アイヌの俗伝と夢〕『蝦夷往来』第3号、78～79ページ、尚古堂
1931.11.1	〔十勝アイヌの話〕『郷土研究』第5巻第6号、37～42ページ、郷土研究社
1931.12.22	〔短信〕『相馬郷』第26号、33ページ、相馬郷友会 9月14日の挨拶文。日新尋常小学校閉校のことなどを記す。
1932.3.20	〔北海談叢(1)〕『蝦夷往来』第7号、19～21ページ、尚古堂
1932.5.20	〔短歌73首〕『さくら花』第1巻第3号、3～4、5～6、7～8、13ページ、さくら花社 「なむあみだぶつ」「国境の雨」「傷心」「春より夏に」と題した短歌を掲載。
1932.6.20	〔短歌44首〕「懐旧のうた及び近詠」『さくら花』第1巻第4号、2ページ～、さくら花社 「春の風」「アイヌの歌」「伏古土人学校の懐旧」「春の雨」ほかの題による短歌を掲載。
1932.10.10	〔アイヌの伝説について〕『北海道郷土史研究』89～114ページ、日本放送協会北海道支部
1933.2.28	〔アイヌの熊送〕『学友会雑誌』第30号、相馬中学校 この号の編集後記にも吉田に関する記述あり。
1933.8.1	〔コタン情景〕『ドルメン』第2巻第8号〔北海特輯号〕、45～49ページ、岡書院
1934.5.1	〔短歌1首〕『短歌研究』第3巻第5号
1934.9.1	〔短歌1首〕『短歌研究』第3巻第9号
1934.10.19	〔アイヌ訪問者に〕『北海タイムス』5面
1934.10.20	〔アイヌ写真と絵葉書〕『北海タイムス』5面
1934.10.23	〔コサンケアシ翁と語る〕『北海タイムス』7面

発行年月日	表題、所収書名、ページ、発行者 備考
1934.12.1	〔短歌1首〕『短歌研究』第4巻第12号
1934.12.8、 11、13	「十勝伏古の聖蹟を忍びて／アイヌ学校と神居沼」(上)(中)(下)『北海タイムス』
1935.1.1	「聖哲に聴く」『北海道社会事業』第33号、49～50ページ
1935.1.20	「還暦を祝ふ」『北門甲報』
1935.2.1	「コタン・ニュース」『ドルメン』第4巻第2号、14～16ページ、岡書院
1935.3.	「十勝伏古の聖蹟を偲びて：アイヌ学校と神居沼」『帯広中学校柏葉会誌』第7号、16～20ページ
1935.4.1	「アイヌ説話」『蝦夷往来』第14号、45～56ページ、尚古会 冒頭に「悉くアイヌ語で蒐集した二百話程の中から胆振のと十勝のとを十四則訳して見た」とあり。
1935.7.10	「アイヌと熊」『民族学研究』第1巻第3号、50～73ページ、三省堂
1935.8.1	「コタンそのをりをり(十勝・伏古)」『ドルメン』第4巻第8号、38ページ、岡書院
1935.8.21、 23、27	「蝦夷秘帖／アイヌと熊の話」(上)(中)(下)『東京朝日新聞』
1935.10.	〔座談会出席、発言あり〕「旧土人保護施設改善座談会」『北海道社会事業』第42号、2～70ページ、北海道社会事業協会
1935.12.20	「観菊御会御召宴拝戴記」『北海道社会事業』第44号、2～7ページ、北海道社会事業協会
1936.1.1	「観菊御会御召宴の光栄に浴して」『帯広市教育』第4号、2～6ページ、帯広市教育会
1936.3.25	「ありし日の「日新小学校」について」『柏葉』第8号、3～4ページ、帯広中学校柏葉会
1936.06.18 ～19	「日食とアイヌ」『小樽新聞』
1936.6.18 (下)は未見	「日食とアイヌ」(上)『十勝毎日新聞』4面
1936.8.25	「旧土人保護施設改善概案」『北海道社会事業』第52号、14～25ページ、北海道社会事業協会
1936.9.20	「アイヌへの御仁慈の跡」『北海道社会事業』第53号、38～47ページ、北海道社会事業協会
1936.9.20	「アイヌ族を歌ふ」『北海道社会事業』第53号、96～97ページ、北海道社会事業協会
1936.10.15	「伝奏謹記」『方面時報』
1936.10.25	「方面事業奏上の光栄」『北海道社会事業』第54号、10～15ページ、北海道社会事業協会 同誌巻頭の口絵写真にも吉田の肖像写真掲載。
1936.10.25	「賜饗を賜はりたる感激」『北海道社会事業』第54号、40～41ページ、北海道社会事業協会
1936.10.25	「御盛徳をたたふる歌」『北海道社会事業』第54号、100～101ページ、北海道社会事業協会
1936.11.10 ～15	「北海道先住民族に就て」『十勝毎日新聞』 全6回連載。各回とも4面に掲載。
1936.11.20 ～22、25～27	「アイヌの風習」(→)～(六)『北海タイムス』
1936.11.25	「方面委員の体験」『方面時報』

発行年月日	表題、所収書名、ページ、発行者
1936.12.25	「地方行幸を仰きて」〔短歌23首〕「故相馬子爵閣下を追悼りまつりて」〔短歌4首〕『相馬郷』第30号、54～58ページ、相馬郷友会
1936.12.25	「相馬郷友会便り」〔吉田の書簡掲載〕『相馬郷』第30号、98～99ページ、相馬郷友会
1936.12.25	「方面委員の体験」『相馬郷』第30号、147～150ページ、相馬郷友会
1936.12.26	「天恩感激謹記」『帯広市教育』行幸記念号、13～16ページ、帯広市教育会
1937.1.1	「運用を一步誤ればウタリは減ぶ／旧土人保護法の改正を中心に」『十勝毎日新聞』19面 吉田巖談の記事。
1937.1.20	「アイヌの正月」『北海道社会事業』第57号、92～99ページ、北海道社会事業協会
1937.1.20	「新年言志」〔短歌4首〕『北海道社会事業』第57号、99ページ、北海道社会事業協会
1937.11.1	「行幸記念日謹詠」〔短歌26首〕『北海道社会事業』第66号、62～63ページ、北海道社会事業協会
1938.12.	「応召家族と酷な小作料」『北海道社会事業』第79号、51～54ページ、北海道社会事業協会
1939.1.1	「イベチカレ物語」『北海道社会事業』第80号、42～47ページ、北海道社会事業協会
1939.3.1	「アイヌのさけび（江賀寅三君に聴く）」『北海道社会事業』第82号、26～29ページ、北海道社会事業協会
1939.3.1	「ウタリを歌ふ」〔短歌20首〕『北海道社会事業』第82号、40～41ページ、北海道社会事業協会
1939.4.1	「ホテネ物語」『北海道社会事業』第83号、28～33ページ、北海道社会事業協会
1939.8.1	「アイヌの恐怖観念と風習」『北海道社会事業』第87号、28～35ページ、北海道社会事業協会
1940.1.1	「懷郷春秋」『北海道社会事業』第92号、54～57ページ、北海道社会事業協会
1940.1.15	「天恩感激謹記」帯広市役所（編）『聖駕奉迎録』帯広市役所
1940.8.1	「銃後の歌」〔短歌12首〕『北海道社会事業』第99号、26ページ、北海道社会事業協会
1940.8.1	「塩と砂糖」『民族文化』第4号、8～9ページ、山岡書店
1940.11.10	「日本民族の誇り／式典参列を前にアイヌ同胞の近況を語る」『小樽新聞』夕刊3面
1940.11.30	「帯広市史稿編纂事業経過報告」『帯広市教育』第8号、10～12ページ、帯広市教育会
1940.12.1	「紀元二千六百年式典・奉祝会参列記」『北海道社会事業』第103号、2～5ページ、北海道社会事業協会
1940.12.1	「式典・奉祝会に参列して」〔短歌9首〕『北海道社会事業』第103号、31ページ、北海道社会事業協会
1940.12.20	「漢字化せるアイヌ語地名」『小樽新聞』夕刊3面
1941.7.19	「[ハガキ回答] 蔵書自慢」『北海タイムス』夕刊3面
1943.6.13	「[全国貯金奨励功労者座談会]の記録」『篤志家に聴く 貯金奨励の体験』貯金局、41ページ 吉田巖座談会出席、発言あり。
1948.8.10	「アイヌの伝説について」『辺境北海道』118～1534ページ、北方書院
1950.11.15	「喜びを語る」『帯広市弘報』第2号、帯広市役所 本書Ⅲも参照。

発行年月日	表題、所収書名、ページ、発行者
1952.3.	「古川コサンケン翁談叢」『民族学研究』第16巻第3・4号、116～126ページ、日本民族学協会
1952.6.20	「新入墨〔アシリバシ〕のにおい」『霧笛』第3号、7～12ページ、十條製紙釧路工場
1953.5.5	「コタンのささやき」『教育新潮』第4巻第5号、26～29ページ
1953.10.25	「古稀譚叢：十勝アイヌ11故老の談話記録」『民族学研究』第17巻第3・4号、83～93ページ、日本民族学協会
1955.10.15	『愛郷誌料 東北北海道アイヌ古事風土記資料 帯広市社会教育叢書1』帯広市教育委員会
1956.2.1	「あのころ」『十勝教育』第14号、13～14ページ、十勝教育局 北海道へ渡ってきた頃の記憶を綴る。
1956.3.25	「杖のみたま：十勝アイヌ故老の談話記録」『民族学研究』第19巻第3・4号、135～154ページ、日本民族学協会
1956.12.25	「雪履について(1)」『まどのゆき』第15号、4ページ、積雪科学館〔新潟大学工学部内〕
1957.1.25	「雪履について(2)」『まどのゆき』第16号、9ページ、積雪科学館
1957.7.5	「アイヌの話」『樹氷』第7巻第7号、46～56ページ、帯広営林局
1957.8.1	「林野の十勝」『樹氷』第7巻第8号、10～17ページ、帯広営林局
1956.8.15	『日新随筆 東北北海道アイヌ古事風土記資料 帯広市社会教育叢書2』帯広市教育委員会
1957.11.3	『愛郷譚叢 東北北海道アイヌ古事風土記資料 帯広市社会教育叢書3』帯広市教育委員会
1958.11.3	『愛郷草子 東北北海道アイヌ古事風土記資料 帯広市社会教育叢書4』帯広市教育委員会
1959.11.3	『愛郷往来 東北北海道アイヌ古事風土記資料 帯広市社会教育叢書5』帯広市教育委員会
1960.12.25	『愛郷春秋 東北北海道アイヌ古事風土記資料 帯広市社会教育叢書6』帯広市教育委員会
1963.3.30	「伏古の旧土人教育」北海道教育研究所（編）『北海道教育史 全道編3』256～303ページ、北海道教育委員会
1964.5.31	『吉田巖伝記資料 帯広市社会教育叢書9』帯広市教育委員会、106ページ 編註：小林正雄。編集者：帯広市教育委員会社会教育課。
1965.3.30	『アイヌ童話 帯広市社会教育叢書10』帯広市教育委員会、77ページ 編者：小林正雄。
1966.2.15	『アイヌよもやまばなし 帯広市社会教育叢書11』帯広市教育委員会、120ページ 編註：小林正雄。
1966.1.25	「『十勝日誌』について」『郷土研究』第4号、49～53ページ、郷土研究社 冒頭に角田東耕による紹介文あり。角田が十勝新聞社在職中の1934年に依頼し執筆してもらっていた原稿だと記す。
1967.3.31	『愛郷歌集 上巻 帯広市社会教育叢書12』帯広市教育委員会、73ページ 編者：小林正雄。編集者：帯広市教育委員会社会教育課。
1968.3.31	『愛郷歌集 下巻 帯広市社会教育叢書13』帯広市教育委員会、99ページ 編者：小林正雄。編集者：帯広市教育委員会社会教育課。
1970.3.31	『とちあいにぬ研究 帯広市社会教育叢書14』帯広市教育委員会、86ページ 編者：小林正雄。編集者：帯広市社会教育課。
1971.3.31	『筆にまかせて 付・日新堂漫筆 帯広市社会教育叢書15』帯広市教育委員会、62ページ 編者：小林正雄。編集者：帯広市図書館。
1972.3.30	『書簡自叙伝 帯広叢書16』帯広市教育委員会、83ページ 編者：小林正雄。編集者：帯広市図書館。
1973.1.30	『書簡自叙伝 続編 付 吉田巖集 帯広叢書17』帯広市教育委員会、89ページ 編者：小林正雄。編集者：帯広市図書館。

発行年月日	表題、所収書名、ページ、発行者
1974.3.20	『書簡自叙伝 拾遺 帯広叢書18』帯広市教育委員会、74ページ 編者：小林正雄。編集者：帯広市図書館。
1979.3.25	『吉田巖日記 第1 帯広叢書20』帯広市教育委員会、128ページ 編者：小林正雄。編集者：帯広市図書館。
1979.11.5	『吉田巖日記 第2 帯広叢書21』帯広市教育委員会、239ページ 編者：小林正雄。編集者：帯広市図書館。
1981.1.30	『吉田巖日記 第3 帯広叢書22』帯広市教育委員会、362ページ 編者：小林正雄。編集者：帯広市図書館。
1981.9.30	『吉田巖日記 第4 帯広叢書23』帯広市教育委員会、263ページ 編集：小林正雄。編集者：帯広市図書館。
1982.12.30	『吉田巖日記 第5 帯広叢書24』帯広市教育委員会、183ページ 編集：小林正雄。編集者：帯広市図書館。
1983.5.20	『アイヌ史資料集 第二期 第一巻 吉田巖著作編(一)』北海道出版企画センター 河野本道選。内訳は本書Vに記載。
1983.12.30	『吉田巖日記 第6 帯広叢書25』帯広市教育委員会、178ページ 編集：小林正雄。編集者：帯広市図書館。
1984.1.20	『アイヌ史資料集 第二期 第二巻 吉田巖著作編(二)』北海道出版企画センター 河野本道選。内訳は本書Vに記載。
1984.6.30	『アイヌ史資料集 第二期 第三巻 吉田巖著作編(三)』北海道出版企画センター 河野本道選。内訳は本書Vに記載。
1984.12.30	『吉田巖日記 第7 帯広叢書26』帯広市教育委員会、118ページ 編集：井上寿。編集者：帯広市図書館。
1986.3.30	『吉田巖日記 第8 帯広叢書27』帯広市教育委員会、119ページ 編集：井上寿。編集者：帯広市図書館。
1987.2.14	『吉田巖日記 第9 帯広叢書28』帯広市教育委員会、115ページ 編集：井上寿。編集者：帯広市図書館。
1988.1.30	『吉田巖日記 第10 帯広叢書29』帯広市教育委員会、111ページ 編集：井上寿。編集者：帯広市図書館。
1988.12.25	『吉田巖日記 第11 帯広叢書30』帯広市教育委員会、104ページ 編集：井上寿。編集者：帯広市図書館。
1989.5.20	『北海道あいぬ方言語彙集成』小学館、278ページ
1990.1.31	『吉田巖日記 第12 帯広叢書31』帯広市教育委員会、92ページ 編集：井上寿。編集者：帯広市図書館。
1991.2.25	『吉田巖日記 第13 帯広叢書32』帯広市教育委員会、162ページ 編集：井上寿。編集者：帯広市図書館。
1992.2.20	『吉田巖日記 第14 帯広叢書33』帯広市教育委員会、174ページ 編集：井上寿、吉田ヨシ子。編集者：帯広市図書館。
1993.2.20	『吉田巖日記 第15 帯広叢書34』帯広市教育委員会、179ページ 編集：井上寿、吉田ヨシ子。編集者：帯広市図書館。
1995.3.	『吉田巖資料集 1 帯広叢書35』帯広市教育委員会、304ページ 帯広市図書館（帯広叢書編集委員会）編集。
1995.6.	『吉田巖資料集 1 帯広叢書35（原資料編）』帯広市教育委員会、190ページ 帯広市図書館（帯広叢書編集委員会）編集。
1996.6.	『吉田巖資料集 2 帯広叢書36』帯広市教育委員会、274ページ 帯広市図書館（帯広叢書編集委員会）編集。
1996.6.	『吉田巖資料集 2 帯広叢書36（原資料編）』帯広市教育委員会、172ページ 帯広市図書館（帯広叢書編集委員会）編集。
1996.9.	『吉田巖資料集 3 帯広叢書37』帯広市教育委員会、249ページ 帯広市図書館（帯広叢書編集委員会）編集。
1996.9.	『吉田巖資料集 3 帯広叢書37（原資料編）』帯広市教育委員会、42ページ 帯広市図書館（帯広叢書編集委員会）編集。
1997.7.	『吉田巖資料集 4 帯広叢書38』帯広市教育委員会、271ページ 帯広市図書館（帯広叢書編集委員会）編集。
1997.7.	『吉田巖資料集 4 帯広叢書38（原資料編）』帯広市教育委員会、48ページ 帯広市図書館（帯広叢書編集委員会）編集。

発行年月日	表題、所収書名、ページ、発行者
1998.3.	『吉田巖資料集 5 帯広叢書39』帯広市教育委員会、273ページ 帯広市図書館（帯広叢書編集委員会）編集。
1998.3.	『吉田巖資料集 5 帯広叢書39（原資料編）』帯広市教育委員会 帯広市図書館（帯広叢書編集委員会）編集。ページ番号記載なし。
1998.11.	『吉田巖資料集 6 帯広叢書40』帯広市教育委員会、315ページ 帯広市図書館（帯広叢書編集委員会）編集。
1998.11.	『吉田巖資料集 6 帯広叢書40（原資料編）』帯広市教育委員会、63ページ 帯広市図書館（帯広叢書編集委員会）編集。
1999.3.	『吉田巖資料集 7 帯広叢書41』帯広市教育委員会、290ページ 帯広市図書館（帯広叢書編集委員会）編集。
1999.3.	『吉田巖資料集 7 帯広叢書41（原資料編）』帯広市教育委員会、36ページ 帯広市図書館（帯広叢書編集委員会）編集。
1999.8.25	『吉田巖資料集 8 帯広叢書42』帯広市教育委員会、277ページ 帯広市図書館（帯広叢書編集委員会）編集。
2000.1.31	『吉田巖資料集 9 帯広叢書43』帯広市教育委員会、262ページ 帯広市図書館（帯広叢書編集委員会）編集。
2000.1.31	『吉田巖資料集 9 帯広叢書43（原資料編）』帯広市教育委員会、48ページ 帯広市図書館（帯広叢書編集委員会）編集。
2000.12.20	『吉田巖資料集 10 帯広叢書44』帯広市教育委員会、324ページ 帯広市図書館（帯広叢書編集委員会）編集。
2000.12.20	『吉田巖資料集 10 帯広叢書44（原資料編）』帯広市教育委員会 帯広市図書館（帯広叢書編集委員会）編集。ページ番号記載なし。
2001.3.8	『吉田巖資料集 11 帯広叢書45』帯広市教育委員会、256ページ 帯広市図書館（帯広叢書編集委員会）編集。
2001.9.28	『吉田巖資料集 12 帯広叢書46』帯広市教育委員会、281ページ 帯広市図書館（帯広叢書編集委員会）編集。
2002.3.12	『吉田巖資料集 13 帯広叢書47』帯広市教育委員会、278ページ 帯広市図書館（帯広叢書編集委員会）編集。
2002.9.25	『吉田巖資料集 14 帯広叢書48』帯広市教育委員会、314ページ 帯広市図書館（帯広叢書編集委員会）編集。
2003.3.15	『吉田巖資料集 15 帯広叢書49』帯広市教育委員会、299ページ 帯広市図書館（帯広叢書編集委員会）編集。背には「（原資料付）」とあり、巻末に原資料掲載のページあり。
2003.10.25	『吉田巖資料集 16 帯広叢書50』帯広市教育委員会、286ページ 帯広市図書館（帯広叢書編集委員会）編集。
2004.3.30	『吉田巖資料集 17 帯広叢書51』帯広市教育委員会、302ページ 帯広市図書館（帯広叢書編集委員会）編集。
2004.10.30	『吉田巖資料集 18 帯広叢書52』帯広市教育委員会、239ページ 帯広市図書館（帯広叢書編集委員会）編集。
2005.3.31	『吉田巖資料集 19 帯広叢書53』帯広市教育委員会、274ページ 帯広市図書館（帯広叢書編集委員会）編集。
2005.3.30	『北海道あいぬ方言語彙集成 復刻版』帯広叢書編集委員会、278ページ 1989年小学館発行の復刻版。判型をB5判に拡大。
2006.2.28	『吉田巖資料集 21 帯広叢書55』帯広市教育委員会、270ページ 帯広市図書館（帯広叢書編集委員会）編集。
2007.3.30	『吉田巖資料集 23 帯広叢書57』帯広市教育委員会、270ページ 帯広市図書館（帯広叢書編集委員会）編集。

Ⅲ 吉田巖関係文献目録

〔凡例及び注〕

- 1 記載事項とそれぞれの書式等は、基本的にはⅡ「吉田巖著作目録」と同様である。
- 2 吉田巖による「被掲載目録」をもとに、編者による調査を踏まえて作成している。ただし、新聞記事を中心に、現物を確認できなかったものであっても、情報としての重要性があると判断したものはこの目録に掲載した。
- 3 1928年の秩父宮来訪をはじめ、1911年行啓や1936年行幸に関しては、特に新聞記事にはその事前の予告や事後の「感激」談の紹介なども含めて多くの関係記事があるが、ここでは編者の確認できた幾つかを例示するにとどめている。
- 4 新聞記事については、掲載紙の日付、紙面とした。夕刊では実際の発行が前日である場合が多いので注意されたい。

発行年月日	編著者、表題、所収書名、ページ、発行者名
1908. 7. 14	吉田勿来『風月余情』服部書店、252ページ
1910. 1. 1	「隠れたる高士」『自強』第4号、4～5ページ
1910. 4. 1	「虻田学園生の消息と和歌」『心の花』第14巻第4号
1911. 11. 3	「平取村へ御使」『良友』第17号、有珠虻田土人学校良友会 皇太子行啓記念号。「『各地土人への奉迎』中の「一九」。「因に虻田補習学校に在職せられし吉田巖先生は特に召されて土人のことにつき明細に言上したりとて別項の通信にも見えたり」と記す。
1914. 3. 5	「編集室より」『郷土研究』第2巻第1号、64ページ、郷土研究社 「アイヌ動物説話は蝦夷教祖オキクルミ伝説〔この号掲載の金田一京助「蝦夷教祖オキクルミ」を指すと思われる〕完結の後に譲り」とあり。
1914. 4. 5	「蝦夷人の命名」『郷土研究』第2巻第2号、63ページ、郷土研究社 「雑報」欄記事。「蝦夷人の命名に就いての面白い調査報告が愈復活した人類学雑誌の二月に出ている。報告者は吉田巖君で…」とあり。「アイヌの命名につきて」(『人類学雑誌』第29巻第2号)の紹介。
1914. 9. 20	南方熊楠「アイヌの珍譚」『人類学雑誌』第29巻第9号(通巻第329号)、371～372ページ、東京人類学会 第29巻第5号掲載吉田巖「アイヌの命名につきて(続)」に触れた話題から書き起こす。
1915. 10. 25	「アイヌ古代風俗の研究について」『東京人類学雑誌』第30巻第10号、363～367ページ、東京人類学会 アイヌの髪容に関する「四月の本誌」における吉田巖の報告を紹介。
1916. 2. 25	「アイヌの珍譚追記」『人類学雑誌』第31巻第2号、65ページ、東京人類学会
1916. 11. 9	「伏古神社建設」『とち新聞』
1917. 2. 25	三田智大「吉田巖氏の「アイヌ学童の発音と使用語とにつきて」に数言を加ふ」『人類学雑誌』第32巻第2号(通巻第358号)、45～47ページ、東京人類学会
1917. 5. 25	西村真次「舟の事ども」『東京人類学雑誌』第32巻第5号、143～144ページ、東京人類学会 「コドンボ舟の語義」において吉田巖「ドンボ舟について」(『人類学雑誌』第31巻第4号)を取り上げる。なお「(一)KATAMARANに就て」は筆名「よ、い」なる者の文章に関するもので、この筆者について「どうせ吉田巖氏か、伊能嘉矩氏かと思ふけれども」と記されているが、吉田巖は日記でこれを「おかし」と評している(『吉田巖日記』第9、37ページ)。
1917. 6. 12	「国境を越えて」『富の帯広』
1917. 6. 21	「児童の赤心」『とち新聞』
1917. 7. 26	「土人教育打合」『とち新聞』
1917. 10. 4	帯広支局一記者「帯広へ来た／若い外人夫妻／私がガイドの役目／伏古の土人学校へ案内する」『小樽新聞』5面 吉田巖留守につき妻が応対。イラスト2点掲載、。
1917. 10. 25	南方熊楠「アイヌの珍譚追記」『人類学雑誌』第32巻第10号(通巻第366号)、316ページ、東京人類学会
1917. 11. 15	「旧土人の写真」『十勝教育会報』第58号、十勝教育会
1918. 3. 27	「来賓にユカラを披露する／伏古土人学校の卒業式」『小樽新聞』5面 伏根弘三が「ユカラ」を披露とあり。
1918. 6. 15	磯部精一『北海道地名解』富貴堂書房、168ページ 同書中には出典、参考文献名等に吉田の名も確認できないが、「吉田巖日記」によると、吉田は著者より同書の寄贈を受け「先年余の解答せしものをその中に採り、且先達人口統計をも送ったものを組入れてあった」(第10、17ページ)等の記述を散見できる。「被掲載年表」では「吉田巖地名原文」と記している。
1918. 11. 1	高橋一子「アイヌ語」『婦人画報』第153号、48ページ、東京社 「十勝国」に住む著者からの投稿。「此頃主人はアイヌ小学校の校長で隠れたアイヌ語学学者の方とお近づきになりまして」とあり、以下この「校長」を通して聞いた話などを記す。

発行年月日	編著者、表題、所収書名、ページ、発行者名 備 考
1919.6.28	〔十勝の薬用植物に関する記述に資料・方法を提供か〕「薬用植物」『旧土人に関する調査』北海道庁 本項は「被掲載年表」に「薬用植物」とあることによる。同書第4款「衛生」の第11項「疾病に対する加持祈禱其の他迷信並土人間に於ける治療薬及治療方法等」の中の薬用植物に関する調査に吉田巖が資料・情報を提供したものか。
1919.9.25	〔「謝辞」ほか〕「現代「アイヌ」土人の歯並〔?〕研究」第1回報告『日本歯科口腔学会会報』第2号、16,68ページ
1920.1.1	「伏古部落の土人学校に／吉田校長を訪ふ／熱心なるアイヌ研究家（上）／年々減少する学童／旧土人の生活状態」『小樽新聞』4面
1920.1.3	「伏古部落の土人学校に／吉田校長を訪ふ／熱心なるアイヌ研究家（下）／貯蓄心の向上と／伝来の教訓種々」『小樽新聞』4面
1920.4.1	「蝦夷王の館を訪れて」『婦人画報』第170号、46～52ページ
1920.4.20	「アイヌの風俗」『十勝教育会報』第80号、6ページ、十勝教育会
1920.9.6	「伏古アイヌの消息」『少女』第94号、44ページ
1920.9.8	「北海道みやげ博士の一語」『少年』第206号、59ページ
1921.2.1	〔吉田のアイヌ語地名に関する記述を引用〕『民族と歴史』第5巻第2号、168ページ
1921.5.1	「北海道史界の状況」『歴史地理』第37巻第5号、434ページ
1921.3.6	「アイヌのお話」『少女』第100号、14～15ページ
1921.9.25	「吉田先生」『十勝教育会報』第91号、3～4ページ、十勝教育会
1922.3.25	「吉田校長表彰」『十勝教育会報』第94号、2ページ、十勝教育会
1922.5.15	「アイヌ頽廢の原因」『人道』第201号、7～8ページ、人道社
1923.6.1	「日新禁酒会創立」『禁酒之日本』
1923.6.9	「土人学校長会議」『北海タイムス』 吉田出席。会議関係記事は他にもあり。
1923.7.1	「信州とアイヌの伝説」『内観』第40号
1924.6.13	「勿来君の弟」『煙霞勝遊記 上巻』、99ページ（「帯広から江別」の条）
1924.7.20	「日新小学校」『いそがぬ旅』129～130ページ
1924.8.28	「山室軍平氏帯広視察」『十勝毎日新聞』
1925.2.20	「日新小学校職員児童」〔口絵写真〕『十勝宝鑑』
1925.6.8	紅花生〔池田紅花先生〕「アイヌの村の御はなし」『学びの国』第3巻第17号、8～11ページ、兵庫 県立土山学園内児童自治会 「昔ばなし」として「ヒバリノシケジリ」を紹介。
1925.11.3	〔吉田の書翰を掲載〕小谷部全一郎『成吉思汗は源義経也 再論』313～314ページ
1926.1.1	「北方文明研究会の近状」『民族』第1巻第2号、141ページ、民族発行所 「その後同会へ入会せられたる氏名及び研究題目」の中に「吉田巖」の名あり。研究題目は「アイヌ研究資料の蒐集」。同会設立に関する記事は同誌第1巻第1号にあり。
1926.8.15	〔吉田による出品を含む目録〕『北海道歴史館陳列品解説』
1926.8.15	金田一京助「アイヌ研究の現状」『啓明会第十八回講演集』、15～31ページ、啓明会事務所
1926.10.18	〔十勝の薬用植物に関する記述に資料・方法を提供か〕『北海道旧土人概況』、北海道庁 「被掲載年表」に「吉田調査薬草引用」とあることによる。1919年の「旧土人に関する調査」と同様、同書の中の薬用植物に関する調査に吉田巖が資料・情報を提供したものか。

発行年月日	編著者、表題、所収書名、ページ、発行者名 備 考
1926.11.30	「吉田〔日〕新校長／蕃童学校視察」『十勝毎日新聞』 面不明。吉田巖遺稿中のスクラップによる。
1927.3.28	「義捐金拠出記事」『北海タイムス』
1927.5.19	「日新小学校長／台湾出張」『十勝毎日新聞』 面不明。吉田巖遺稿中のスクラップによる。
1927.5.29	「消息」〔吉田巖の台湾出張出発を報じる〕『小樽新聞』2面
1927.7.1	「伏古アイヌを訪ねて」『禁酒新聞』
1927.7.15	佐藤憲治「十勝便り」『相馬郷』第18号、49頁、相馬郷友会 吉田巖の消息に言及あり。
1927.8.7	「狩勝峠」『サンデー毎日』第6年第35号、36ページ
1927.9.1	〔吉田巖書翰〕菊池山栽『賤民族の研究』
1927.9.13	〔吉田先生蕃社報告〕『十勝新報』
1927.9.15	「伏古互助組合」喜多章明『十勝あいぬのあしあと、その後のみち』45～50ページ、十勝アイヌ旭明社
1927.9.18	『郵便貯金奨励篤志家芳名録』140ページ、貯金局
1927.9.18	〔学事復命書写〕『十勝新報』
1927.9.27	「台湾の旅」『十勝新報』
1927.10.1	「台湾行」〔短歌28首〕『十勝新報』 「被掲載目録」による。以後同月2、4、5日付にも同題による短歌掲載とあり。
1927.10.13	「生田蝶介氏」『北海タイムス』
1927.10.14	「帯広在伏古のアイヌ学校」『東京日日新聞』12面
1928.2.1	「小学校長表彰」『十勝新報』
1928.2.29	「伏古日新校に御成り」『釧路新聞』2面
1928.2.29	「秩父宮殿下／帯広釧路行啓に／伏古土人部落見学」『室蘭毎日新聞』3面
1928.3.25	「秩父宮殿下御立寄り」『十勝教育会報』第130号、19ページ、十勝教育会
1928.7.25	〔吉田恭重任官〕『相馬郷』第20号、3ページ、相馬郷友会
1928.8.	「北海行脚」『法施』第24巻第8号、15～17ページ、寒山寺〔大阪市〕 日新尋常小学校来訪記事。
1928.9.2	「日新校長会見記」『婦女新聞』第1473号、9ページ
1928.12.5	「富田久助小倉七郎君エ」『相馬郷』第21号、相馬郷友会
1929.5.18	「囚人逮捕」『十勝新報』
1929.6.1	「即決六ヶ月」『北海タイムス』
1929.9.5	品川義介「アイヌ類廃の原因」『我羊独語』、217～225ページ、白雲山荘（札幌市） 「僕は吉田君を訪問して、殆んど半日を氏のアイヌ教育談に耳を傾けた」とあり。
1930.3.21	「目覚めゆく十勝アイヌ」『十勝新報』
1930.9.25	「郷土研究家録」『歴史教育』第5巻第7号、60ページ

発行年月日	編著者、表題、所収書名、ページ、発行者名 備 考
1930.10.1	千葉命吉「北へ！北へ！：秋田北海道樺太の独創教育講演旅行」『独創〔むすび〕』第2巻第7号、29～36ページ、大日本独創学会 帯広にて日新尋常小学校を来訪、吉田巖の案内を受ける。
1930.10.1	前田夕暮「伏古アイヌコタンの土人学校を訪ふ」『文芸春秋』第8年第11号、7～10ページ、文芸春秋社
1930.11.25	前田夕暮「伏古アイヌコタンの土人学校を訪ふ」『十勝教育会報』第146号、32～35ページ、十勝教育会
1931.3.1	「全道の先進組合／十勝帯広町伏古コタンの現状」『蝦夷の光』第2号、36～37ページ、北海道アイヌ協会
1931.3.1	「〔蝦夷月旦〕吉田巖君」『蝦夷の光』第2号、47ページ、北海道アイヌ協会 人物の近況や短評を記した欄。執筆は喜多章明か。
1931.5.1	「田村イネ画「スズラン」掲載」『コドモアサヒ』第9巻第5号、27ページ、朝日新聞社 「ミナサンノエ」欄。日新尋常小学校生徒作品。
1931.6.1	河野広道「アイヌの織物染色法」『蝦夷往来』第3号、65～73ページ、尚古堂 70～71ページ、「十勝伏古附近アイヌの染色法（昭和六年二月、吉田巖氏よりの返信）」を掲載。
1931.6.18	「伏古の土人学校」前田夕暮『朝青く描く』201～209ページ、白帝書房
1931.6.28	「郷土史講座／前十時／アイヌの伝説／吉田巖」〔ラジオ放送告知及び紹介記事〕『小樽新聞』6面 写真（「日新小学校のアイヌ児童」）あり。
1931.6.28	廿八日放送〔ラジオ放送番組の告知。吉田巖による「郷土史講座アイヌの伝説について」あり〕 『釧路新聞』夕刊2面
1931.7.25	「アイヌの伝説について」『新天地』第49号、3ページ
1931.8.1	田村吉郎「土人教育界の功労者／吉田日新校長先生を送る」『蝦夷の光』第3号、10～12ページ、北海道アイヌ協会
1931.8.1	河野広道「墓標の型式より見たるアイヌの諸系統」『蝦夷往来』第4号、101～121ページ 112ページ、注35として吉田巖「死に関するアイヌの観念と風習」を紹介。
1931.9.1	「佐々木誠自画像「ワタシノカホ」掲載」『コドモアサヒ』第9巻第9号、朝日新聞社 「ミナサンノエ」欄。日新尋常小学校生徒作品。
1931.11.15	「既に原稿を受領し次号に掲載する旨の予告」『蝦夷往来』第5号、目次ページ、尚古堂 次号に「北海談叢」を掲載予定とあり。（第6号は「北海道先史時代遺物展覧会陳列品目録」の特輯号であり、第7号に掲載。）
1932.3.6	「保導委員に記念品」『北海タイムス』
1932.4.15	河野広道「アイヌの一系統サルンクルに就て」『人類学雑誌』第47巻第4号、137～148ページ、東京人類学会 「奥羽アイヌとサルンクルとの関係」の項で、吉田巖から河野常吉に宛てた書簡の内容を紹介。
1933.6.30	「伏古部落の生活」『十勝毎日新聞』
1933.6.30	「日新校復活論」『十勝毎日新聞』
1933.7.2	「アイヌ博物館の位置」『十勝毎日新聞』
1933.7.29	「日進〔ママ〕校復活／実情に適するアイヌ教育／部落民も出現を望む」『十勝毎日新聞』4面
1933.9.21	「豊穡の伏古へ」『十勝毎日新聞』
1934.1.1	「秩父宮殿下御成記念（姉妹篇）」貫塩喜蔵「アイヌの同化と先蹤」85～101ページ、北海小群更生団 日新尋常小学校への秩父宮来訪について記した武田ユミ「秩父宮殿下の御成を仰ぎまつりて謹みて感想を述ぶ」、武田ナミ「秩父宮殿下御成を記念し奉りて謹みて感想をものす」と、貫塩法枕（喜蔵）による註記などからなる。
1934.8.13	名取武光「アイヌの狩猟信仰」『北海タイムス』
1935.2.9	「吉田巖の消息」『無量光』
1935.4.1	「吉田巖の消息」『野人の叫び』第51号

発行年月日	編著者、表題、所収書名、ページ、発行者名 備 考
1935.6.1	〔府県視察一行の写真〕『北海道社会事業』第38号、口絵写真ページ、北海道社会事業協会 「北海道社会事業視察団」の記念写真。写真中に吉田巖の姿あり。
1935.6.1	「宇治山田、京都両市の社会施設を視る」「社会事業視察経過」『北海道社会事業』第38号、34～37、37～44ページ、北海道社会事業協会 上記視察団の記録。前者は辻周造、後者は奥村源八による。この視察団に吉田巖も参加、日記に関連記述あり。「著作年表」では「社会事業視察報告」とし、「奥村源八名義にて発表」とある。
1935.6.1	小松生「第六回全国方面委員大会状況」『北海道社会事業』第38号、49～52ページ、北海道社会事業協会 1935年4月25～27日熊本市にて開催。吉田巖も参加。この文章中「第一委員会」の「協議事項」のところに「本道よりは帯広市の方面委員吉田巖氏が委員として参加し意見を開陳した」とあり。
1935.7.4	「方面委員大会功労者表彰」『北海タイムス』3面
1935.7.11	「旧土人保護施設改善座談会」『北海タイムス』
1935.8.15	〔吉田巖表彰記事〕『方面時報』第4年第5号
1935.8.25	〔被表彰方面委員 事業功労者に関する記事〕『北海道社会事業』第40号、北海道社会事業協会
1935.8.29	「旧土人の教育に／半生を送られた／吉田巖先生の／「心の碑」大歓迎／多年の研究を小冊子に」『北海毎日新聞』4面
1935.9.6	高倉新一郎「〔ブック・レビュー〕吉田巖著『心の碑』」『北海タイムス』6面
1935.9.7	「元アイヌ学校の校長吉田巖さん／その体験を編んだ著書が／高貴の方の蔵書に加へらる」『北海タイムス』8面（勝銅根北版） 秩父宮関係記事。
1935.9.19	〔福島県人の巻〕『十勝新報』
1935.9.20	〔『心の碑』の紹介〕『帯広市広報』第18号
1935.10.1	「蝦夷の黄金」『文藝春秋』第13巻第10号
1935.11.5	「観菊御会御召者」『北海タイムス』3面
1935.11.7	「“アイヌの慈父”／献身の奉仕三十年／光る「心の碑」／帯広吉田巖氏の研鑽」『東京日日新聞』12面（北海道樺太版）
1935.11.15	「観菊会に召された功労者二十五名」『方面時報』第4年第8号
1935.11.19	『記念館について』帯広中学校 「被掲載目録」による。「謄写印刷」とあり。
1935.11.20	「社会事業功労者観菊御召」『帯広市広報』第20号
1935.11.21	〔帯広中学校記念館落成式記事〕『北海タイムス』8面 記念館は日新尋常小学校の移築。式典に吉田巖出席。
1935.11.28	〔吉田巖寄付〕『北海タイムス』
1935.12.14	「会員吉田巖氏」『義士精神』第39号、32ページ、中央義士会 「会員消息」欄。方面委員としての「観菊御会」への「御召」の件を記す。
1936.1.15	「アイヌ教化に捧ぐ春風秋雨二十余年／隠れたる篤学者吉田巖氏」『北海タイムス』7面
1936.3.25	西本俊雄「柏の花」『柏葉』第8号、139～140ページ、帯広中学校柏葉会 記念館に言及した箇所あり。

発行年月日	編著者、表題、所収書名、ページ、発行者名 備 考
1936.7.1	「社会事業功労者表彰」『北海道社会事業要覧』 1936年6月現在
1936.7.12	「アイヌ文字の渦紋／賛否二説に示唆／謎の神秘へ鍵／帯広吉田巖氏も登場」『東京日日新聞』14面（北海道樺太面）
1936.7.16	「アイヌ文字に金田一氏手痛い反駁」『東京日日新聞』12面（北海道樺太面）
1936.7.15	高倉新一郎「緑陰に語る／伏古村の旧土人／ホテネ君談話聞書」『北海道社会事業』第51号、88～93ページ 冒頭部分で高倉が日新尋常小学校に吉田巖を訪れたときのことなどを記す。
1936.8.15	「伏古互助組合」『北海道社会事業』第52号、104～106ページ 波寧生「北海道社会事業風土記 帯広の巻」の一部。
1936.8.20	「慈愛は無限なり／裏街の太陽／かつてはアイヌ民族の慈父／帯広の吉田巖氏」『旭川新聞』8面（北見十勝釧路根室日高胆振版）
1936.8.30	「伏古部落の小祠」『国史教育の改善〔啓明会紀要20〕』、94～95頁、啓明会
1936.9.3	古屋芳雄「民族の黄昏(一)／アイヌを減ぼす結核」『東京朝日新聞』9面 データは縮刷版による。以下この連載は同様。伏古でのアイヌに対する医学調査に関する記事。調査に当たって吉田巖の協力を得たとあり。
1936.9.4	古屋芳雄「民族の黄昏(二)／アイヌの歴史」『東京朝日新聞』9面
1936.9.5	古屋芳雄「民族の黄昏(三)／アイヌの訓育」『東京朝日新聞』9面
1936.9.13	「異例民間功労者の体験を／具に上聞に達す」『東京朝日新聞』12面（北海樺太版）
1936.9.15	「旧土人の生活状態／御進講の光栄／帯広市の吉田巖氏」『小樽新聞』夕刊2面
1936.9.25	「輝く単独拝謁者／管内六功労者を内定」『十勝毎日新聞』3面 内定者中に吉田巖の名あり。
1936.9.25	「選ばれた功労者／拝謁の光栄に（上）」『北海タイムス』8面（釧路根北版）
1936.10.8	「単独拝謁者60名の記念写真」『東京日日新聞』12面 60名の中に吉田巖あり。
1936.10.15	「光栄に浴したる方面委員の体験」『方面時報』第5年7月号
1936.10.25	「[社会事業グラフ]光栄の社会事業功労者」『北海道社会事業』第54号、巻頭写真、北海道社会事業協会 吉田巖のほかジョン・パチュラー、牧野虎次の肖像写真を掲載。
1936.11.27	金田一京助「随筆ゆうから」章華社、349ページ 134ページ、吉田巖が1917年に『アイヌ研究』に報告した神謡を紹介。
1936.11.1	「図書週間講演」『北海タイムス』
1936.11.3	「光栄の人々四／旧土人の教化に全生涯を捧げて／北海道方面委員吉田巖」『十勝新聞』3面
1936.11.15	「方面委員の体験」『方面時報』第5年第9号 「被掲載目録」による。肖像掲載とあり。
1936.11.20	「図書館週間」『帯広市公報』第32号、321ページ 図書館週間の講演会にて吉田が講演（11月7日、「先住民族の風習に就いて」）したことを記す。
1936.11.25	「聖旨奉戴式挙行」『北海道社会事業』第55号、108ページ、北海道社会事業協会 開催予告の記事。閉式後に「所感発表」を行う予定者のうち社会事業関係の一人に吉田巖の名あり。
1936.11.25	「各市町村新方面委員囑託」『北海道社会事業』第55号、110～111ページ、北海道社会事業協会 帯広市の方面委員に吉田巖の名あり。
1936.12.26	「吉田・井後両方面委員に／蒔絵硯箱下賜さる／昨日、光栄の伝達式」『北海タイムス』3面
1936.12.26	「光栄の蒔絵硯箱／方面委員として功労顕著／吉田、井後氏に伝達式」『小樽新聞』夕刊3面
1936.12.26	「方面事業功労者を御表彰／皇太后殿下御沙汰」『東京朝日新聞』夕刊1面
1936.12.27	「輝く社会事業功労／名利を求めず、老躯を献け尽す／吉田翁に重なる感激」『十勝毎日新聞』3面
1937.1.20	「社会事業ニュースグラフ」『北海道社会事業』第57号、口絵写真ページ、北海道社会事業協会 方面事業功労者に対する「御下賜品伝達式」後の記念写真掲載。
1937.1.20	長橋茂男「社会事業家に望む」『北海道社会事業』第57号、4～7ページ、北海道社会事業協会 吉田巖の「伝奏」に言及。
1937.1.20	「本道方面事業の労績者顕彰」『北海道社会事業』第57号、北海道社会事業協会 吉田巖の履歴を紹介。

発行年月日	編著者、表題、所収書名、ページ、発行者名 備 考
1937.1.20	「後記」知里真志保『アイヌ民譚集』164～165ページ、郷土研究社 知里真志保がアイヌに関する偏見の原因の一つとして様々なメディアや著作の影響を挙げる中で、「その他教育家のくせに『アイヌと熊』などといふ街奇的な題目を掲げて、ジャーナリストに迎合し、以て世人の印象を誤らしむる徒輩もある」と記す。吉田の名は確認できないが、「被掲載目録」の指摘により収録した。
1937.4.25	「〔蟬の唄〕について吉田巖発表記事に対する言及」知里真志保『アイヌ民俗研究資料 第二』、71、75ページ、アチックミュージアム
1937.6.20	「皇太后陛下より／栄誉の御下賜／全生涯を社会事業に捧げた／吉田巖氏報ひらる」『十勝新聞』2面
1937.6.23	「吉田氏の光栄／蒔絵硯箱下賜」『北海タイムス』8面
1937.8.27	「吉田巖氏」『方面事業功労者実績』、内務省社会局
1937.11.22	千葉太郎（作）『アイヌ神話ニ依ル放送童話劇「日の神〔トカプチカムイ〕」異変』帯広市柏小話方研究会、26ページ。 「昭和十二年十一月二十二日午後六時ヨリ帯広放送局 JOOG 開局記念日ニ」とあり。「後記」に、吉田巖の教示を受け著作を参考にした旨の記述あり。
1937.11.28	「吉田巖のアイヌ教育に言及」『帯広商工会史』46、47ページ、帯広商工会
1937.12.5	「訪吉田巖君於土人学校」『朝枝松撰翁詩文集稿』、7ページ
1938.1.1	「〔本道の社会事業家を語る〕吉田巖君」『北海道社会事業』第68号、48～53ページ、北海道社会事業協会
1938.4.15	「〔トピック〕〔吉田巖近況並に写真〕」『十勝新報』3面
1939.1.31	「吉田巖採録の口承文芸を引用」松村武雄「神話の通語様式」『民族学研究』第5巻第1号、日本民族学会39～40ページ、注52で引用。
1939.5.13	「〔一日一題〕半生をアイヌに／元日新校長吉田巖氏」『北海タイムス』4面（釧勝根北版）
1940.11.5	「召される光栄／「アイヌの父」／吉田翁の半生」『東京朝日新聞』8面（北海道樺太版）
1941.1.1	金関丈夫「アイヌにも欠歯の風習があったか」『民族文化』第2巻第1号、1ページ 『人類学雑誌』第29巻第5号の吉田巖の報告の紹介あり。
1941.6.25	「アイヌ族へ温き思遣り／教授法を改めよ／吉田氏（帯広）が提唱」『東京日日新聞』6面（北海道樺太版(2)）
1941.9.7	「バチェラ氏の欠点補正／アイヌ語辞典編纂／吉田老の研究着々進む」『小樽新聞』夕刊2面
1942.3.20	村上久吉「吉田巖翁」『あいぬ人物伝 附あいぬ教育功労者伝』178～187ページ、平凡社
1942.6.10	「街の功労者に大臣賞／築上げた百億突破の金字塔」『北海タイムス』4面（釧勝根北版） 国民貯蓄の功労者全道で36名表彰、表彰者中に吉田巖の名あり。
1942.9.30	「長官表彰」〔個人氏名15名中に吉田巖あり〕 『北海タイムス』3面
1942.11.1	「アイヌ剣術と影の流」『日本武道』第5巻第11号、28～34ページ 吉田からの教示による記述あり。
1942.11.4	「佳節に薫る功労者」『北海道新聞』3面
1943.3.26	「「帯広市史」成る／吉田氏の編纂」『毎日新聞』4面（総合面「帯広・十勝」欄）
1943.5.16	「市史の編纂／記念式典迄に稿本完成」『北海道新聞』（札幌版）
1943.6.16	「帯広市史脱稿」『北海道新聞』4面（釧・勝・根総合版）
1946.6.11	「吉田先生を救へ／気の毒な生活苦」『アイヌ新聞』第1号、7面、アイヌ新聞社
1946.11.10	「方面委員表彰」『北海道新聞』2面
1947.10.15	「蝦夷の研究」「蝦夷とアイヌ」『多摩史談』第15巻4、5号 「被掲載目録」による。『人類学雑誌』第30巻第6号の吉田巖の論文を引用とあり。
1947.11.1	斎藤米太郎「終戦後のアイヌ問題：此の拙文を吉田巖先生に捧ぐ」『民族学研究』第12巻第2号、65～72ページ、彰考書院 『アイヌ問題研究所紀要』第3輯（1961年）に再録あり。
1948.11.3	「開発功労者にきく(二)／アイヌに禁酒」『北海道新聞』2面

発行年月日	編著者、表題、所収書名、ページ、発行者名
	備 考
1948.11.9	「足跡を残した人々／帯広市吉田巖氏／アイヌの慈父として敬愛せらる」『北海道日日新聞』 「被掲載目録」による。
1948.12.10	「吉田巖氏の栄誉」『北の光』創刊号、31～32ページ、北海道アイヌ協会 北海道開発八十年功労賞表彰に関する記事。
1949.9.25	「『開発功労者表彰』中の「社会事業功労者」5名の中に吉田巖の名あり」『開道八〇年記念行事 録』100ページ、北海道行政調査室
	「夙に旧土人の育成に力を尽くし、その生活向上を図ると共に社会福祉の増進に尽瘁した。」とあり。
1950.9.20	「病床でつゝるアイヌ語辞典」『北海道新聞』夕刊2面
1950.10.23	「アイヌの父に初の文化奨励賞」『東北海道』2面
1950.11.2	「帯広市文化奨励賞／晴れの受賞者決まる」『北海道新聞』
1950.11.15	「初の文化奨励賞／吉田翁と平原社」『帯広市弘報』第2号、2～3ページ、帯広市役所 「喜びを語る」(受賞者の談話)、受賞者の写真なども掲載。本書Ⅱも参照。
1951.4.10	「吉田のアイヌ研究について」『新しい十勝の姿』19ページ、 「被掲載目録」による。
1951.4.30	鈴木尚「本州北端に於ける近世アイヌの痕跡について」『人類学雑誌』第62巻第1号、1～10 ページ、日本人類学会 参考文献中に吉田巖「死に関するアイヌの観念と風習」あり。
1951.9.6	「アイヌの父病床に／研究結果を学界に／研究出版に悩み」『東北海道』2面
1951.11.2	「[われらの文化財] アイヌ研究の金字塔」『朝日新聞』
1952.1.21	「道東アイヌの風俗史」『東北海道』 「被掲載目録」による。
1952.1.21	斎藤米太郎「ウタリーの足跡」『東北海道』4面
1952.1.31	「全滅に瀕するアイヌ部落／悪ブローカーが介在／土地も建物も高利貸の手に(伏古部落)」『東北海道』 吉田巖の談話掲載。
1952.3.30	更科源蔵、渡辺茂「北海道の伝説」柏葉書院、300ページ 「アイヌ祖先伝説」ほか吉田巖の発表した伝承を多数掲載。
1952.5.30	江賀寅三「アイヌ教育史話」『日高教育情報』第6号
1952.7.17	「“開拓時代の帯広”を語る座談会」『北海道新聞』 「被掲載目録」による。
1952.8.4	金田一京助「[忘れられない人] 吉田巖さん」『朝日新聞』
1952.8.6	「あの頃の帯広を語る」『弘報おびひろ』第31号 「被掲載目録」による。
1952.8.28	「アイヌ花矢など61点／吉田翁が郷土博物館へ」『北門新報』2面
1952.9.20	江賀寅三「アイヌ教育史話四」『日高教育情報』第9号 江賀寅三による虻田学園時代の回想
1952.9.24	手塚富雄「アイヌの人」『朝日新聞』 「被掲載目録」による。
1952.9.30	「文化奨励賞帯広市史稿」『帯広の生いたち』250～260ページ 「被掲載目録」による。
1952.10.15	江賀寅三「アイヌ教育史話(五)」『日高教育情報』第10号
1952.10.17	「道文化賞受賞社決る」「道文化賞に輝く吉田氏／十勝アイヌの恩人」『北海道新聞』5、6面 6面は帯広・十勝版。5面に吉田の談話掲載(見出し「アイヌ語辞典の完成に努力」)掲載。
1952.10.18、	「アイヌの童話」(上)(中)(下)『北海道新聞』6面(帯広・十勝面) 19、21 吉田巖の「アイヌの童話」より転載とあり。「麦の由来」「鬼とサマイクル」「鶴と熊との戦争」「有珠山の火口」「無慈悲の報」「油断大敵」「狐の魚釣り」「懸果の賜」「木兎の縫師」を掲載。
1952.11.5	角田隆一「[展望] 公民館と市教委」『北海道新聞』 「被掲載目録」による。
1952.11.15	「アイヌの父吉田巖翁」『おびひろ弘報』第33号 「被掲載目録」による。吉田巖の道文化賞受賞に関する記事。
1952.12.7	「道文化賞贈呈式」『北海道新聞』夕刊2面 「被掲載目録」による。
1953.2.1	〔特集 社会調査〕『民族学研究』第17巻第1号、4ページ 特集の座談会のうち「I 我が国における社会調査の沿革」の「2 人類学的調査について」で「アイヌについては吉田巖、その他の人々が協力して行っています」との発言(杉浦健一)あり。

発行年月日	編著者、表題、所収書名、ページ、発行者名 備 考
1953.3.30	〔主として地名解〕『清水町五十年史』16、30、31頁 16ページ注1及び30、31ページに吉田の談などに基づくとする記述あり。
1953.12.8	〔帯広市社会教育叢書発行予告記事〕『読売新聞』8面（北海読売面） 「被掲載目録」による。
1954.1.14	「十勝七福神の初夢(5)／百万円あったらアイヌ館／吉田恵比須」『北門新報』2面
1954.1.22	「恩師はアイヌ語辞典編さん／吉田翁へコタン部落民が贈物」『北海タイムス』
1954.2.5	「貴重な研究資料／吉田氏のアイヌ古事風土記出版」『北海道新聞』8面
1954.5.26	「命ある限りアイヌの研究に／血の滲む25年の土人教育」『北海タイムス』8面（帯広十勝版）
1954.7.25	「編修後記」『民族学研究』第18巻第3号、101ページ 次号掲載予定原稿の中に吉田巖「杖のみたま」を挙げる。
1954.9.1	〔十勝教育代議員、日新小学校児童の写真を掲載〕『十勝の教育』北海道支庁連合小学校長会総会十勝大会 「被掲載目録」による。
1954.9.1	「アイヌの教育」『十勝の教育』6～7ページ、北海道支庁連合小学校長会総会十勝大会 「被掲載目録」による。
1954.9.10	「帯広市文化賞受賞者」『教育要覧』27ページ、帯広市教育委員会 「被掲載目録」による。
1954.12.20	「編修後記」『民族学研究』第18巻第4号、125ページ 今号掲載予定だった吉田巖「杖のみたま」の掲載を次号に廻す旨を述べる。（実際には19巻3・4号に掲載。）
1954.12.22	「朝の訪問 アイヌ研究家吉田巖」〔NHK第1ラジオ放送番組〕『北海道新聞』5面
1955.5.29	〔吉田巖写真記事〕『週刊産業経済』第235号、55～57ページ 「被掲載目録」による。金田一京助関係記事。
1955.6.10	「土人教育につくした人々」『北海道教育史 地方編一』851～853ページ、北海道立教育研究所 日高地方に関する記述の一部。
1955.7.8	「道産化紳士録」『読売新聞』
1955.9.15	村上久吉「吉田巖」『あいぬ実話集』229～236ページ、旭川市立郷土博物館
1955.9.15	「編修後記」『民族学研究』第19巻第2号、71頁、誠文堂新光社 次号に吉田巖「杖のみたま」を掲載する旨を記す。
1955.10.2	「世に出るアイヌの生活史」『読売新聞』 「被掲載目録」による。帯広市社会教育叢書刊行を報じる
1955.10.15	「世に出るアイヌ史」『旬刊 明るい生活』第32号、明るい生活運動社 「被掲載目録」による。
1955.11.20	更科源蔵『北海道伝説集・アイヌ篇』楡書房、280ページ 吉田巖の採録等による説話を多数（「被掲載目録」によれば27編）掲載。
1955.11.27	「各方面から絶賛の礼状／吉田氏のアイヌ風土記」『北門新報』 「被掲載目録」による。
1955.12.17	「私のあゆみ(29)／アイヌ研究家吉田巖さん／心血をアイヌに／土人学校遍歴の半生」『北海タイムス』夕刊1面
1955.12.17	「55年郷土文化の展望」『北海道新聞』8面（帯広・十勝版） 「愛郷誌料」について言及あり。
1956.1.24	「帯広岳は存在する」『北海道新聞』8面（帯広・十勝版） 吉田巖の見解を紹介
1956.3.25	久保寺逸彦「アイヌ研究における吉田巖氏の功績と足跡」『民族学研究』第19巻第3・4号、154～156ページ 吉田巖「杖のみたま」の末尾に「附」として置かれた文章。
1956.6.9	「希望訪問」〔NHK第2放送午前11時45分から：「アイヌ研究家 吉田巖」〕『北海道新聞』6、8面 6面がラジオ欄。8面は帯広・十勝版。8面の「きょうのOG」欄にはごく簡単な番組紹介もあり。
1956.7.1	〔座談会記録〕「アイヌの生活」『日本文化財 No15 アイヌ文化特集』33～37ページ、奉仕会出版部 児玉作左衛門、犬飼哲夫、知里真志保、名取武光による座談会（司会：高倉新一郎）。吉田巖に関する言及あり。
1956.11.3	久保吉春「あとがき」『わが郷土の歩み』225ページ、音更町字下土幌旭郷土史編さん委員会 吉田から資料の提供を受けたことなどを記す。
1956.11.7	「『わが郷土の歩み』発刊／音更町旭部落／喜びの記念式」『北海道新聞』8面（帯広・十勝版） 編さん協賛会が「感謝状と記念品」を贈った者の中に吉田巖の名あり。
1956.11.18	村上久吉「あるあいぬの一生(二)」『サンデー旭川』、16～19ページ、サンデー旭川社 江賀寅三の伝記の中で吉田巖に触れる
1956.12.1	〔地名解〕『日高村五拾年史』20、56、58、66～68、677ページ 吉田巖の著作を引用

発行年月日	編著者、表題、所収書名、ページ、発行者名 備 考
1956.12.20	久保寺逸彦「北海道アイヌの葬制」『民族学研究』第20巻第1・2号、54～99ページ、誠文堂新光社 引用・参考文献として吉田巖の論文あり
1957.1.20	村上久吉「あるあいぬの一生（第3回）」『サンデー旭川』、18～21ページ 静内・遠仏尋常小学校の教員として「吉田巖」が出てくるが、「被掲載目録」に「吉田貫一」の誤記であるとの指摘あり（同誌47号に訂正文掲載あり）。
1957.1.20	「学校放送 小学校高学年の時間」〔NHK 帯広放送局放送番組〕 「吉田巖の録音が5分間放送せられる」とあり
1957.1.23	「アイヌ古謡を録音／帯広市の郷土資料室運営協議会」『北海道新聞』6面
1957.2.1	「社会教育、こんごの課題／二村合併後の活躍／郷土資料室運営協の充実」『北海道新聞』8面 (帯広・十勝版)
1957.3.31	「帯広・十勝関係の吉田巖撮影・所蔵写真」『北海道教育史 地方編二』1200～1230ページ、北海道教育研究所 伏根弘三写真(写真326)、日新尋常小学校卒業式写真(写真327)、「アイヌ子弟と父兄」(写真328)など。
1957.3.31	「旧土人教育」『北海道教育史 地方編二』1224～1228ページ、北海道教育研究所 十勝内陸地方に関する記述。
1957.3.31	「虻田関係の吉田巖所蔵写真など」『北海道教育史 地方編二』1359～1373ページ、北海道教育研究所 「虻田第一尋常高等小学校卒業生」(写真367)、「虻田酋長と小谷部先生」(写真370)、吉田先生とアイヌ子弟(写真373)、二条基弘による虻田実業補習学校視察(写真375)など。吉田巖所蔵の虻田村の写真帖によるとあり。
1957.3.31	「虻田実業補習学校」『北海道教育史 地方編二』1371～1373ページ、北海道教育研究所
1957.8.1	「『アイヌの話』を『日新随筆』より転載」『樹氷』、帯広営林局樹氷会
1957.10.24	「非常に熱心な人」『北門新報』 「被掲載目録」による。
1958.1.25	勝谷稔「北海道すとおりの(4)」『窓の雪』第22号、6ページ、積雪科学館 吉田のもとを来訪したことを記す。
1959.4.17	「コタンの口笛座談会」『十勝毎日新聞』 「被掲載目録」による。
1959.7.14	杉野目晴貞「アイヌと薬草」『北海道新聞』5面
1959.9.7	「アイヌのしんのしあわせ」『毎日新聞』7面 「被掲載目録」による。
1959.9.9	「“銅像”建て恩に報いよう／アイヌの父 帯広の吉田さん讃え／有志が全道的な運動」『北海タイムス』12面
1960.3.31	「吉田巖関係記述、写真など」『帯広市史』帯広市
1960.8.20	仁多見巖「ジョン・パチェラー伝（その六）」『北海道地方史研究』第36号、34～78ページ 虻田学園等に関する記述の中で吉田巖への言及などあり。「心の碑」記載のパチェラーとの初対面の日付に関する誤植について吉田から手紙をもらったとの注記もあり。
1960.11.30	大林太良「INAUの起源について」『民族学研究』第24巻第4号、1～30ページ 参考文献中に吉田巖「アイヌウチヤスクマ」(『アイヌ研究』4号)あり。
1960.12.5	「吉田巖伝記、建碑のことがら」高橋真『伏根弘三小伝』
1961.1.1	「つきぬ語りの種。おらが自慢ナンバーワン」『十勝毎日新聞』2面 「被掲載目録」による。
1961.1.4	小林正雄「吉田先生の春秋」『十勝毎日新聞』4面
1961.1.25	仁多見巖「ジョン・パチェラー伝（その七）」『北海道地方史研究』第38号、54～77ページ パチェラーのキリスト教伝道活動などについて吉田巖「心の碑」からの引用あり。
1961.6.22	「[郷土に生きる] 4／アイヌ研究家 吉田巖さん／アイヌにとけ入る」『北海タイムス』12面 (空知面)
1961.9.18	「ことしの市文化賞」『北海道新聞』12面(帯広・十勝版)
1961.9.26	「理容論文コンクールで入選／帯広の保格さん／“アイヌの理髪”研究」『北海道新聞』10面 吉田からも教示を受けたとあり。
1961.12.26	「『北海道教育史』のアイヌ教育／執筆進める白井柳治郎さん」『北海道新聞』9面 「道東の伏古第二尋常小学校の部分を吉田巖さんが執筆する」との記述あり。
1962.1.25	「郷土開拓の先駆者／渡辺勝夫妻の日記／社会教育双「ママ」書第七巻で刊行」『北海道新聞』12面(帯広市内版) 叢書第1巻から第6巻までの解説を付す
1962.4.10	『天皇とアイヌ アイヌ問題研究所紀要第四輯』アイヌ問題研究所 37ページに「皇室対アイヌ」として伏古の話題を記述

発行年月日	編著者、表題、所収書名、ページ、発行者名 備 考
1962.8.1	「市政功労者十氏表彰」『十勝毎日新聞』1面
1962.8.15	「吉田巖」『現代相馬人略伝』166～167ページ、現代相馬人略伝会
1962.12.3	高橋真『アイヌの文学博士 知里真志保小伝』
1963.3.30	高倉新一郎「旧土人教育」『北海道教育史 全道篇3』191～255ページ、北海道教育研究所
1963.3.30	白井柳治郎「虻田の旧土人教育」『北海道教育史 全道篇3』303～328ページ、北海道教育研究所
1963.4.30	仁多見巖『アイヌの父 ジョン・パチュラー』楡書房、201ページ 『北海道地方史研究』連載をもとにした単行本。「3名のアイヌ教育家一同に会す」(102～104ページ)などの関係記述のほか、「あとがき」に「青年時代よりパチュラーと交友を持ち、一生をアイヌ子弟教育に捧げられた吉田巖、白井柳治郎両氏にはたいへんご教示をいただいた」とあり。
1963.5.	渡辺宗重「昔々の道南巡り」『MIGRATION』7ページ、マイグレーション会 1912年頃を回想した文章。虻田に吉田巖を訪ねようとしたときのことを記す。
1963.5.20	高橋真「釧路アイヌの教化功労者永久保翁：吉田巖先生の古潭点描から」『釧路市立郷土博物館々報』第137号、131～133ページ、釧路市立郷土博物館
1963.6.5	「吉田巖氏」〔社報〕『北海道新聞』11面
1963.6.9	犬飼哲夫「〔朝の食卓〕吉田巖先生をしのぶ」『北海道新聞』10面
1963.9.1	小林正雄「吉田巖先生の生涯」『北海道の文化』第4号、10～14ページ、北海道文化財保護協会 再録：「吉田巖伝記資料」(1964年5月)。「若干の補稿・補訂が施されている」とあり。
1964.7.11	井黒弥太郎「沙流河畔の人びと」『北海道教育の歩み』69～71ページ、北海道教育研究所
1964.9.19	『故中村要吉翁と音更アイヌコタンの断片』中村要吉翁顕彰碑建立協賛会、26ページ 吉田巖「イベチカ物語」を再掲。「あとがき」にもこのことに関する関係記述あり。
1965.9.	「アイヌ教育功労者／吉田巖先生の生涯」『アイヌ七話 アイヌ問題研究第6集』3～6ページ、アイヌ問題研究所 「はしがき」にも、「吉田巖先生を偲び」との文言あり。
1966.9.30	堅田精司「アイヌ民族調査資料をいかにみるか」『北海道地方史研究』第60号、25～31ページ、北海道地方史研究会 吉田巖遺稿資料に関する言及あり。
1970.8.22	「アイヌについて」『大槻博司歌集 アイヌの火』5～9ページ、赤堤社 同書巻頭の序文のような位置付けの文章。少年の頃に「伏古アイヌ部落」の学校を訪ねて行き「吉田さん」という校長に話をしてもらったとの記述あり。
1975.9.	「〔資料紹介〕吉田巖遺稿資料」『北の資料』第14号、1～3ページ、北海道立図書館北方資料室 複写により収集した資料の紹介。
1978.11.	竹ヶ原幸朗「吉田巖の台湾学事調査」補論『道歴研会報』第14号、北海道歴史研究者協議会
1981.8.20	「吉田巖」『北海道大百科事典 下巻』869ページ、北海道新聞社 北海道新聞社編『北海道歴史人物事典』北海道新聞社、1993年に一部改稿され再録。
1982.7.10	山崎長吉「人間平等 吉田巖」『北海道戦後教育史・人物編』245～250ページ、新北海道教育新報社
1983.10.25	竹ヶ原幸朗「近代日本のアイヌ教育：同化教育の思想と実践」『北海道の研究 第6巻 近・現代篇Ⅱ』453～492ページ、清文堂 吉田巖の台湾学事調査などに言及
1983.12.10	加藤ナミエ「わが師・わが民族の遺産」『エカシとフチ』123～130ページ、札幌テレビ放送 聞き手加藤篤美。「恩師の吉田巖先生」の見出しあり。
1983.12.10	木村きみ(談)「キミ叔母の昔語り」『エカシとフチ』168～182ページ、札幌テレビ放送 聞き手川上勇治。荷負尋常小学校での吉田巖について若干の言及あり。
1984.2.27	「序立伏古第二」「アイヌ保護」帯広市史編纂委員会『帯広市史』、719、833～834ページ、帯広市 他にも関係記述あり。
1984.10.30	『『啓明会』往復書翰』『アイヌ史資料集 第二期第七巻 河野常吉資料編(一)』北海道出版企画センター 河野本道選。河野常吉が吉田巖とともに従事した啓明会の「アイヌ調査事業」の関係文書を収録。同調査事業に関する吉田巖の調査記録は『帯広叢書』中の吉田巖資料の中で翻刻されている。
1986.10.6	梅本孝昭『アイヌ伝道者の生涯 江賀寅三遺稿』北海道出版企画センター 江賀寅三遺稿ノートをもとにした伝記。虻田学園時代のこと、このノート執筆の経緯と伝記刊行の計画等について吉田巖に関係する記述多数あり。
1988.8.15	川上勇治「続 荷負のおいたち」荷負自治会(編)『郷土誌におい』34～45ページ、北海道出版企画センター 吉田巖「日高国荷負日録抄」(『愛郷譚叢 帯広市社会教育叢書 No.3』)からの引用・紹介を中心に構成。
1989.5.20	藤村久和「解説」吉田巖『北海道あいぬ方言語彙集成』264～274ページ、小学館
1989.5.20	井上寿「吉田巖先生年譜」吉田巖『北海道あいぬ方言語彙集成』264～275～276ページ、小学館

発行年月日	編著者、表題、所収書名、ページ、発行者名
	備 考
1989.12.25	加藤ナミエ（談）「日新小学校や当時のアイヌの子供等の気持等を語る」『ふるさとの語り部』第4号、108～125ページ、帯広百年記念館
	聞き手清原元之。1976年3月収録。
1993.3.20	菊地フサ、山本スミ（談）「アイヌの生活、伝承物語について語る」『ふるさとの語り部』第9号、85～96ページ、帯広百年記念館
	聞き手小野善也。1974年12月収録。冒頭部分に若干の言及あり。
1993.5.25	〔吉田巖によるアイヌ語彙カードの写真を掲載）『十勝大百科事典』北海道新聞社、339ページ
	「十勝のアイヌ語」の項。
1993.5.25	小野善也「吉田巖」『十勝大百科事典』北海道新聞社、343～344ページ
1993.5.25	酒井孝幸「アイヌ教育」『十勝大百科事典』北海道新聞社、625～626ページ
1994.9.	竹ヶ原幸朗「虚構としてのくあいぬの風俗」『教育学研究』第61巻第3号、46～57ページ
	国定教科書教材「あいぬの風俗」に対する吉田巖の意見などを紹介。
1995.3月	井上健『アイヌ学校・アイヌ教育の実態と本質：アイヌ学校教師吉田巖の日記を通して』私家版
	上越教育大学大学院修士論文。
1997.2.22	寺下一『教師吉田巖とアイヌ教育：虻田学園における教育実践をめぐって』私家版
	北海道教育大学大学院修士論文。その後加筆が行われ、2006年8月22日には「3版」発行。
1997.3.31	「アイヌの教育」『帯広教育史 学校教育の百年（帯広市教育研究所研究紀要155号）』22～24ページ、帯広市教育委員会（帯広教育研究所）
1997.3.31	「庁立日新尋常小学校関係資料」『帯広教育史 学校教育の百年（帯広市教育研究所研究紀要155号）』513ページ、帯広市教育委員会（帯広教育研究所）
	『北海道教育史 全道編3』からの引用。
1997.5.10	小川正人『近代アイヌ教育制度史研究』北海道大学図書刊行会
	本文での言及多数、巻末の資料編の「全道土人賞学校長会議関係資料」に吉田巖に日記などを引用、『北海道庁立日新尋常小学校要覧』（1929年）を掲載。
1998.1.20	小川正人・山田伸一『アイヌ民族 近代の記録』草風館
	「旧土人保護施設改善座談会」記録、『アイヌ新聞』主要記事など収録。
1999.3.31	内田祐一「北海道家庭学校博物館所蔵のアイヌ民具コレクション」『帯広百年記念館紀要』第11号、55～ページ、帯広百年記念館
	同コレクションの収集経緯における吉田巖の関わりに言及あり。
1999.11.	永田秀郎、明神勲「アイヌ教育者永久保秀二郎の評価をめぐって：吉田巖との対比を通して」『釧路論集』第31号、193～211ページ、北海道教育大学釧路校
2000.2.	永田秀郎、明神勲「戦前吉田巖のアイヌ教育実践に関する史的研究」『北海道教育大学紀要（教育科学編）』第50巻第2号、13～27ページ、北海道教育大学
2000.3.10	小国喜弘「アイヌ教育における国民化と民族化：吉田巖の「旧土人教育」を通して」『民俗学研究所紀要』第24集、77～104ページ
2000.6.1	川鯨定明『ウタリとともに：白井柳治郎をめぐる人々』私家版
	第3章が「虻田学園の教師・吉田巖」。他にも関係記述あり。
2001.5.31	「理想と現実の狭間で」虻田町史編集委員会『物語虻田町史 第3巻 教育文化編』45～48ページ、虻田町
	同巻第1部「アイヌ教育」の中の終章。他にも関連記述あり。
2002.3.29	小西雅徳、内田祐一「板橋区立郷土資料館所蔵石田収蔵資料に含まれていた吉田巖関連資料について」『帯広百年記念館紀要』第20号、57～61ページ
	吉田巖「アイヌの育児に因める説話」の全文を再録。
2003.9.28	「北海道御巡視」秩父宮殿下御成婚記念『秩父宮と勢津子妃』〔復刻版〕渡辺出版
	日新尋常小学校来訪に言及あり。
2003.12.20	奥田幸子「伏古の伏根弘三」『久摺 第十集』210～224ページ、釧路アイヌ文化懇話会
2004.1.25	山路勝彦「アイヌと台湾」『台湾の植民地統治：〈無主の野蛮人〉という言説の展開』、日本図書センター
2004.2.19	木呂子敏彦「柳田国男・北海道の旅を追って」（上）（中）（下）『木呂子敏彦著作集 鳥の眼・みみずの目』442～501ページ、木呂子敏彦著作集刊行会
	初出は『地域研究年報』7、10、11号（旭川大学地域研究所、1985～88年）。
2004.2.19	木呂子敏彦「永六輔の返事と江政敏」『木呂子敏彦著作集 鳥の眼・みみずの目』778～779ページ、木呂子敏彦著作集刊行会
2005.11.27	土井全二郎『義経伝説をつつた男 義経ジンギスカン説を唱えた奇骨の人・小谷部全一郎伝』光人社、269ページ
	虻田学園時代の吉田巖の日記や吉田巖宛て書簡などの引用多数あり。
2006.2.	〔「北海道庁立第二伏古尋常小学校跡」碑などを紹介〕杉山四郎『新版 アイヌ民族の碑を訪ねて』169～172ページ
2006.3.31	〔吉田巖らに関する回想談若干あり〕北海道ウタリ協会『平成17年度 世代間交流事業報告集』23～31ページ、北海道ウタリ協会
	帯広会場での講演及び質疑応答記録。

Ⅳ 「帯広市社会教育叢書」「帯広叢書」の吉田巖関係事項の細目

〔凡例及び注〕

- 『帯広市社会教育叢書』『帯広叢書』のうち、吉田巖の著作または吉田巖に関連する資料・著作を掲載している冊子の目次を掲載した。(これ以外の冊子については、参考のため表題等を掲げるにとどめた)。なお、書名の記載は簡略化し、叢書の巻数を「No」で表す等、全体の表記を揃えるようにしている。
- 特に『帯広市社会教育叢書』の頃のもの、アイヌ文化に関する具体的な伝承記録が多いことから、なるべく細かなデータを記載するようにしたが、紙幅の制約から、主なものを例示するにとどめたところや、具体的な内訳の記載を割愛したところが少なくない。データ上はより細部まで記録しているので、他日改めて整理し提供する方法を考えたい。
- 吉田巖の資料には、生徒の作品や地域の家庭のようすに踏み込んだ記録も少なくない。このため、この目録でも氏名の掲載をなるべく控えたところも多い。利用にあたってはこの点に慎重な配慮を求めたい。

ページ	も	く	じ	備	考
No. 1	愛郷誌料			(帯広市社会教育叢書)	
—	はしがき			帯広市教育委員会教育長村瀬岩尾著	
—	序				
001	と かつ あ い ぬ				
001	国名十勝について			1934年9月12日とあり。	
005	現在の十勝アイヌ				
006	散居時代における十勝アイヌの分布と人口動態				
006	a. 散居時代→明治20年以前			聚落の位置／聚落の移動／聚落と戸口限度の考察 「基本資料」として戸口表、集落位置図など掲載。 「基本資料」として戸口表、人口分布図など掲載。	
020	B. 集団時代（明治20年以降）				
025	交通				
026	十勝と石狩との交通／十勝と日高との交通／十勝と北見との交通／十勝と釧路との交通				
028	交流			十勝アイヌと他地方アイヌとの交流。文献、聞き取り等から抄録を列記する。 伏根弘三の祈詞の紹介あり。	
028	石狩アイヌとの交流／日高アイヌとの交流／北見アイヌとの交流／釧路アイヌとの交流				
036	十勝のチャシ群				
037	チャシ群と伝説				
039	あいぬの家章			一覧表掲載あり。	
045	生業篇				
045	いとぐち				
045	〈1〉「明治18年集団開始前における住居、食物、衣服、生業諸器具の概略」				
046	〈2〉「明治18年伏古別に集団地生活開始以来、推移34年目の大正8年現在における衣食住生活の実態」				
047	〈3〉「明治～大正8年を中心とした衣食住の変化に関する参考資料」				
047	参考資料(1)			晩成社日誌ほか	
047	参考資料(2)			第二伏古尋常小学校日誌	
047	参考資料(3)			第二伏古尋常小学校卒業児童成績報告書抄録	
047	参考資料(4)〔白人旧土人教育取調報告書〕			第二伏古尋常小学校教員佐藤義厚による。	
049	参考資料(5)〔1911年「旧土人調査ニ関スル件」照会に対する回答〕			第二伏古尋常小学校教員三野経太郎による。	
050	参考資料(6)			1911年河西支庁長宛て三野経太郎答申抄録。	
050	参考資料(7)〔部落弊風矯正ニ関スル件〕			1912年河西支庁長宛て三野経太郎答申抄録。	
050	参考資料(8)〔農業ノ実習（現ニ実施シツツアル状況並ニ其効果）〕			1914年河西支庁長宛て三野経太郎答申抄録。	
051	参考資料(9)〔修学旅行中児童ニ及ボシタル影響〕			1913年三野経太郎復命書抄録。	
051	参考資料(10)〔修学旅行中児童ニ及ボシタル影響〕			1915年三野経太郎復命書抄録。	
051	参考資料(11)〔1916年2月部落内戸別訪問記録〕				
052	参考資料(12)〔旧土人衛生状態調査の件〕			1917年帯広町長宛て吉田回答の抄録。	
052	参考資料(13)〔児童持参の昼食調査〕			1919年帯広町長からの照会に対する回答書。	
052	参考資料(14)〔混食代用食調査表〕			1919年帯広町長宛て報告書。	
053	〈4〉「大正8年現在における「住民の衣食住、生業諸器具一切の実態につき各家庭の現在物件の報告を児童を通じて取りまとめた結果」				
054	〈5〉「大正8～13年の間の参考資料」				

ページ	も く じ	備 考
055	参考資料(1)〔食事に関する児童、教員への留意事項〕	1920年河西支庁長宛て吉田の報告書。
055	参考資料(2)〔「あいぬの風俗につきて」〕	1920年3月十勝連合教育代議員会発表。表題のみ。 『心の碑』に全文を掲載と記す。
055	参考資料(3)〔社会施設状況（大正12年11月19日発表）	吉田保導委員意見書。
056	参考資料(4)〔学校衛生上留意施設せる事項並に之れが意見〕	1920年河西支庁管内小学校長会議席上での吉田の提出書。
056	参考資料(5)〔伏根弘三による旧土人教育施設上の意見〕	1922年2月、河西支庁からの「下命」に対するものとあり。
057	参考資料(6)〔旧土人教育の改善上現下緊要と認むる事項〕	1923年6月8日付（「全道土人小学校長会議」の日程である）。
058	参考資料(7)〔旧土人児童教育規程廃止後の状況につき答申〕	1923年6月8日付（「全道土人小学校長会議」の日程である）。
058	参考資料(8)〔全道土人小学校長会議における服部内務部長訓示〕	吉田巖復命書によるとあり。
059	参考資料(9)〔全道土人小学校長会議席上におけるジョン・パチェラーの口述〕	同上か。
059	参考資料(10)〔全道土人小学校長会議における吉田巖謝辞〕	
059	〈6〉〔大正13年第2次実態調査にあわられた主なる事項変化〕	
061	〈7〉〔大正14年以降の変化〕	
061	参考資料(1)〔北海道河西郡帯広町伏古旧土人地調査資料〕	1926年12月31日付北海道庁長官宛報告書。
072	参考資料(2)〔伏古旧土人部落内10箇年間移転調〕	1926年7月22日現在。
072	参考資料(3)〔伏古旧土人部落内住宅調〕	転居回数の調査。
072	参考資料(4)〔伏古旧土人部落住宅調〕	建物坪数、飼養牛馬鶏数。保導委員要保護者台帳の抄録。
074	参考資料(5)〔伏古旧土人素養調〕	1926年7月現在。
074	参考資料(6)〔現在いれずみを存する者〕	1925年現在。
076	衣食住グラフ	本文の統計をグラフにしたもの。
076	土俗篇	
077	はしがき	
077	狐送 大正から昭和にかけて 8 則	1917年2月11日、1918年1月10日、1929年1月4日のそれぞれに伏古で行われたキツネ送りに関する生徒の作品をまとめる。
078	学童のとむらい	1917年4月に生徒が亡くなった際、他の生徒を引率して弔問し葬送を見聞した記録。
080	哀歌	1925年生徒提出綴り方の一部。溺死体を川などから引き上げたとき現場で歌うものとあり。
080	迷信 対自然現象と動物と	1919年12月授業時間に5、6年生に迷信について各自に筆述させたものから抄録。
080	雷雨のとき	1920年6月、数年来の大雷雨があったことに因み尋3～6年生にそのとき家庭でどうしたかを尋ねた記録。
080	まじない おこり ゆきやけ	「瘡おとしのまじない」及び「雪焼け」治療のまじないに関する聴き取り記録。1920年6月。
081	私の家 寝位 座位	1917年4月尋3、4年「私の家」授業中に各自の家の間取り、家族・客の座位等を問答し図にしたもの。
081	〔1925年9月家庭の慣習等につき筆答させた結果〕	修身科授業中に「室内の座席」「死後の風習」「自己の祖先」につき質問。
083	産について ほぞなわ	出産時の習俗
083	洪水 イノミウシと犬	
083	地震 避難のしかた	1925年1月18日乃至2月8日とあり。
083	食事に困むもの	児童に家庭の習俗等について諮問した回答の収録。以下同じ。
084	就床について	
084	歯の取あつかい	抜けた歯の扱いについて。
084	髪の手あつかい	
084	爪の手あつかい	
084	生物について	
084	霊魂について	
084	神について	
085	雷鳴と地震	

ページ	もくじ	備 考
085	天象	夜道を歩くときの注意、口笛に関する禁忌、カッコーに関する習俗など。
085	冠物など	
085	地震・落雷・火事・日月蝕・悪夢・生れる時・死んだ時・鳥・獣・虫・魚・まじない	「大正10年6月24日、発問収録」とあり。6月22日の大地震のとき家ではどうしていたかを契機に、地震、落雷など12項目につき生徒に短文の綴方をさせた結果。
087	ことわざの数々	1929年9月17日5、6年生の綴方の抄録。
088	私の聞いた迷信	1929年9月20日3、4、5年生の課題回答をまとめたもの。
088	学童と夢 12則	「夢」という課題で生徒に綴り方を書かせたものの等の抄録。生徒本人の見た夢、家族の三田夢とその夢に関する話など。1925年ほか。
090	私の家の昔譚 5則	生徒に書かせた綴り方をまとめたもの。1924年ほか。
091	伏古のむかし 3則	生徒に書かせた綴り方をまとめたもの。1925年2月24日。
092	私の家の昔話 7則	生徒に書かせた綴り方をまとめたもの。1927年ほか。
093	児童遠足	1916年5月26日、国見山に遠足運動したときの記録。行程の記録、動植物名について質問した記録などあり。
093	児童観劇	1918年7月20日、帯広楽座にて「教育衛生劇」を観劇させたときの生徒の感想文をまとめたもの。
094	ジュンササン	1925年2月5日、尋3～6年生に「ジュンササンをイヘデハナントヨビマスカ」「ジュンササンハナニヤスル方デスカ」「アイストカドジントカヨバレタトキナゼワルイデスカ」等6項目の質問をした回答のまとめ。
094	好きと嫌い	1924年12月6日、生徒の「1、私ノスキナモノ2、キライナモノ」の筆答をまとめたもの。
095	疑問集	生徒の作文の中で疑問を述べているもの3点。1924年ほか。
095	学童知能測定課題筆答案四則	生徒に課題を出し筆答させたものをまとめたもの。
095	A 焼いてはならぬもの・からだはたれのもの・成長してから・生まれて今日まで	1924年12月18日、尋3～6年に「もし家が焼けるとしたら、焼いてならぬ物一つは何か」「汝のからだはだれのものか」「成長の後何になるつもりか」「生れてから本月まで自分は何月になるか」等について、30分以内で筆答させた回答のまとめ。
096	B 鳥獣虫魚・木草	1925年4月及び5月、鳥、魚、獣、虫、木、草それぞれの名で知っているものを筆記させた結果のまとめ。
098	C 私の家の物 その1 その2 その3	1919年、1924年、1929年のそれぞれに、「私の家にあるもの」について筆答させたもの。
100	家庭調 その1 その2	生徒の家庭に関する調査。上記A～Cの参考資料としての掲載か。
100	〔通学児童家庭調査〕	1924年10月、生徒の親の「教育の有無」を表にまとめたもの。上記A～Cの参考資料としての掲載か。
100	〔通学児童家庭調査〕	1925年4月乃至1926年2月、尋1～6年に「自己の名は誰につけてもらったものか」「父の名」「母の名」「河西支庁長の名」等を答えさせたもののまとめ。
101	家庭の口ぐさ（その1）	1919年12月2日、課題「私の家の訓」に対する筆答をまとめたもの。
102	家庭の口ぐさ（その2）	1924年12月1日、課題「家のラシヘ」に対する筆答をまとめたもの。
103	児童の家庭生活 冬休 夏休 その他 35則	「日記、綴方など児童の率直な作品をととしてその要を摘録する」とあり。
103	〔冬休み中のできごと／「ユニットンバレ」のやり方／「ウロリキニ」のやり方／「おばあさんから聞いたツウイタキ」／「ウエロキロキ」について／なぞなぞ／休み中に関する作文／冬季の児童の遊戯の種類、入浴の状況等に関する調査記録／家庭における度量衡器などの調査／生徒の家庭で祀っているお札等を調べた結果／年賀状発受件数調／ほか〕	生徒に提出させた作品、その中に記載のあった事項に対する調査、その他生徒を通じて行った調査などの記録。

ページ	もくじ	備考
108	説話篇	「土俗篇と共に、ありし日の学童の作品をノートしておいた記念資料である」と記す。
109	はしがき	
109	日新尋常小学校児童作品 34則 追加 1則（大正6年－昭和4年）	「土俗篇と共に、ありし日の学童の作品をノートしておいた記念資料である」と記す。
109	「あるていしゃばに…」「ある寺に一人のぼうずがありました…」「昔、よいおぢいさんと、わるいおぢいさんがいました。…」「昔、ある所にありとくまとはちとししとおりました…」「昔、或所に、べなうんべとゆう人とはなうんべとゆう人がありました…」「昔、或所ニオカアサントオトウサントムスメ三人ガオリマシタ…」などで始まる物語35編	
118	保健篇／ふしこ学童保健資料	「本篇は特殊教育上重要な学童保健衛生に関する二三資料をまとめて日新学校の片鱗を伝えようとするものである。／昭和27年6月」とあり。
118	まえがき	
119	学童の保健衛生資料	「本篇は特殊教育上重要な学童保健衛生に関する二三資料をまとめて日新学校の片鱗を伝えようとするものである。／昭和27年6月」とあり。
119	〔「明治37年開校昭和6年閉校此間28年に渉りて毎月児童出席統計にあらはれたる累年全月欠席人員状況」〕	
119	(1)マラリヤ／参考資料 1〔明治45年帯広町外4村組合長発各部落長宛てマラリヤ病予防に関する件、患者数統計添付〕	「本篇は特殊教育上重要な学童保健衛生に関する二三資料をまとめて日新学校の片鱗を伝えようとするものである。／昭和27年6月」とあり。
120	(2)流行性感冒／参考資料 2〔1918年11月22日付、児童流行性感冒患者経過報告の件につき帯広町長宛て吉田巖発公書〕	
120	参考資料 3〔1931年3月6日付当校における児童の流行性感冒患者数調査報告、帯広町長宛て吉田巖発公書写〕	「本篇は特殊教育上重要な学童保健衛生に関する二三資料をまとめて日新学校の片鱗を伝えようとするものである。／昭和27年6月」とあり。
121	参考資料 4〔1917年5月25日付、「本校通学区域内一種の皮膚病流行」に関する報告、吉田巖発帯広町長宛て〕	
121	参考資料 5〔1917年8月23日付、「伏古旧土人部落ニ悪性疥癬流行」に関する調査の件、帯広町長初吉田巖宛て〕	「本篇は特殊教育上重要な学童保健衛生に関する二三資料をまとめて日新学校の片鱗を伝えようとするものである。／昭和27年6月」とあり。
121	児童身体検査にあらわれたる異常症状	
122	参考資料 6 清潔法施行児童入浴	「本篇は特殊教育上重要な学童保健衛生に関する二三資料をまとめて日新学校の片鱗を伝えようとするものである。／昭和27年6月」とあり。
122	参考資料 7〔第二伏古尋常小学校の健康・衛生関係事項に関する報告、答申類〕	
124	参考資料 8 児童健康状態	「本篇は特殊教育上重要な学童保健衛生に関する二三資料をまとめて日新学校の片鱗を伝えようとするものである。／昭和27年6月」とあり。
124	参考資料 9 校地校舎其他設備ニ関スル情況	
124	学童環境の展開	「本篇は特殊教育上重要な学童保健衛生に関する二三資料をまとめて日新学校の片鱗を伝えようとするものである。／昭和27年6月」とあり。
125	参考資料 10〔日新尋常小学校校舎改築工事認可につき工費等回報を求める通知〕	
125	参考資料 11 日新尋常小学校児童最近5箇月間入浴状況調査	「本篇は特殊教育上重要な学童保健衛生に関する二三資料をまとめて日新学校の片鱗を伝えようとするものである。／昭和27年6月」とあり。
126	参考資料 12 学童と休学に関する資料〔明治44年河西支庁長諮問学校長会議における休業期間に関する答申〕ほか4件	
No. 2	日新随筆	(帯広市社会教育叢書)
000	はしがき	帯広市教育長村瀬岩尾 「昭和9年12月20日／日新堂に於て記す」とあり。
001	巻頭の辞	
002	古潭点描 〔はしがき〕	この文章に関する概要説明。1906年以来道内各地を廻ったときの記録である旨を記す。
005	上篇	
005	春採の巻 1、2	1906年、1917年の訪問記録か。永久保秀二郎との面談記録あり。 1906年8月8日。 1907年1月2日。
008	白糠の巻	
010	音更の巻	1907年3月27日、1913年9月14日、1934年9月21日 1907年4月20日。 1907年6月18日。
012	伏古の巻 1、2、3	
015	毛根の巻	1907年3月27日、1913年9月14日、1934年9月21日 1907年4月20日。 1907年6月18日。
015	芽室太の巻	
017	中篇	1907年3月27日、1913年9月14日、1934年9月21日 1907年4月20日。 1907年6月18日。

ページ	もくじ	備考
017	虻田の巻 1、2	1908年5月10～13日、6月8日、7月28～30日、9月19日、1911年4月16日。北條待従来訪時の記録、ラッコ船乗でサハリンに出かけてからの遍歴談などあり。
022	礼文華の巻 1、2	虻田学園の生徒を引率して礼文華に出かけた記録など。
024	元室蘭の巻 1、2	泉致広を来訪した記録など。
024	白老の巻	1908年7月18～20日、虻田学園寄宿生の帰省を引率して白老に赴いた記録。
026	長萬部の巻	1910年12月13日。遊樂部をへて長萬部を来訪。リキントからの聞き取り記録などあり。
026	有珠の巻 1	1911年4月7日。イトクバなどに関する談話あり。
027	有珠の巻 2	1911年4月7日。上記の来訪時に同行した「印度人」ビスワスの談話。パチャラー宅来訪記録もあり。
028	下	
028	ポロサルの巻 1、2	荷負尋常小学校生徒の家庭を順に来訪した記録。
030	平取の巻	1911年6月25日。平取尋常高等小学校の運動会に赴いたときの記録。
031	ペナコリの巻	1911年8月16日。川上サノウクノほかを来訪した記録。
032	貫気別、荷負の巻	1911年6月12日。荷負尋常小学校の生徒を引率して貫気別まで遠足したときの記録。
033	荷負の巻	1911年6月28日。
033	二風谷の巻 1、2	1911年5月21日、8月30日
034	長知内の巻 1、2、3	奈良農夫也との談話記録など。
035	スケレベの巻	1911年12月15日。
036	近文の巻	1917年3月2日。上川第五尋常小学校を来訪、赤松則文との談話記録あり。
037	厚岸の巻	1920年1月25日。
038	絵鞆の巻	1921年8月7日。道中白老の人々の消息も聞く。
039	名寄の巻	1921年8月11日。鶴川アイヌの移住地も来訪。
040	古潭春秋	
040	〔はしがき〕	この章の概要説明。第二伏古（日新）勤務期間における「実話集」である旨を記す。学校への来訪・参観者に関わる記事多い。
044	上 成蹊録	
044	1 アイヌ学校は鬼門ですぜ	1916年9月30日。福井県知事参観時の逸話。1926年9月8日、宮城控訴院長一行参観時の逸話。
044	2 禁酒の誓	
044	3 鉄砲持参、金を貸せ	
045	4 罷り下つた青年	1918年7月8日。卒業生の青年が運動会をやりうと持ちかけてきたことに対しての話。
045	5 十勝ウタリの矯風会	1918年8月19日。「十勝旧土人連合自治矯風会」発会式の記録。伏根弘三の談話、町長、警察署長、元河西支庁長諏訪鹿三、十勝組合教会高橋牧師、中村要吉らの挨拶の概要あり。
046	6 祓い給えとアーメンの鉢合わせ	1918年8月27日。
046	7 亡国とは何ぞや	1919年1月15日。
046	8 陛下のお召とあるならば	1919年5月2日。
046	9 一つモデルが天使と悪魔	1919年7月30日。
046	10 カムイノミを如何せんか	1919年8月2日。
047	11 日南先生の鉢巻番号論	1919年8月26日。
047	12 草も木も我大君の物	1919年9月24日。
047	13 富士山と琵琶湖	1920年3月5日。
047	14 警官の叫び	1920年7月6日。伏古駐在所詰であった警官山崎寅芳による部落総集会上での「訓示的謹話」。
047	15 未来の良2千石	1921年4月24日。「某省事務官」の来訪時の記録。「没常識極まった」例として紹介。
048	16 伏古の児玉將軍	1921年7月31日。
048	17 夢の不思議	1921年11月25日。
048	18 日新寺の生仏	1923年7月24日。

ページ	もくじ	備考
048	19 痛い処をチクリ	1923年8月25日。
048	20 カナダ土人	1923年12月16日。
048	21 レプングルタマとシンボ	1924年6月13日。
048	22 蕃人と珍命名	1924年7月15日。
048	23 サクソン。ヨボ。離婚	1924年8月13日。
049	24 「某新聞社長」の話	1924年8月26日。
049	25 狙い処は汗脂	1924年9月11日。
049	26 履違つた慈善	1925年6月2日。「孤児院の女児」が来訪した際の吉田の応対について。
049	27 道民は第2代目から	1925年6月22日。
049	28 鶴の保護地山口県	1925年8月6日。
049	29 有吉事閣下の金言	1925年11月12日。
049	30 三郎から武彦へ	1926年3月22日。
050	31 過去帳を繰るのみ	1926年3月30日。
050	32 お江戸の芸当に釘	1926年5月9日。伏根弘三が啓明会で講演しラジオ放送で講演したこと、柳田国男らの反応など。
050	33 要石と釧路二股出土品	1926年5月27日。
050	34 閣下か、わしは裸体だ	1926年6月5日。
050	35 美しいものなにあに△△	1926年8月16日。
050	36 太陽まで御制服召さるか	1926年8月18日。
051	37 感謝への反省	1926年8月21日。
051	38 チツボケな存在却つて偉大	1926年9月14日。
051	39 震災の洗礼	1926年11月12日。
051	40 2歳熊馬に召捕らる	1927年3月23日。
051	41 親方医者丸呑	1927年4月1日。
052	42 掃除なら知らん電燈はわしのだ	1927年5月20日。
052	43 千人風呂をめぐりて	1927年5月28日。
052	44 サンデー毎日	1927年8月16日。吉田がサンデー毎日で紹介されたことに関する逸話。
052	45 長官閣下が前大臣閣下	1927年8月17日。
052	46 平凡偉人くま女	1928年6月20日。
053	47 熊崎直平君	1928年7月20日。
053	48 北海道対大阪のチャランゲ	1928年8月12日。
053	49 50への反省	1928年8月18日。
053	50 藪に隠れた三平皿	1928年9月14日。
053	51 萱庇に忍んだ焼酎壺	
054	52 しよんぼり捲いた尻尾	1928年12月16日。
054	53 人道問題	1928年12月23日。昭和天皇の「御大礼」の際興行に出かけたアイヌの一行に関する報道について。
054	54 狐送両面観	1929年1月4日。狐送りを見ての感想など。
054	55 ウタリーの死を悼む	1929年4月16日。遼星北斗の死亡記事に接して思い出などを記す。
055	56 アイヌ教育の実績	1929年6月7日。
055	57 青年とビールの泡	1929年7月3日。
055	58 小使さんはと不審	1929年7月1日。
055	59 緊縮内閣は名刺から	1929年9月19日。
055	60 朝日男、敷島女	1929年9月20日。
055	61 いろは48歳来観免除	1929年9月30日。
055	62 アイヌはアイヌらしく	1929年10月11日。
056	63 それこそがアイヌ教育	1930年5月9日。
056	64 異民族教化の一針	1930年5月14日。
056	65 髭くらべ	1930年8月5日。
056	66 つちふまzugない	1930年8月23日。
056	67 校長先生脂を搾られる	1930年8月23日。
056	68 日本魂と植木鉢	1930年10月6日。
056	69 蕃童の芝居	1931年5月20日。台湾先住民の学校を視察した者から「学童の芝居じみた点」を感じたとの話を聞いたことなど。
057	70 キビキビした米国女記者	1931年8月1日。
057	下 有朋記	
057	1 アイヌの皮は6枚	1916年7月13日。

ページ	もくじ	備考
057	2 鈴蘭の匂	1917年6月12日。
058	3 紳士の涙	1917年7月19日。
058	4 疥癬の妙薬	1917年7月28日。
058	5 亙理章三郎先生	1917年8月28日。
058	6 趣味と宗教	1918年5月1日。
059	7 アイヌ伝説と謄写刷	1918年9月8日。
059	8 神様の話はわかるか	1918年9月12日。
059	9 衰え行く国の子供	1919年7月28日。
059	10 汝等は本道の先祖	1918年9月16日。
059	11 撲滅せよ人間嫉妬	1919年8月10日。
059	12 遠藤博士の質問	1918年8月12日。
059	13 あまり人権を無視したこと	
060	14 道外代議士の土人保護努力	1920年8月18日
060	15 本土特殊教育家談	1919年9月4日。
060	16 野火、アイヌ印章、アイヌ語の使用	1920年1月17日。
061	17 アイヌと朝鮮との薬草	1920年6月14日。
061	18 方角違いの奇遇	1920年8月6日
061	19 [アイヌと朝鮮人の比較]	1920年9月16日。平壤教会牧師の来訪を受けた記録。
061	20 国宝	1920年12月9日。
061	21 アイヌ語会話	1921年7月12日。来訪者が児童に「簡単なアイヌ語会話を要求」したとの記録。
061	22 日本民族論	1922年4月7日。林欽吾の来訪を受けたときの記録。
061	23 部落の掃除を頼む	1922年4月7日。谷本富の来訪を受け、坪井正五郎の思い出話を聞いたことなど。
062	24 アイヌ家屋と女教員服装	1923年10月27日。
062	25 炎天下に背広の閣下	1924年8月10日。
062	26 朝鮮を聴く	1924年8月13日。
063	27 名士の本道感	1924年8月15日。
063	28 嘘のような実話	1924年8月23日。
063	29 富を積む前途遼遠	1924年9月1日。
064	30 牡丹台勇士、伏古農場主	1924年9月3日。
064	31 保科孝一先生	1924年9月17日。
064	32 アイヌ保護の精神	1925年8月29日。
065	33 ウエルヘルム・グンデルト氏と語る	1925年4月5日。
066	34 アイヌと国定教科書	1925年6月22日。国定教科書編纂の目的で来訪した川島次郎の来訪を受け、地理教科書掲載の写真が現時のものと相違しているので改めてほしいと申し出たことなどの記録。
066	35 68翁の考古縦横談	1926年7月12日。
066	36 所謂「部落」の語解	1926年8月3日。
066	37 法官一行、何物の真相をか握れる	1926年9月8日。
067	38 口琵琶〔ムックル〕のふるえ	1927年10月11日。歌人生田蝶助の来訪を受けた記録など。
067	39 言い知らぬ責任感	1927年11月28日。
068	40 名刺に釘をうたれる	1928年8月1日。
068	41 国定教科書とアイヌ資料	1928年10月12日。吉良平次郎を国定教科書に採用すべきかとの照会に「可なるべきこと」と回答したことなど。
068	42 音楽、声楽家とアイヌ楽器	1928年10月17日。
068	43 調伊企雛	1929年7月6日。
069	44 アイヌの衰亡と食物	1929年7月8日。
069	45 アイヌ食物変化説	1929年7月10日。
069	46 アイヌの劣れるは素質にあらず	1929年8月29日。
069	47 教育家と司法官	1929年10月8日。
070	48 蝶のアイヌ語、夕張の鶯	1930年7月8日。
070	49、50 廃校前の1日	1931年8月8、10日。
072	古潭小品	
072	〔はしがき〕	この文章に関する概要説明。「上」は「大正6年より昭和9年まで」の「主としてアイヌに関する直接間接随感随録」、「下」は「講話」「物語」等で「明治大正昭和」の「素材」をもとに「起稿」したものだとの説明を記す。

ページ	もくじ	備考
074	上	
074	「金田一京助氏著アイヌの叙事詩ユーカラの研究」「新聞紙の記事の取捨について」「日新日日新又日新」「諏訪鹿三翁を訪う」「アイヌとアイノ」など38編	金田一京助『アイヌ叙事詩ユーカラの研究』が届いたこと、新聞記事の切り抜きをしていること、第二伏古を「日新」と改称した事情など。
	下篇	
090	アイヌ講話	1933年9月28日、帯広大谷学園での講演記録。
093	アイヌ講話	1934年9月27日。
097	来観者物語	1934年11月4日。
099	自戒和歌一首	
099	述懐一首（著者）	
099	はじめてアイヌを訪ねる人のために	1934年9月13日。
100	巷間に見るアイヌ関係の写真、絵葉書等について	1934年9月13日。
101	大貝物語	1934年9月25日。大きな貝に関する説話について。
104	神武天皇の御歌	1934年9月25日。
104	琵琶湖満水と大貝の現出	1934年3月27日。
104	本道と私―十勝と私―帯広と私―伏古と私―帯広20年の回想と注意―帯広の今昔―帯広市街の光景	1935年6月12日。「伏古と私」まではそれぞれの見出しに関連する吉田の経歴を年表形式で紹介。その後はかつての帯広のようすに関する回想を記す。
106	伏古の今昔	1935年6月3日。
—	追記	1956年7月6日。刊行に際しての所感などを記す。
—	「愛郷資料」正誤表	
No. 3	愛郷譚叢	（帯広市社会教育叢書）
000	はしがき	1957年10月4日。帯広市教育委員会教育長村瀬岩尾
000	巻頭に賦す	1957年「文化の日」とあり。短歌6首。
001	胆振の浜つと	
001	はしがき	1954年5月23日。自身の胆振在勤中の主な出来事や経緯などを記す。
002	上・・・胆振国虻田日録抄	虻田学園在勤中における胆振、渡島地方での採録調査の日程及び在勤中の学園への主な来訪者、在勤中に生徒を通じて行った調査とそこで得た説話などについておおよそを記したもの。
004	下・・・胆振国アイヌ古老談話記録	
004	目次	被採録者名も記す。
004	おしゃまんべ〔2編：1909、1910年司馬力八談〕	
005	れぶんげ〔7編：1907、10年、口屋力治ほか〕	
007	あぶた〔37編：1910、11年明石和歌助ほか〕	ユウカラに登場する虻田アイヌの呼び方のこと、モンリ・カラ・カムイに関する伝承のこと、ボン・ヤ・ウンベに関する伝承のこと、「虻田オッテナ・サカナの系統」、「アッ・コロ・カムイ」に関することなど。
023	うす〔11編：1908、10、11年津谷栄ほか〕	「オ・レブン・ベ」「オ・キムン・ベ」のこと、天の川のこと、「コロ・ボキリ」のこと、各地の人物とその名のいわれのこと（セタナイ、イワナイ、ウリウ、ムカワ、ヨイチの人名を挙げる）、「チクベニ」で拵えた鳥形のお守りのことなど。
030	もとむろらん〔2編：1908年室村フラバナ談ほか〕	「モロラン」の意味、近隣の地名の由来や伝承など。
032	沙流の山つと	
032	はしがき	ここに収めた記録に関する説明。荷負在勤中に見聞したものをまとめたこと、『心の碑』『日新随筆』も参照してほしい旨などを期す。1954年4月1日起稿、20日完稿とあり。
033	上 日高国荷負日録抄	
	日高国沙流にはいって他と異なるアイヌの風俗言語	1911年4月22～5月10日の見聞による。
033	地名と人名〔1911年4月22～5月10日の見聞による〕	1911年4月22～5月10日の見聞による。
033	沙流に於ける他の部落と共通なる所感〔1911年4月22～5月10日の見聞による〕	1911年4月22～5月10日の見聞による。
033	沙流に於ける美風〔1911年4月22～5月10日の見聞による〕	1911年4月22～5月10日の見聞による。
034	〔日記からの抜き書きなど〕	110編。吉田が荷負を離れ転任途上となる1913年2月9日までの日記から、荷負周辺で見聞したアイヌ文化に関するもののほか、平取・二風谷・貫気別・長知内を来訪した記録、1911年皇太子「行啓」時の「奉迎」記録、「薬価給与願」の提出の時のことなど。

ページ	もくじ	備考
045	中 日高国沙流アイヌ古老談話記録	もくじと採録地・被採録者名を記載。
045	ぴら・とり〔平村ピカンチャリほか〕	1911年5月19、21、6月24日。オキクルミ、ボン・ヤウンベに関すること、海嘯に関すること、イナウに関することなど。
046	にぶたに〔レウナほか〕	1911年5月21日、6月15日、8月8日ほか。 天文に関する話、パチュラーに関する記憶、入れ墨に関すること、祖先に関する伝承など。
050	ぺな・こり〔川上サノウクノほか〕	1911年5月21日、6月10日、8月18日ほか。 星について、「ボン・ヤウンベ」に関する伝承、「ボン・イタキ」について、など。
053	すけれべ〔木幡留吉ほか〕	1911年5月25日、8月15日ほか。 「トクナイというトノ」に関する伝承、「ハララキ」について、「テセウのニシバク、エドカツ兄弟」に関する伝承など。
055	ぼろ・さる	1911年5月9、18、28日ほか。 測量に雇われたときのこと、「カンナ・カムイ」に関する伝承、北見・十勝や「テセウのナヨロ」のアイヌに関すること、「フウリ」に関する伝承など。
067	におい	1911年6月12日 「沙流領のオツテナ」について、「フリ」に関する伝承など。
067	ぬっきべつ〔木村エカシタほか〕	1911年6月3、7日 「フウリ」に関する伝承、「ボン・ヤウンベ」について、家を留守にするときのことなど。
069	下 日高国沙流アイヌの昔話	全17話（うち1話については「別項昔話篇」とあり、ここには記されていない）。語り手の名などを「はしがき」に記す。
075	昔話	
075	まえがき	「本資料の多くは亡き教弟の協力をえて」収集したものであること、物語を提供した者の氏名、「本篇には日本語訳のみをかかげた」ことなどを述べる。
076	アイヌの説話	
	動物説話／植物説話／諸神説話／人物説話／求婚説話／	
	洞穴説話／妖魔説話／道德説話／器物説話／説話の比較	
082	シヤム・ウエベケレ（和人昔話）	吉田が十勝、胆振、日高において「アイヌ学童」より得た物語の「形式と内容」などに関する分析を記す。「例話」「付録」として物語のあらすじを記す。
090	昔話 65則（とちち 41則、いぶり 24則）	
090	牝熊の丈／麦の由来／トド松の正体／古木菟／銅鍋の歌謡／勇少年と鯨神／中島のまきさき／サマイクルと鬼／いたずら烏／犬猫の宝うばい／死人への催促／そそかし兎／禿犬の往生／日月の命の親／六星と三星と／アイヌと学問／兎の成の果／物云う犬／矢の目白／梟とイケマと／有珠山の火口／サマイクルとオオキリマと／不思議の魔剣／懸巢と勇士と／霊の独言／命か宝か／栗ものがたり／姉の嫉妬／山神は妻／人捕石と婆／猛熊狩／河瀬と狐と／イトウ夫と烏妻／お尻の勝負／妻のお乳／蟬翁／魔術狩／人捕ネズミ／兒捕ガシワ／熊の使い犬／梟の縫師／まま娘と狩人との奇縁／てんばつてきめん／妹のさんげ／豪勇の徳／夢の知らせ／だまされ狐／月中の人／金の銚／銀の銚／嫁の初笑顔／狐の毛色／河瀬の頭／奇しき鳥の告／三本の銀杭／蜂の神の幸／月と鏡と／ハマナス童女／酒買のしくじり／烏と少年／不思議の彫物／蛇の化身／姫の化身／栗踊／人喰銀串／金の銚／雲神のいとし児	それぞれに採録年月日の記載あり。
—	「日新随筆」正誤表	
—	あとがき	校訂者小林正雄による付記あり。この叢書におけるアイヌ語の表記に関する事情の説明などを記す。
No. 4	愛郷草子	（帯広市社会教育叢書）
—	まえがきにかえて	帯広市教育委員会教育長村瀬岩尾。
002	とちちのあけぼの／紙上録音	十勝の古老14名からの談話聞き取り記録。いずれも移民であるが、アイヌ史関係の記述も若干含まれる。
018	アイヌ先覚	「北海道社会事業」掲載のひかえによる、とあり。

ページ	もくじ	備考
018	ホテネ物語〔伏根弘三自叙〕	吉田による序文に続けて談話を紹介。「日本語を聞き且話しかけたいいとぐち」「宗教心のいとぐち」「サツナイアイヌ一団伏古へと」「初上京と前田正名氏」などの見出しあり。『民族学研究』掲載「古稀譚叢」参照とあり。
021	イベチカレ物語〔中村要吉自叙〕	吉田による序文に続けて談話を紹介。「祖先の来歴」「音更アイヌ解明と土人地下付問題」などの見出しあり。『民族学研究』掲載「杖のみたま」参照とあり。
024	コロボックル考	「昭和4年12月一相馬郷」とあり。 「明治45年7月一上川中学校校友会雑誌」とあり。 「昭和11年11月7日全国図書館週間に帯広図書館郷土講演会に於ける講演草稿にて、同月10日より15日まで6回に十勝毎日新聞に掲載す。」とあり。
029	蝦夷の黥について	
031	アイヌに関する雑話	
036	北海道先住民について	
041	北海壺碑（ほっかいづほのいしぶみ）	小谷部全一郎による建議を紹介し、虻田学園のことなどを記す。 「北海道旧土人教育会虻田学園報第7号明治43年7月31日」とあり。 「昭和11年10月26日」とあり。 「昭和11年6月15日」とあり。
041	北海道旧土人保護ニ関スル建議	
044	旧土人青年の教育	
046	アイヌの恐怖観念と風習	
050	日蝕とアイヌ	「昭和14年2月5日」とあり。 「昭和14年2月7日」とあり。
052	地名の変化	
052	漢字化したアイヌ語地名	
053	アイヌ語地名の第三次変化について	
054	火山地名の謎	地名の「ナイ」と「ベツ」、河・沢を表す地名などについてまとめたもの。 「昭和14年8月16日」とあり。
058	「沢」考	
058	地名のかぎ	
069	手児奈と蝶	
—	「愛郷譚叢」正誤表	
—	あとがき	
No. 5	愛郷往来	（帯広市社会教育叢書）
—	はしがき	帯広市教育委員会教育長村瀬岩尾。 1959年10月7日。短歌5編を記す。
—	自序にかえて	
001	A 談叢	毛根・芽室太における田村勝太郎ほか4名からの聞き取りの記録。 虻田学園時代の生徒で毛根出身の赤梁鏡造、山田徳太郎、芽室太出身の中田嘉一郎、川村太市、加藤河太郎からの採録。「動物に因むもの」「植物に因むもの」「人名に因むもの」「昔話」「熊送」「カムイロキ」（地名に因む説話）「犬の談判（チャランケ）」「アイヌの学問と米」「オタスツンクル」など。
001	榛の落葉 その1 古老談話記録 とかち 毛根・芽室太	
004	榛の落葉 その2 教弟記録 とかち 毛根・芽室太	釧路、白糠、厚岸を採訪したときの記録。啓明会のアイヌ調査事業の補助によることなどを記す。 スサのスケッチなどあり。
014	吹雪の土産 古老談話記録 くしろ 厚岸・春採・白糠	
020	B 書翰群芳 小野利永翁	小野利永は毛根尋常小学校教員をつとめた。芽室・毛根に関する新聞記事、小野からの吉田あて書簡などを掲載。 掲載した資料に関する説明。
020	附記	「明治43年3月12日北海タイムス」とあり 「明治43年3月18日北海タイムス」とあり 「大正4年1月20日北海タイムス」とあり 「大正4年1月21日北海タイムス」とあり 「大正4年1月26日」とあり 「大正4年2月7日北海タイムス」とあり 小野からの書簡を掲載。いずれも吉田の虻田学園在動中に毛根から送付されたものか。
020	資料(1)十勝の土人	
020	資料(2)	
021	資料(3)／野狐献上	
021	資料(4)／光榮に咽ぶ旧土人	
021	資料(5)／三色狐献上申進	
021	資料(6)／猷納の三色狐	
021	資料(7)	

ページ	もくじ	備考
030	奈良農夫也氏	奈良農夫也は長知内の教員をつとめた。 奈良に関する平取外八箇村史の記事などを紹介し、奈良から吉田宛て書簡を掲載。江賀寅三、向井山雄、武隈徳三郎らの消息に関する記述などあり。
035	沼田武男君	沼田武男は十勝の郷土史家。1957年、43歳で亡くなった。 沼田の略歴や学問の意義を述べ、吉田の日記中の沼田に関する記述や、沼田からの書簡を紹介。
067	あららぎの雫	短歌。「日新堂をめぐりて」「雑詠」と題す。 沼田武男から「晩年弥継早に」受けた書簡に記されたものとあり。
069	薫風帖	「『第二伏古尋常小学校記念歌』（安田巖先生作歌）」ほか吉田ゆかりの人々の短歌・詩など。
070	玉信一束	吉田のもとに寄せられた書簡の中から若干点を紹介。視察した学校関係者や小谷部全一郎からのもの。
080	雑録	
080	職印の身上話	吉田が使用してきた職印のうつりかわりを記し、これとの関わりで、公文書等における校名・職名の呼ばれ方、罫紙に印刷された校名などの問題に触れる。
082	親日・アイヌ研究家	フレデリック・スターとの関わりについて、関係する新聞記事などを紹介しつつまとめたもの。
—	「愛郷草紙」正誤表	帯広市社会教育叢書№3「愛郷譚叢」の正誤の追記もあり。
—	あとがき	
No. 6	愛郷春秋	(帯広市社会教育叢書)
—	はしがき	帯広市教育長村瀬岩尾名
—	おもいを述ぶ	短歌6首。「昭和35.8.8 第54回とかち移住記念日」とあり。
001	上	
001	とかち こばればなし（開道五十年）	1918年の「十勝旧土人連合自治矯風会発会式」に触れる。
002	かばとふきと（天然資源利用事例）	「昭和32.6.8、帯広市公民館にて談話発表」とあり。
005	余白録2則	
005	北海道あいぬ方言動物語彙譚	
005	魚類関係語彙	
007	貝類語彙について	
010	音韻変化	
010	概念変化	
015	昆虫類語彙	
017	方位	
018	あいぬ語いろいろ	
021	中 断腸録	
021	虻田学園をめぐりて	
022	身心たんれん保健強化	
023	教育の主義方針の体得	
026	先哲を語る（晴耕雨読抄）	小谷部全一郎について、吉田の「手記」から「抄録」したとあり。以下、各年ごとに日録形式で記載。
026	（天）明治40年—	
034	（地）明治41年—	
040	（人）明治42年—	
049	玉翰抄	小谷部から吉田あて書簡のうち41通を掲載。この項末尾の記載によれば吉田のもとで1907年から1941年まで157通を保管しているとあり。 小谷部全一郎による。
054	アイヌ風俗大観序文（写）	
056	無事庵・告別・弔詞・拝墓	
056	無事庵	1940年11月に東京の小谷部のもとを訪れたときの記録。
057	告別	1941年3月、小谷部家から吉田あて、小谷部全一郎の訃報。
057	弔詞	吉田による弔詞。
058	拝墓	1943年3月、小谷部の墓参をしたときの記録。

ページ	もくじ	備考
059	下	
059	日新草舎日録抄	
059	エハガキ／文身研究／本土のアイヌ地名／アイヌの死亡傾向／校名日新／校名出典／校名戒告／アイヌ除外の市史／混血純血／アイヌと語る／喜田博士／市史座談会／東武氏／故、巖城先生／石黒老 など	1934～40年の日付のある文章49編。
081	読むにまかせて	
081	後藤藏四郎氏著「出雲方言考」を読む。	
081	生蕃伝説集 読後感	
082	上田万年博士著「国語のため第二」をひもときて	
084	奥の細道、芭蕉翁文集をよむ	
084	楽器（ムックル）	古文獻の記録、吉田の北海道での見聞などを記す。
086	続玉信一束	「玉翰抄」の続きの意か。台湾花蓮港庁公学校山本英雄、台湾在住森要人らの書簡を掲載。
	「愛郷往来」正誤表 あとがき	
No. 7	渡辺勝・カネ日記（明治16年1月～21年2月）	（帯広市社会教育叢書）
No. 8	渡辺勝・カネ日記（明治20年5月～29年11月）	（帯広市社会教育叢書）
		吉田巖の資料の叢書をいったん休止し、十勝「開拓」の「先駆者」とされる晩成社の渡辺勝・カネの日記を刊行。
No. 9	吉田巖伝記資料	（帯広市社会教育叢書）
—	はしがき	帯広市教育長村瀬岩尾
—	例言	編者（小林正雄）
—	〔口絵写真〕	「中学生時代の吉田巖」「はじめて十勝に入国した吉田」「虻田時代の吉田」「晩年の吉田巖」など写真12点。
001	吉田巖年譜	
039	吉田巖履歴	
079	吉田巖公職年表	
091	吉田巖旅行年譜	
104	付録 吉田巖先生の生涯	小林正雄筆。『北海道の文化』掲載の再録。「ただし、若干の補稿・補訂が施されている」とあり。
107	付記	帯広市社会教育叢書第8巻の正誤表など。
No.10	アイヌ童話	（帯広市社会教育叢書）
—	はしがき	帯広市教育長上田章
—		「この童話は先生が十勝、胆振、日高に在職中蒐集されたものであり、明治四十五年七月にまとめられたものであります。」等とあり。
—	例言	小林正雄
—	〔吉田巖の和歌一首〕	例言中に解題あり。
—	アイヌ童話自序	「明治45年7月6日」とあり。
—	〔和歌一首〕	
—	凡例	
—	目次	
001	アイヌ童話概説	
001	アイヌ童話の基本資料／アイヌ童話の形式／アイヌ童話の内容／アイヌ童話の比較	
007	十勝アイヌ童話	
007	芽室太アイヌ童話	
007	熊の遺恨返し／麦の由来／樞松の正体／古木兎のお化／銅鍋の歌謡	
009	毛根アイヌ童話	
009	勇少年と鯨神／中嶋の薪伐／鬼とサマイクル／いたづら鳥／犬猫の宝奪ひ／気狂ひ爺／山腹の骨／鶴と熊との戦争／怪鳥征伐／死人への催促／そそかしやの兎／禿犬の往生／日月の命の親／六星と三星と／アイヌの学問／兎の成の果／物言ふ犬／時鳥の前身／矢の自白／梟とイケマと／有珠山の火口／猛鳥と二神	
016	伏古別アイヌ童話	

ページ	も く じ	備 考
016	不思議の魔剣／懸巢と勇士／不思議な家／命か宝か／粟物語／無慈悲の報ひ／山の神は妻／人捕りの石と婆／生肉は狼の妻／猛熊狩／油断大敵／狐の魚釣り／イトウ夫と烏妻／お尻の勝負／懸巢の賜／蟬爺／魔術狩人／人捕り鼠／兎捕り榭／熊の使い犬／木兎の縫師	
027	音更アイヌ童話	
027	小鳥の餌	
028	日高アイヌ童話	
028	シケレベ・幌去アイヌ童話	
028	六色の草花／桂の精霊／金の珠銀の珠／お化退治／猫の妻／極北の魔神／山鳥祭／鳥の成れの果／蜘蛛の婿取／天罰の披露／身から獼猴桃／妻奪ひ／福寿草の命／犬の靈魂	
040	沙流アイヌ童話	
040	宝玉奪ひ／鼠の穴宿／古十呂盤／熊送りのお相伴／金の孔雀と勇少年／勇者に神／山の兄君／光る鬼妻／夢要心／海宮の珠／狼のお化／河童のお護り／勇士イクレシエ／熊の肝／偽妻の狼／山の長者浜の長者／男嫌ひの女／熊の宝／雷神の祟り／洞穴物語／フウリ退治の勇士／銀マキリの鞘／亡妻の行方	
058	胆振アイヌ童話	
058	白老アイヌ童話	
058	不思議の結婚／天罰観面／妹の懺悔／武勇の功德／夢のしらせ／だまされ狐／残念だ、感心だ／銀の犬、金の犬／雁のお罰	
062	有珠アイヌ童話	
062	月中の人／金の鉛銀の銚／嫁の初笑顔／狐の毛色と河瀬の頭／孔雀の告げ／三本の銀杭／蜂の神の幸／月と鏡／河童征伐／玫瑰童女／酒買の失敗／慈愛の賜／不思議の彫物／蛇の獵人／思の化身	
070	渡島アイヌ童話	
070	長万部アイヌ童話	
070	錨の身の上話／栗踊の試験／蜘蛛と風神／妻選びの戒め／蝦夷錦／磯鳥勲功物語／人喰銀串／亡妻の哀歌／火神恋物語／狐の懺悔／オキクルミの銚／雲の神のいと子	
No.11	アイヌよもやまばなし	(帯広市社会教育叢書)
—	はしがき	帯広市教育長上田章
—	例言	小林正雄
009	唄	
011	アイヌ俗謡集	
018	アイヌ子守謡集	
023	謎と諺	
025	アイヌ謎々集	
032	アイヌ謎々集（後篇）	
041	アイヌ謎々集のしりへに	
042	アイヌ俚諺集	
047	言葉	
049	アイヌ命名考	生誕に関する迷信並に俚諺／命名に関する迷信／近來のアイヌの名／改名事件／命名の意義／命名の形式と内容／結論
056	アイヌ命名考 附録	
057	日本語とアイヌ語との類似	
063	アイヌ語より見たる日本地名	
071	アイヌ語地名に関する応問	
075	伝説	
077	有珠嶽とアイヌの伝説	
079	星に関するアイヌの伝説	
083	英雄譚	
085	アイヌの英雄神話（上）	第壹編 アイヌラックルの説話（第壹章 アイオイナカムイとしての説話／第貳章 オキクルミとしての説話）
089	アイヌの英雄神話（中）	第貳編 シャマイクルの説話（第壹章 シャマイクルの語義／第貳章 シャマイクルの出所／第參章 シャマイクルの事蹟）

ページ	もくじ	備考
096	アイヌの英雄神話（下）	第参編 ポンヤウンベの説話（第壹章 ポンヤウンベの異名と名称の分布／第弐章 ポンヤウンベ、ボイシコッペの語義／第参章 ポンヤウンベの出处／第四章 ポンヤウンベの事蹟／第五章 戦争・戦具に関する説話／第六章 戦争の範囲と地名・人名／第七章 ポンヤウンベの根拠地及び末路／第八章 ポンヤウンベの遺跡・遺物とコロボツクル説話）
114	アイヌ勇士物語	
No.12	愛郷歌集 上巻	（帯広市社会教育叢書）
—	序にかえて	帯広市教育委員会教育長上田章
—	例言	
—	稿本 瓦礫集（吉田巖作歌五十年記念）	
—	自序	「短歌五千九百四十首は我が作家生活五十年間の一部なり。／本年一月十日より二月廿一日まで四十三日の中三日の休止を除きて連日年来の歌稿の中より抄録してここに巻とす。／昭和廿二年二月廿二日」とあり。
001	〔明治三十二年～大正十五年〕	
No.13	愛郷歌集 下巻	（帯広市社会教育叢書）
—	例言	
—	稿本 瓦礫集（承前）	
001	〔昭和二年～二十一年〕	
065	遺稿 瓦礫集	
065	はしがき	編者小林正雄による。「吉田巖遺稿のうちに、起昭和十九年六月五日の歌稿ノート「瓦礫集、日新堂静夢」を見だし、そのうちの昭和二十二年以降、同三十三年九月十八日までを手抄し、これに日記の中に書きつけられた短歌を加えて本篇とした。」とあり。
067	〔昭和二十二年～三十八年〕	
—	付録 続 稿本 瓦礫集	
—	はしがき	
083	長歌・今様・新体詩	
093	つらねうた・たはぶれうた	
095	俳句・川柳	
No.14	とかちあいぬ研究 付・日新堂百話	（帯広市社会教育叢書）
—	緒言	編者小林正雄による。
007	とかちあいぬ研究	
009	神居沼物語	
013	十勝アイヌの生活と慣習	
013	衣服／食物／器具／産婦、生誕の慣習／疾病、治療の慣習／死葬の慣習／迷信俗伝／雑	
023	十勝アイヌ口碑伝承	
023	詞曲／歌謡／楽器／神話・伝説	
034	十勝アイヌの遊戯	
034	遊戯	
036	十勝日誌について	
037	日新堂百話	
No.15	筆にまかせて 付・日新堂漫筆	（帯広市社会教育叢書）
—	はしがき	編者による
007	筆にまかせて	
	北海道展望と諸国情景／ソパウシ物語／アイヌの語源語義について／後藤蔵四郎氏著出雲方言考を読む／將軍河辺正辺の名について／人名の称呼について／首締木について／日本語より転化したるアイヌ語／アイヌ語より転化したる日本語／民族心理より見たるアイヌの民族性／キムンアイヌと公時、鬼同丸／十勝に於ける先住民族に関する考察／チャシの一考察／アイヌのジャシについて／郷里の地名とアイヌ語／郷里の地名一つ二つ／百人一首からアイヌ語をたずねて／アイヌと弓矢／土佐日記からアイヌ語に及ぶ／アイヌ語から覗いた伊勢物語／富士山その他二、三火山名の考察／古事記をひもときたるままに	

ページ	も く じ	備 考
	／記にあらわれたる命名について／我が上代人と現代アイヌとの命名対比について／水の古言について／肉という語について／先人のコヒを水の古言とせし説について／古人の珍名について／指と擧丸の語について／物語草子の中にみえたる水に因むコイの古言／アイヌ語ウナ（灰）について／日本方言化するアイヌ語の一、二／アイヌ語と日本語との比較／日本語とアイヌ語との口について／アイについて／上田万年博士著国語のため第二をひもときて／	
041	日新堂漫筆	
No.16	書翰自叙伝	（帯広叢書）
005	書翰自叙伝（観桜篇）	白井柳治郎からの吉田宛て書翰を掲載。1910年1月19日付から1953年6月1日付けまで。
037	書翰自叙伝（恩師篇）	八巻嘉作、半杭信男、室伏力次郎、石井国次ほかの吉田宛て書翰を掲載。
057	書翰自叙伝（大人篇）	山崎恒一（北海道庁視学などを歴任）から吉田宛て書翰を掲載。吉田のほか江賀寅三関係の用件を含む。
067	書翰自叙伝（学兄篇）	森要人からの吉田宛て書翰を掲載。
073	書翰自叙伝（馬城少年篇）	相良左、末永俊太郎からの吉田宛て書翰を掲載。
083	あとがき	編者による。本書の成り立ちなどを記載。
No.17	書翰自叙伝 続編 付 吉田巖集	（帯広叢書）
007	書翰自叙伝（有朋篇）	朝枝文裕、村上久吉、林欣吾、藤村幹治、パンパ 同人一同ほかから吉田宛て書翰を掲載。
020	書翰自叙伝（成蹊篇）	大飼哲夫、名取武光、河野広道、道史編纂掛ほかから吉田宛て書翰を掲載。
037	書翰自叙伝（質疑篇）	磯辺精一、前田太郎、河野広道ほかから吉田宛て書翰を掲載。吉田に対する質疑、照会、資料の請求（借入・返却なども）などに関わる内容が主のようである。
044	書翰自叙伝（感激篇）	茅原華山、小田観堂ほかから吉田宛て書翰を掲載。冒頭に「あいぬ教育への所感、批判、注文、激励の数々、筆者心の碑への都教育者のいつわりなき声」と記す。
051	書翰自叙伝（永劫篇）	秩父宮附宮内属、二条基弘、ジョン・パチェラー、喜田貞吉、金田一京助ほかから吉田宛て書翰を掲載。
059	吉田巖集	吉田巖が発した書翰の控えか。1903年4月9日付から1906年3月4日付まで。末尾に「追記」として昭和21年12月5日付の文を付す。
089	あとがき	編者による。
No.18	書翰自叙伝 拾遺	（帯広叢書）
007	書翰自叙伝（同化篇）	佐藤善治郎、金子一郎、北構保男ほかから吉田宛て書翰を掲載。
012	書翰自叙伝（友兄篇）	奈良農夫也（長知内の教員をつとめた）から吉田宛て書翰26点を掲載。スケッチが若干点見られる。
020	書翰自叙伝（道南篇）	手代木隆吉（衆議院議員などをつとめた）、吉田貫一（静内の高静尋常高等小学校長、静内町長などをつとめた）ほかから吉田宛て書翰を掲載。
024	書翰序序伝（松堂篇）	池浦松太郎（姉妹女学校）から吉田あて書翰を掲載。
029	書翰自叙伝（高砂篇）	山本英雄（台湾花蓮港庁の公学校長、視学等を歴任）から吉田あて書翰を掲載。
035	吉田巖集 続編	吉田発の書翰、吉田による原稿など。
049	河野常吉氏書翰	財団法人啓明会補助アイヌ調査事業関係文書。河野常吉から吉田宛て書翰。
061	年賀状雑感	
063	年賀状雑感／昭和十一年賀状抄／年賀状雑感／昭和十二年賀状抄／年賀状一まくり	
074	あとがき	
No.19	北海道十勝国移住案内	（帯広叢書）
		1888年鈴木親長による『北海道移住案内十勝国支部』の翻刻
No.20	吉田巖日記 第一	（帯広叢書）
003	発刊にあたって	帯広市教育長野崎政一。
005	例言	

ページ	もくじ	備考
007	口絵写真	「吉田巖日記」〔筆蹟（明治二十九年「日誌」）〕 「中学時代の佐藤（吉田）巖」 1899年7月21日～8月31日 1899年12月24日～1900年1月7日
011	明治二十八年 日誌	
055	明治三十年 いはほ家集	
095	明治三十二年 中村原往復行軍日誌	
103	明治三十二年 日誌	
119	明治三十二年 日誌	
127	解題	
No.21	吉田巖日記 第二	（帯広叢書）
	例言	編者（小林正雄）。
007	明治三十三年 覚	
015	明治三十三年 懷中日記	
035	明治三十三年 暑中休暇の友	
071	明治三十三年 日誌	
081	明治三十四年 身の石据	
085	明治三十四年 懺悔集	
089	明治三十四年 病室漫筆	
097	明治三十四年 漫言漫筆	
113	明治三十四年 夏季休業日誌摘録	
119	明治三十四年 手扣	
133	明治三十四年 手帳	
151	明治三十五年 手帳	
163	明治三十五年 留守居日誌	
173	明治三十五年 紫石随筆	
187	明治三十五年 鐵杖草稿	
193	明治三十五年 雑言雑録	
199	明治三十五年 學窓偶筆	
219	明治三十六年 森羅萬象	
No.22	吉田巖日記 第三	（帯広叢書）
	例言	編者（小林正雄）。
007	明治三十六年 粗々密々	
035	明治三十六年 聾啞録	
067	明治三十六年 ははきの塵	
085	明治三十六年 森羅萬象	
093	明治三十六年 学校日誌	
113	明治三十七年 日誌	
193	明治三十八年 日誌	
No.23	吉田巖日記 第四	（帯広叢書）
	例言	編者（小林正雄）。叢書のバックナンバーの紹介あり。
007	明治三十八年 北海日誌	
029	明治三十九年 あいぬ雑話	
037	明治三十九年 大日誌	
111	明治三十九年 旅行雑感	
187	明治四十年 あいぬ語	
237	明治四十年 虻田学園日誌	
251	明治四十年 日記	
No.24	吉田巖日記 第五	（帯広叢書）
	例言	筆者名記載なし（小林正雄によるか）。
	帯広叢書既刊分目録	
007	明治四十一年 日記	
047	明治四十二年 日記	
097	昭和四十三年 日記（一月一日～十月二十五日）	
131	昭和四十三年 日記（十一月四日～二十五日）	
143	昭和四十三年 日記（十一月二十六日～明治四十四年三月三十日）	
171	昭和四十四年 日記	
No.25	吉田巖日記 第六	（帯広叢書）
	例言	帯広市図書館長田代廣和
009	明治四十四年 日記（七月一日～十二月三十一日）	
041	明治四十五年 日記（一月一日～四月十一日）	
071	明治四十五年 日記（四月十二日～七月五日）	

ページ	もくじ	備考
085	明治四十五年 日記（七月六日～九月二十六日）	
127	大正元年 日記（九月二十七日～十月二十三日）	
155	大正元年 日記（十月二十四日～十二月十五日）	
No.26	吉田巖日記 第七	（帯広叢書）
	例言	編者（井上寿）
	帯広叢書既刊分目録	
009	大正元年 日記（十二月十五日～二年一月十五日）	
035	大正二年 日記（一月十六日～四月二十一日）	
065	大正二年 日記（四月二十一日～八月三十一日）	
089	大正二年 日記（九月一日～十二月十一日）	
107	大正二・三年 日記（十二月十二日～三年五月三十日）	
129	編集後記	
No.27	吉田巖日記 第八	（帯広叢書）
	例言	編者（井上寿）
	帯広叢書既刊分目録	
007	大正三年 日記（五月三十一日～七月二十日）	
019	大正三年 日記（七月二十一日～十二月三十一日）	
059	大正四年 日記（一月一日～十二月三十一日）	
121	編集後記	
No.28	吉田巖日記 第九	（帯広叢書）
	例言	編者（井上寿）
	帯広叢書既刊分目録	
009	大正六年 日記（一月一日～八月二十五日）	
063	大正六年 日記（八月二十五日（続き）～十二月三十一日）	
091	大正七年 日記（一月一日～五月十二日）	
115	編集後記	
No.29	吉田巖日記 第十	（帯広叢書）
	例言	編者（井上寿）
	帯広叢書既刊分目録	
009	大正七年 日記（五月十三日～十一月二十七日）	
053	大正七年～八年 日記（大正七年十一月二十八日～八年六月二十二日）	
101	大正八年 日記（大正八年六月二十二日（前のつづき）～七月三十一日）	
111	編集後記	
No.30	吉田巖日記 第十一	（帯広叢書）
	例言	編者（井上寿）
	帯広叢書既刊分目録	
009	大正八年 日記（八月一日～十二月三十一日）	
053	大正九年 日記（一月一日～十月三十一日）	
105	編集後記	
	〔吉田巖日記第十 63ページの図の補遺〕	63ページ「アクションポップ」、72ページ「ヌササン」
No.31	吉田巖日記 第十二	（帯広叢書）
	例言	編者（井上寿）
	帯広叢書既刊分目録	
009	大正九年 日記（続き）（十一月一日～十二月三十一日）	
021	大正十年 日記（一月一日～十月七日）	
063	大正十年 日記（十月八日～十二月三十一日）	
075	大正十一年 日記（一月一日～五月三十一日）	
093	編集後記	
No.32	吉田巖日記 第十三	（帯広叢書）
	例言	編者（井上寿）
	帯広叢書既刊分目録	
009	大正十一年 日記（続き）（六月一日～十二月三十一日）	
033	大正十二年 日記（一月一日～十二月三十一日）	
079	大正十三年 日記（一月一日～十二月三十一日）	
129	大正十四年 日記（一月一日～七月三十一日）	
161	編集後記	

ページ	もくじ	備考
No.33	吉田巖日記 第十四	(帯広叢書)
	例言	編者(井上寿)
009	帯広叢書既刊分目録	
	大正十四年 日記(続き)(八月一日～十二月三十一日)	
037	大正十五年、昭和元年 日記(一月一日～十二月三十一日)	
093	昭和二年 日記(一月一日～十二月三十一日)	
131	昭和三年 日記(一月一日～十二月三十一日)	
173	編集後記	
No.34	吉田巖日記 第十五	(帯広叢書)
	例言	編者(井上寿)
	帯広叢書既刊分目録	
009	昭和四年 日記(一月一日～十二月三十一日)	
067	昭和五年 日記(一月一日～十二月三十一日)	
127	昭和六年 日記(一月一日～十二月三十一日)	
181	編集後記	
No.35	吉田巖資料集 1	(帯広叢書)
	〔口絵写真〕	帯広市空撮写真。「帯広のあらまし」「沿革」などの説明文あり。 帯広市長高橋幹夫。 北海道ウタリ協会帯広支部長笹村二郎。
	序	
	発刊によせて	
	吉田巖遺稿資料整理の概要	
	〔吉田巖写真「ご自宅の床の間前で」〕	
	〔吉田巖家系図〕	
	父を語る	吉田よし子
	凡例	
015	日記1 虻田学園日誌	赤築鐵造(記述)・藤村久和(訳注)
103	日記2 虻田学園日誌	赤築鐵造(記述)・藤村久和(訳注)
107	小谷部家からの書翰資料	小谷部全一郎ほか。藤村久和訳注。
295	出現語彙一覧	若月亨(編集)
303	あとがき	藤村久和
No.36	吉田巖資料集 2	(帯広叢書)
	〔口絵写真〕	絵葉書16点(靖国神社、1910年虻田学園年賀絵葉書など) 帯広市長高橋幹夫。 北海道ウタリ協会帯広支部長笹村二郎。 帯広市図書館館長石谷善吾。
	序	
	発刊によせて	
	発刊のことば	
	凡例	
009	小谷部からの書翰資料(2)	小谷部全一郎ほか(記述)、生田俊彦(解題)、藤村久和(訳注)
207	日記3-1 吉田巖日記(昭和7年1月)補遺	吉田よし子、藤村久和(訳注) 松本良雄。帯広叢書前号の虻田学園日誌について「虻田がよく活写されていて面白く拝見。地元に住む者として発信します」と記し、日誌に登場する地名、建物等について解説を加える。 若月亨(編集)
	出現語彙一覧	
	あとがき	
No.37	吉田巖資料集 3	(帯広叢書)
	〔口絵写真〕	絵葉書32点(泉岳寺、小谷部全一郎年賀状、「大正元年九月虻田土人学校訪問記念」1910年虻田学園年賀絵葉書など)。別添「補遺」参照。 帯広市長高橋幹夫。 北海道ウタリ協会帯広支部長笹村二郎。 帯広市図書館館長石谷善吾。
001	序	
002	発刊によせて	
003	発刊のことば	
004	凡例	
009	日記4 虻田学園日誌(明治43年4月～7月)	江賀寅三(記述)、松本良雄・藤村久和(訳注)
121	日記3-2 吉田巖日記(昭和7年2月～4月)	吉田よし子・藤村久和(訳注)
229	出現語彙一覧	若月亨(編集)
	あとがき	藤村久和
	〔別添で「補遺」あり〕	A4判1枚、口絵写真の絵葉書に関する解説。

ページ	もくじ	備考
No.38	吉田巖資料集 4	(帯広叢書)
	〔口絵写真〕	「帯広市全形」「県社帯広神社」など24点。帯広市制記念写真帳より抜粋。〔「あとがき」による〕
001	序	帯広市長高橋幹夫。
002	発刊によせて	北海道ウタリ協合理事長笹村二郎。
003	発刊のことば	帯広市図書館館長石谷善吾。
004	凡例	
009	日記5 室長日誌（明治43年5月5日～6月10日）	谷丑蔵（記述）、松本良雄・藤村久和（訳注）
061	日記3－3 吉田巖日記（昭和7年5月～8月）	吉田よし子・藤村久和（訳注）
195	宇治拾遺物語・今昔物語論評	吉田巖（記述）、小野善也・吉田真弓（訳注）
255	出現語彙一覧	若月亨（編集）
271	あとがき	藤村久和
No.39	吉田巖資料集 5	(帯広叢書)
	〔口絵写真〕	帯広市制記念写真帳より抜粋。〔「あとがき」による〕
001	序	帯広市長高橋幹夫。
002	発刊によせて	北海道ウタリ協合理事長笹村二郎。
003	発刊のことば	帯広市図書館館長石谷善吾。
004	凡例	
009	日記4－2 夏期休業日誌（明治43年7月16日～8月27日）	江賀寅三（記述）、藤村久和（訳注）
091	日記3－4 吉田巖日記（昭和7年9月～12月）	吉田よし子・藤村久和（訳注）
235	数学遊戯 竹貫直人著	吉田巖（記述）、小野善也・吉田真弓（訳注）
247	出現語彙一覧	若月亨（編集）
271	あとがき	藤村久和
No.40	吉田巖資料集 6	(帯広叢書)
	〔口絵写真〕	帯広市制記念写真帳より抜粋。〔「あとがき」による〕
001	発刊によせて	帯広市長砂川敏文
002	発刊によせて	北海道ウタリ協合理事長笹村二郎
003	発刊のことば	帯広市図書館館長武士沢康夫
004	凡例	
009	日記6 虻田学園日誌抄（明治42年2月7日～7月11日）	生島松吉ほか（記述）、藤村久和・松本良雄（訳注）
037	日記3－5 吉田巖日記（昭和8年1月～4月）	吉田よし子ほか（訳注）
177	文書綴1 虻田第二尋常小学校同窓会	虻田第二尋常小学校同窓会員（記述）、松本良雄・藤村久和（訳注）
239	諺集1	吉田巖（記述）・小野善也 他（訳注）
295	出現語彙一覧	楠原浩史、中川朋子（編集）
314	あとがき	
No.41	吉田巖資料集 7	(帯広叢書)
	〔口絵写真〕	帯広市制記念写真帳より抜粋。〔「あとがき」による〕
001	発刊によせて	帯広市長砂川敏文
002	発刊によせて	北海道ウタリ協合理事長笹村二郎
003	発刊のことば	帯広市図書館館長石谷善吾
004	凡例	
009	日記3－6 吉田巖日記（昭和8年5月～9月）	吉田よし子ほか（訳注）
209	諺集2	吉田巖（記述）、小野善也（訳注）
243	文書綴1－2 虻田第二尋常小学校同窓会	虻田第二尋常小学校同窓会（記述）、松本良雄（訳注）
273	出現語彙一覧	楠原浩史、中川朋子（編集）
289	あとがき	藤村久和
No.42	吉田巖資料集 8	(帯広叢書)
	〔口絵写真〕	帯広市制記念写真帳より抜粋。〔「あとがき」による〕
001	発刊によせて	帯広市長砂川敏文
002	発刊によせて	北海道ウタリ協合理事長笹村二郎
003	発刊のことば	帯広市図書館館長中川正嘉
004	凡例	
009	アイヌ調査書 1	吉田巖（記述）、藤村久和（訳注）
095	日記3－7 吉田巖日記（昭和8年10月～12月）	吉田よし子ほか（訳注）
231	諺集3 名言・名句集	吉田巖（記述）、小野善也・吉田真弓（訳注）
263	出現語彙一覧	楠原浩史、中川朋子（編集）
276	あとがき	藤村久和

ページ	もくじ	備考
No.43	吉田巖資料集 9	(帯広叢書)
	〔口絵写真〕	「北海道庁立日新尋常小学校閉校記念」ほか
001	発刊によせて	帯広市長砂川敏文
002	発刊によせて	北海道ウタリ協会理事長笹村二郎
003	発刊のことば	帯広市図書館館長中川正嘉
004	凡例	
009	アイヌ調査書 2	吉田巖（記述）、藤村久和（訳注）
031	日記 3－8 吉田巖日記（昭和 9 年 1 月～6 月）	吉田よし子ほか（訳注）
181	日記 4－3 心の華	江賀寅三（記述）、藤村久和（訳注）
223	諺集 4 いまは集	吉田巖（記述）、小野善也他（訳注）
251	出現語彙一覧	楠原浩史、中川朋子（編集）
261	あとがき	藤村久和
No.44	吉田巖資料集 10	(帯広叢書)
	〔口絵写真〕	絵葉書15点
001	発刊によせて	帯広市長砂川敏文
002	発刊によせて	北海道ウタリ協会理事長笹村二郎
003	発刊のことば	帯広市図書館館長中川正嘉
004	凡例	
009	アイヌ調査書 3－1	吉田巖（記述）、藤村久和（訳注）
081	日記 3－9 吉田巖日記（昭和 9 年 7 月～12 月）	吉田よし子ほか（訳注）
213	児童作品 1 国の宝	江賀寅三（記述）、藤村久和（訳注）
269	諺集 5 万国人名辞書－1	吉田巖（記述）、小野善也・吉田真弓（訳注）
281	出現語彙一覧	楠原浩史、中川朋子、松本尚志、鈴木奈緒美、藤村久和（編集）
323	あとがき	藤村久和
No.45	吉田巖資料集 11	(帯広叢書)
	〔口絵写真〕	『十勝大観』より
002	凡例	
007	日記 3－10 吉田巖日記（昭和10年 1 月～3 月）	吉田よし子ほか（訳注）
143	調べ書き 1－1 政府保管米払下該当者選定資料	吉田巖（記述）、松本尚志ほか（訳注）
213	抜き書き 1－6 万国人名辞書－2	吉田巖（記述）、小野善也・吉田真弓（訳注）
237	出現語彙一覧	松本尚志、鈴木奈緒美、山岸千夏、藤村久和（編）
252	あとがき	藤村久和
No.46	吉田巖資料集 12	(帯広叢書)
	〔口絵写真〕	『十勝大観』より
002	凡例	
007	日記 3－11 吉田巖日記（昭和10年 4 月～6 月）	吉田よし子ほか（訳注）
191	調べ書き 1－2 昭和 7 年度町税特別税等・昭和会等資料	松本尚志ほか（訳注）
247	抜き書き 1－7 万国人名辞書－3	吉田巖（記述）、小野善也・吉田真弓（訳注）
261	出現語彙一覧	松本尚志、鈴木奈緒美、山岸千夏、藤村久和（編）
277	あとがき	藤村久和
No.47	吉田巖資料集 13	(帯広叢書)
	〔口絵写真〕	『十勝国産業写真帖』より
002	凡例	
007	アイヌ調査書 3－2	吉田巖（記述）、藤村久和（訳注）
047	日記 3－12 吉田巖日記（昭和10年 7 月～9 月）	吉田よし子ほか（訳注）
219	抜き書き 1－8 万国人名辞書－4 諺林・三代集－1	吉田巖（記述）、小野善也・吉田真弓（訳注）
259	出現語彙一覧	松本尚志、鈴木奈緒美、山岸千夏、藤村久和（編）
274	あとがき	藤村久和
No.48	吉田巖資料集 14	(帯広叢書)
	〔口絵写真〕	『十勝国産業写真帖』より
002	凡例	
007	日記 3－13 吉田巖日記（昭和10年10月～昭和11年 3 月）	吉田よし子ほか（訳注）
211	調べ書き 2 昭和10年全日本方面委員大会・参加出納簿他	吉田巖（記述）、松本尚志、藤村久和（訳注）
231	調べ書き 3 昭和10年全日本方面委員大会・旅中メモ他	吉田巖（記述）、松本尚志・藤村久和（訳注）
293	出現語彙一覧	

ページ	もくじ	備考
311	あとがき	藤村久和
No.49	吉田巖資料集 15	(帯広叢書)
	〔口絵写真〕	『十勝国産業写真帖』より
002	凡例	
007	アイヌ調査書 3-3	吉田巖 (記述)、藤村久和 (訳注)
089	日記 3-4 吉田巖日記 (昭和11年4月～6月)	吉田よし子ほか (訳注)
211	児童作品 2 国の宝 2	江賀寅三 (記述)、藤村久和 (訳注)
221	著作原稿 1 観菊御会御召宴拝戴に対する祝辞類	吉田巖 (記述)、藤村久和・岡本実千世 (訳注)
233	著作原稿 2 吉田巖履歴他 (北海道旧土人保護施設改善案、行幸行啓、日蝕について)	吉田巖 (記述)、藤村久和・岡本実千世 (訳注)
257	抜き書き 1-9 三代集 2	吉田巖 (記述)、小野善也、吉田真弓 (訳注)
271	出現語彙一覧	松本尚志、鈴木奈緒美、岡本実千世、藤村久和 (編)
286	あとがき	藤村久和
291	原資料〔国の宝〕	
No.50	吉田巖資料集 16	(帯広叢書)
	〔口絵写真〕	『十勝国産業写真帖』より
002	凡例	
007	アイヌ調査書 4-1	吉田巖 (記述)、藤村久和 (訳注)
061	日記 3-15 吉田巖日記 (昭和11年7月～9月)	吉田よし子ほか (訳注)
221	著作原稿 3 奏上案原稿	吉田巖 (記述)、藤村久和・岡本実千世 (訳注)
233	著作原稿 4 奏上文	吉田巖 (記述)、藤村久和・岡本実千世 (訳注)
243	著作原稿 5 『北海道社会事業』原稿	吉田巖 (記述)、藤村久和・岡本実千世 (訳注)
251	著作原稿 6 御聖徳をたたふる歌	吉田巖 (記述)、藤村久和・岡本実千世 (訳注)
255	著作原稿 7 全日本方面委員連盟への報告	吉田巖 (記述)、藤村久和・岡本実千世 (訳注)
263	出現語彙一覧	松本尚志、三浦知子、岡本実千世、藤村久和 (編)
279	注釈用参考文献一覧	
	あとがき	藤村久和
No.51	吉田巖資料集 17	(帯広叢書)
	〔口絵写真〕	『十勝国産業写真帖』より
002	凡例	
007	アイヌ調査書 4-2	吉田巖 (記述)、藤村久和 (訳注)
107	日記 3-16 吉田巖日記 (昭和11年10月～12月)	吉田よし子、松本尚志、藤村久和 (訳注)
189	調べ書き 4-1 昭和9年北海道方面委員大会・旅中メモ 他	吉田巖 (記述)、松本尚志・藤村久和 (訳注)
219	著作原稿 8 「心の碑」を繞りて	吉田巖 (記述)、藤村久和 (訳注)
265	著作原稿 9～12 講演草稿、宣誓詞他	松本尚志、三浦知子、岡本実千世、藤村久和 (編)
279	出現語彙一覧	
297	注釈用参考文献一覧	
300	あとがき	藤村久和
No.52	吉田巖資料集 18	(帯広叢書)
	〔口絵写真〕	『十勝国産業写真帖』より。「河西郡伏古村旧土人の状況」あり。
002	凡例	
007	日記 3-17 吉田巖日記 (昭和12年1月～3月)	吉田よし子、松本尚志、藤村久和 (訳注)
129	調べ書き 4-2 アイヌ文化に関する聞き書き その他のメモ	吉田巖 (記述)、松本尚志・藤村久和 (訳注)
215	出現語彙一覧	松本尚志、三浦知子、岡本実千世、藤村久和 (編)
232	注釈用参考文献一覧	
235	あとがき	藤村久和
No.53	吉田巖資料集 19	(帯広叢書)
	〔口絵写真〕	『十勝国産業写真帖』より。「河西郡伏古村旧土人の状況」あり。
002	凡例	
007	日記 3-18 吉田巖日記 (昭和12年4月～8月)	吉田よし子、松本尚志、藤村久和 (訳注)
229	抜き書き 2-1 日本語学一班 2-2 日本文法	吉田巖 (記述)、岡本実千世、三浦知子、藤村久和 (訳注)
255	出現語彙一覧	松本尚志、三浦知子、岡本実千世、藤村久和 (編)
269	注釈用参考文献一覧	
273	あとがき	藤村久和
No.54	吉田巖資料集 20 虻田第二尋常小学校同窓会資料 1	(帯広叢書)
	〔口絵写真〕	吉田巖遺稿資料中の虻田、有珠関係写真

ページ	もくじ	備考
002 007 139 144 149	凡例 文書綴 1－3 虻田第二尋常小学校同窓会 出現語彙一覧 あとがき 原資料	虻田第二尋常小学校同窓会（記述）、松本尚志、藤村久和（訳注） 吉田巖（記述）、岡本実千世、三浦知子、藤村久和（訳注） 藤村久和。口絵写真の解説あり。
No.55	吉田巖資料集 21 〔口絵写真〕	（帯広叢書） 『十勝国産業写真帖』より。「河西郡伏古村旧土人の状況」あり。
002 007 099 235 253 267 270	凡例 アイヌ調査書 5 日記 3－19 吉田巖日記（昭和12年 9 月～12 月） 著作原稿13 北海道先住民族について 出現語彙一覧 注釈用参考文献一覧 あとがき	吉田巖（記述）、藤村久和（訳注） 吉田よし子、松本尚志、藤村久和（訳注） 吉田巖（記述）、藤村久和（訳注） 松本尚志、三浦知子、岡本実千世、藤村久和（編） 藤村久和
No.56	吉田巖資料集 22 虻田第二尋常小学校同窓会資料 2 〔口絵写真〕	（帯広叢書） 小谷部全一郎旧蔵写真より。『明治年間の虻田とアイヌの人びと』（北海道開拓記念館、1995年）からの転載。
002 007 119 125 133	凡例 文書綴 1－4 虻田第二尋常小学校同窓会 出現語彙一覧 あとがき 原資料	虻田第二尋常小学校同窓会（記述）、松本尚志、藤村久和（訳注） 吉田巖（記述）、岡本実千世、三浦知子、藤村久和（訳注） 藤村久和。口絵写真の解説あり。
No.57	吉田巖資料集 23	（帯広叢書）
002 007 073 237 249 267 270	凡例 アイヌ調査書 6（第 6 編 産業） 日記 3－20 吉田巖日記（昭和13年 1 月～6 月） 著作原稿14 アイヌの珍名奇名 出現語彙一覧 注釈用参考文献一覧 あとがき	吉田巖（記述）、藤村久和（訳注） 吉田よし子、松本尚志、藤村久和（訳注） 吉田巖（記述）、藤村久和（訳注） 吉田巖（記述）、岡本実千世、千葉章仁、藤村久和（訳注） 藤村久和
No.58	吉田巖資料集 24 虻田第二尋常小学校同窓会資料 3	（帯広叢書）
002 007 129 135 137	凡例 文書綴 1－5 虻田第二尋常小学校同窓会 出現語彙一覧 あとがき 原資料	虻田第二尋常小学校同窓会（記述）、松本尚志、藤村久和（訳注） 吉田巖（記述）、岡本実千世、三浦知子、藤村久和（訳注） 藤村久和。口絵写真の解説あり。

V 参考資料

(1) 帯広市図書館所蔵吉田巖遺稿資料の概要

【凡例及び注】

- 1 帯広市図書館が作成した目録をもとに補足・訂正を加えて再構成したものである。ただし、書翰、図書・雑誌、新聞切り抜きは割愛し、主に文書類についてまとめたものである。
- 2 「箱番号」は帯広市図書館における現在の資料の収蔵順のおおよそを示す。この番号が、現在の閲覧用のコピー製本の配列順に対応しており、マイクロフィルムの撮影単位にもおおむね対応している。

箱番号	資 料 名
1	胆振アイヌ語方言語彙カード
2	アイヌ語方言語彙カード
3	アイヌ語方言語彙カード
4	アイヌ語方言語彙カード
5	アイヌ語方言語彙カード
6	アイヌ語方言語彙カード（アイヌ文法、語法メモ）
7	アイヌ語方言語彙カード
8	アイヌ語会話辞典、アイヌ謎採録、他
9	アイヌ語方言語彙カード（日高アイヌ方言）
10	アイヌ語方言語彙カード（釧路、日高アイヌ方言）
11	国郡別アイヌ地名語彙カード
12	国郡別アイヌ地名語彙カード
13	国郡別アイヌ地名語彙カード
13	アイヌ語法概説
13	人名録
13	諸書からの抜き書き
14	封筒、その他
14	メモ（ファイル）
14	アイヌの踊り（ファイル）
14	アイヌラックルの伝説（ファイル）
14	火の用心守り札、委嘱書、領収書、その他3点
14	手紙（児童作品あり）電報、皇太子行幸記念、アイヌ研究
14	新聞切り抜き11点・住所録（メモ）
14	沙流アイヌ語彙抄録
14	教育関係（書翰控え）
14	ヒグマに関するメモ
14	蛇に關しての児童作文（8点）
14	ノート1冊分（草木等に関して）
14	ノート片（6枚つづり）
14	資料の裏（短歌、俳句あり）
15	民譚集「封筒の裏書き40枚」
15	アイヌ民譚集の抜き書き
15	アイヌ民譚集の抜き書き
15	アイヌ語法概論
15	英語メモ
15	アイヌ語法概論
15	アイヌ語法概説
15	アイヌ語法発音、アイヌ語文
15	アイヌ聖典の抜き書き1-2（封筒より）
15	金田一蝦夷神典の抜き書き（封筒より）
15	蝦夷語彙からの抜き書き
15	蝦夷国語（写し）（ファイル）
15	蝦夷行記（写し）（ファイル）
15	アイヌ語文法書（ファイル）
15	アイヌ語文（ファイル）
16	沼田武男書翰
16	電報文控 メモ 1点
16	既刊発表資料
16	原稿目録
16	アイヌの十勝、その他
16	北方古典語研究所蔵アイヌ調査資料選
16	村の教育 第二号（虻田村教育会）
16	良友 第5号、第17号（皇太子行啓記念）
16	あいぬの昔話
16	児童の作品や言葉づかい（9枚）
16	伏古日誌抄（M37～S6年）
16	研究資料（5点）月名のメモ/アイヌの治療/金田一よりアイヌ語抜き書き/ドンボ舟について/十和田湖名、その他
17	文書綴

箱番号	資 料 名
17	原稿目録 1枚
17	手紙の複写 7枚
17	年賀状雑感（s28、29、31、32、34年分）
17	伏根弘三年譜
17	書翰受信録・バラ 2枚
17	手紙、手紙の下書き
17	日新尋常小学校平面図と席順メモ
17	十勝郷土資料室運営協議会案内ハガキ19枚（ファイル）
17	十勝郷土資料室運営協議会綴
17	地名カード20枚（ファイル）
17	昭和19年誌雑感メモ
17	書翰控え バラ
18	十勝あいぬ方言語法資料
18	日高あいぬ方言語法資料
18	胆振あいぬ方言語法資料
18	北海道あいぬ方言語法資料
18	北海道あいぬ方言語法点精
18	日高あいぬ方言資料（音韻語法）
18	虻田学園子弟発音用語調査資料
18	アイヌ方言資料 A、B、C
18	アイヌ語文法
18	十勝アイヌ発音用語資料
18	アイヌ青少年の和語使用に表れたる諸相
18	吉田式語法要 北海道移住五十年記念
18	アイヌ学童の発音と使用語につきて
18	アイヌ学童の発音と使用語（日新尋常小学校）2部
18	アイヌ学童の発音と使用語（第二伏古尋常小学校）
18	罵語軽蔑を表現するアイヌ語
18	言語上変化の種類、他
18	アイヌ学校教師の目に映じたる生蕃人
19	北海道あいぬ方言語彙集成稿、胆振語彙の部 「伝承、信仰他」
19	北海道あいぬ方言語彙集成稿、胆振方言語彙の部 「言語、副詞」
19	北海道あいぬ方言語彙集成稿、胆振方言語彙
19	北海道あいぬ方言語彙集成稿、胆振語彙の部 「言語、動詞」
19	北海道あいぬ方言語彙集成稿、胆振方言語彙の部 「人文偏・人倫」
19	北海道あいぬ方言語彙集成稿、胆振方言語彙 「器具、衣服他」
19	北海道あいぬ方言語彙集成について
19	北海道あいぬ方言動物語彙譚
19	北海道あいぬ方言動物語彙譚 参考資料（松浦武四郎蝦夷日誌集抄）
19	北海道あいぬ人用語彙 一～三
20	北海道あいぬ方言語彙集成 東北海道編
20	北海道あいぬ方言語彙集成 日高編
20	北海道あいぬ方言語彙集成 胆振編
20	北海道あいぬ方言語彙集成稿 胆振方言語彙の部 「天文、地文」
20	北海道あいぬ方言語彙集成稿 胆振方言語彙の部 「言語」
20	北海道あいぬ方言語彙集成稿 胆振方言語彙の部 「動物、植物」
20	帯広市伏古チョーマトウの名義と伝説
20	『内観』（アイヌ語地名解）
20	THE AINU KENKYUU（『阿夷奴研究』『アイヌ研究』）
20	和漢三才図会、蝦夷国語について
21	相馬の方言とアイヌ語

箱番号	資 料 名
21	アイヌに関する雑誌
21	明治41年9月21日ヨリ執筆
21	アイヌの色彩観念
21	アイヌ民族と文芸
21	アイヌのお葬式
21	塩と砂糖と
21	アイヌ雑事
21	十勝国名蹟神居沼古謡
21	アイヌの謡曲説話等に現れたる地名
21	アイヌ民族史参考資料
21	アイヌ語雑話
21	アイヌの婚姻について、アイヌの生誕、命名につきて
21	アイヌの結婚につきて
21	日本支那朝鮮の原人
21	愛奴
21	日本民族対アイヌ
21	アイヌニ関スル講話
21	アイヌ民族史
21	アイヌ民族史
21	蝦夷隨筆について
21	雪覆について
21	北海道におけるチャシに因める地名分布表
21	秩父宮殿下令徳餘韻
21	そぞろごと
21	十勝国上川郡清水町参考史料
21	国名飛騨語源考
21	国名飛騨語源考
21	日本語、アイヌ語、その他
21	胆振国虻田郡虻田村地方誌資料
21	椎の葉（応問）
21	日高国沙流郡平取村地方誌資料
21	アイヌの医草と香料とに就いて（応問）
21	源義経入夷並びに末路考
21	源義経入夷説並びに末路考資料
21	アイヌの薬用植物並びに食用植物
21	アイヌの命名につきて（応問）
21	アイヌの命名につきて
21	アイヌの命名につきて
21	アイヌ命名考付録
21	アイヌの生誕の命名とにつきて
21	あいぬの風俗について
21	古川コサンケアン翁談叢『民族学研究』第16巻第3・4号抜刷
21	アイヌと熊『民族学研究』第1巻第3号掲載
22	コタンの点描
22	民具イラスト（ノート）ファイル
22	イラスト（カード）ファイル
23	アイヌ調査書（付録）
23	アイヌ調査書（付録その壹）
23	アイヌ調査書（付録その貳）
23	アイヌ調査書（付録その参）
24	アイヌ調査書（第壹編）
24	アイヌ調査書（第貳編）
24	アイヌ調査書（第参編、宗教及び道德）
24	アイヌ調査書（第四編）
24	アイヌ調査書（第五編、客儀及び礼儀）
24	アイヌ調査書（第六）
24	アイヌ調査書（第七）
24	アイヌ調査書（第八）
24	アイヌ調査書（第九）
25	写真資料（写真）
26	写真資料（写真、絵葉書、他）
28	日新小学校関係書類
28	ホテネ・伏根安太郎関係資料
28	卒業式（答辞、祝辞）
28	日新小学校校内図
28	アイヌ関係（ノート天・地）2冊
28	日新小学校概覧・その他 11点
28	物品目録2点（付属畑収入金、購入品）（有志寄贈分）
28	校具目録2点（維持費購入品）（下賜品他）

箱番号	資 料 名
28	引継証（2枚）・受渡証・覚
28	旧土人状態調査ノ件・旧土人衛生状態調査ノ件
28	旧土人ニ関スル調査ノ件・入退学児童に関する件・他
28	土人小学校校長会議
28	入学以来の思い出
28	アイヌ語の手紙
28	国際文通（北アメリカの子供に）
28	綴方（秩父宮殿下をお迎えして）
28	綴方（熊送り）
28	綴方（一般）
28	物語（教師・児童）
28	昔話
28	童謡
28	アイヌ児童、一日の食事表について
28	修身（児童のメモ）
28	習字
28	図画
28	日新尋常小学校要覧
28	北海道庁からの書翰他 1点
28	書翰控え（石原惣六宛）メモ・書翰写し・座席表・児童成績品・その他
28	日新小学校改築落成記念・児童学芸会順序・感謝状
28	十勝教育会予算
28	管内学校出席歩合平均一覧表
28	日新尋常小学校外来観客累年統計一覧
28	学校林面積調査・植樹・等
28	農業戸数及び人口、農産物収穫高予想報告
28	封筒 4通
28	国勢調査実施ニ関スル件
28	書翰・書翰控（旧土人保護法に関する）
28	府県と十勝との比較・通学児童家庭
29	虻田学園関係
29	あいぬ語対日本語
29	虻田学園日誌抄
29	昔の土人の唱歌帳
29	旧土人の昔話・アイヌ、イタキ
29	メモ（No1～No40）（小谷部全一郎関係資料あり）
29	生徒作品、祝辞・答辞
30	アイヌ調査資料（十勝の部 1）
30	アイヌ調査資料（十勝の部 2）
30	アイヌ調査資料（十勝の部 3）
30	北海道十勝国帯広市伏古別アイヌ調査資料
30	アイヌ調査資料（胆振の部 4）
30	アイヌ調査資料（胆振の部 5）
30	アイヌ調査資料（日高の部 6）
31	アイヌ説話
31	アイヌヤイシャマ（唄と踊り）
31	アイヌの謡曲説話等に現れたる地名
31	大正四年度 アイヌ説話
31	あいぬ語いろいろ
31	アイヌの古英雄ボンヤウンベ、
31	河に関するアイヌの説話（2編）
31	夢に関するアイヌの説話
31	平取外八個村沿革史資料
31	蘇の十字架の十字架
31	アイヌの戦争と武器
31	夢に関するアイヌの説話
31	虫に関するアイヌの説話
31	植物に関するアイヌの説話
31	魚介に関するアイヌの説話
31	アイヌの戦争と武器
31	遺跡遺物とアイヌの説話
31	アイヌの戦争と武器
31	遺跡遺物とアイヌの説話
31	アイヌの宗教観
31	アイヌの器物
31	アイヌ勇士物語
31	アイヌの死葬につきて

箱番号	資 料 名
31	天文に関するアイヌの説話
31	アイヌと人論
31	アイヌの古英雄
31	天文に関するアイヌの説話
31	アイヌと熊
31	アイヌの遊戯
31	アイヌ勇士物語
31	天文に関するアイヌの説話
31	その名の上か下かにムイを附す
31	アイヌの巻物
31	アイヌの器物
31	アイヌと生老病死
31	アイヌの生誕につきて
31	アイヌと歌舞音曲
31	鳥に関するアイヌの説話
31	獣に関するアイヌの説話
31	地文に関するアイヌ
31	鳥類に関するアイヌ
31	アイヌの古英雄
31	山に関するアイヌの説話
31	身体に関するアイヌの説話
31	虫に関するアイヌの説話
31	魚介に関するアイヌの説話
31	愛族調査資料類別目録
31	愛族調査規定稿目録
31	アイヌ説話（草稿）
31	アイヌの三及六に因める説話
31	アイヌの植物説話
31	アイヌの動植物名について
31	子の年に因めるアイヌ説話
31	獣類に関するアイヌの説話 他18編
31	地文に関するアイヌの説話 他14編
32	虻田学園関係
32	虻田学園日誌（江賀・赤築）（2冊）
32	虻田学園文集
32	野蠻人の謎々
32	嗚呼坂上田村麻呂将軍、メモ 2点
32	心の華
32	児童が書いた物語（義経の話）習字、他9点
32	綴方誠業
32	夏期休業日誌
32	虻田学園報、短歌他 4点
32	国の宝アイヌの話(1)〔生徒によるノート。以下同じ〕
32	国の宝アイヌの話(2)
32	国の宝アイヌの話(3)
32	国の宝アイヌの話(4)
32	国の宝アイヌの話(5)
32	国の宝アイヌの話(6)
32	国の宝アイヌの話(7)
33	国宝集メモ（ノート 1冊）
33	国宝集メモ（ノート 2冊）
33	室長日誌
33	東宮殿下行啓記念・国宝全集目録
33	国宝資料目録
33	国宝集
33	国宝打聴並びに拾遺
33	国の宝（虻田学園 江賀寅三 ノート1冊）
33	国の宝（虻田学園 天木吉太郎 ノート1冊）
33	昔物語（虻田学園 萱野円次郎 ノート1冊）
33	昔物語（虻田学園 萱野円次郎 ノート1冊）
34	アイヌの伝説・北海道郷土史研究講座資料
34	アイヌ謎（明治・大正時代採録）
34	単編アイヌ伽倻
34	アイヌ謎々集（前編）
34	アイヌ謎々集（後編）
34	謎発問形式
34	アイヌ童話概説
34	アイヌ童話壹百集
34	アイヌ童話集
34	アイヌ童話

箱番号	資 料 名
34	アイヌの英雄神話
34	スノーホワイト、レットローズの話
34	アイヌの動物説話 その一 鳥類説話
34	アイヌの動物説話 その二 獣類説話
34	アイヌの動物説話 その三 蟲類説話
34	アイヌの動物説話 その四 魚類説話
34	日高沙流アイヌの童話 珍珍集
35	アイヌ祝詞、祈り言葉「ウチャシクマ、カムイユカラ」
35	アイヌ祝詞、祈り言葉「ヤイサマ、カムイユカラ」
35	ボヌチャシクマ
35	「オキクルミとサマユンクル」
36	原始時代研究とアイヌ
36	樹木崇拜より来れ[り]と思はるるアイヌ人称につきて
36	諸書からの抜き書、聞き取りメモ
36	古稀譚叢
36	中村要吉氏（イベチカリ）経歴談
36	古川コサンケアシ翁談話
36	北海道旧土人保護法ニ関スル建議
36	火の研究に関する因む資料
36	死に関するアイヌの観念と風習
36	古老座談会
36	武隈徳三郎関係資料
36	累年度保護者会員名簿（大正12年以降）
36	閉校式参列名簿（昭和6年8月29日）
36	往古蝦夷人之話聴伝扣其他
36	『ウタリクス』
36	秩父宮殿下御成記念姉妹編
36	長編映画「十勝平野」シナリオの写し
36	日本語対アイヌ語
36	吉田資料対アイヌ民族研究資料対象
36	北海道地名解
36	相馬の方言とアイヌ語、相馬方言の解説書
36	アイヌ語雑話
36	アイヌ語論
36	アイヌの墓標
36	アイヌ語彙研究・東西南北
36	国郡別北海道アイヌ地名語彙カード（解説）
36	丹波国大江山の語源に就きて
36	あい奴語をりをり草
36	アイヌ昔話集（懸賞応募）
36	科外調査資料
36	科外調査
36	勅題松上鶴に因めるアイヌ説話
36	アイヌ語単語集
37	書翰自叙伝〔吉田宛て書翰〕
37	河野常吉氏書翰 他
38	書翰自叙伝〔吉田宛て書翰〕
39	吉田巖書翰控「明治編」「大正編」「昭和編」
40	吉田巖日記抄「一・二・三・四」
40	台湾旅行資料
40	台湾視察に関する講演要旨
40	古名士のおもかげ
40	一字姓又は氏について
40	横田清一郎先生侍史
40	北海道戸口表
40	隠語辞典抄録
40	映画中尊寺について
40	ばん溪断章・他
40	吉田巖紀行文集
41	文書綴り
41	帯広市川西村合併経過書・他
41	秩父宮殿下賜
41	日新尋常小学校教育奨励資金調書
41	千載一隅「ママ」の光榮
41	解剖学權威児玉博士を迎えて
41	十勝畜産組合用地の件文書
41	吉田巖著作年表
41	文書選雜編
42	アイヌ土俗目録・聖哲に聴く
42	コタン、ニュース・敗兵独語・十勝日誌について
42	コタンそのおりおり・日食とアイヌ

箱番号	資 料 名
42	コタンのささやき・その他雑記
42	吉田巖還暦記念叢書
42	還暦ものがたり
42	嗚呼過去壹萬日
42	土人語調査
42	蝦夷神曲和譚〔ママ〕
42	北海道蝦夷語明解
42	学事関係者及び監督者累年名簿
42	懐古帳「上、下、補」
43	日本人類学会会員名簿
43	『東京人類学会雑誌』（『人類学雑誌』）
43	『民族学研究』
43	『郷土研究』『蝦夷往来』
43	『民俗』『北海道』『アイヌ研究』
43	『七ツボシ』
44, 45	『人類学雑誌』『北海道人類学会雑誌』
46, 47	『北海道社会事業』『相馬郷』『学友会雑誌』（相馬中学校ほか）『福島県人会報』ほか
48	国文学関係雑誌
48	その他メモ
48	随読随抄「首、壹、貳、参、四、五、六」
48	随読随抄「7、7-2、8、9、11、12、13、14、15、16」
48	随読随抄「18、19、20、21、22、28」
49	倭名類聚録
49	古事記
49	竹取物語、出雲物語、古語拾遺ほか
50	扶桑皇統記図解
51	杖のみたま
52	『吾妹』ほか
52	『さくら花』
52	『少女』『七ツボシ』
53	アイヌノ治療ニ関スル古来ノ風習及迷信
53	二宮尊親大人書翰、吉田巖宛日録
53	新聞切抜き
53	興復社関係文書控
53	北海道移住者便覧 興復社
53	植民地開設趣意
53	移民作物収穫表
53	明治31年水害調べ
53	明治36年水害調べ
53	転籍届
53	二宮家・吉田家の系図（略図）
53	豊頃村生首別沿革誌
53	メモ（日高教育会講演資料・十勝興復社報徳会講話資料）
54	アイヌ方言カード
55	アイヌ俗謡集 胆振の部
55	アイヌ俗謡集 日高の部
55	アイヌ俗謡集 十勝の部
55	アイヌ俗謡集 釧路の部
56	スクラップ（未製本）
57	コロブ〔ママ〕ツクル考
57	アイヌ命名考
57	アイヌ勇士物語
57	アイヌ謎々集
57	アイヌ謎々集（後）
57	アイヌ子守謡集
57	蝦夷の口碑日録
57	アイヌ伝説に上れる著名の地並びに人
57	星に関するアイヌの伝説
57	有珠岳とアイヌの伝説、他
57	アイヌ語より見たる日本地名
57	アイヌ語地名に関する応問
57	日本語とアイヌ語との類似
57	アイヌ俗謡集
57	アイヌの英雄神話（上、中、下）
58	筆にまかせて
58	日新堂漫筆
58	日新堂百話
59	日新随筆
60	とかちあいぬ研究

箱番号	資 料 名
61	書翰群芳(1)(2)
61	書翰百編
61	書翰百章
61	故半野親史君遺翰集
61	愛郷誌料
61	書翰発信宛名、その他
61	書翰控、書翰自叙伝、吉田巖略歴
61	書翰（久保寺逸彦、小野寺、小林）
61	書翰控、その他
61	哲人を語る
61	履歴書
61	北海道旧土人保護に関する建議
61	言行録
62	アイヌ童話
62	十勝音更、芽室太、毛根アイヌ童話
62	日高沙流アイヌ童話
62	胆振白老アイヌ童話
62	胆振有珠アイヌ童話
62	胆振虻田アイヌ童話
62	渡島長万部アイヌ童話
63	北海道教育史関係
63	北海道教育史 第二編 第三・四巻
63	北海道教育史 付録、図表、図版、基本資料
63	北海道教育史編纂資料
63	編纂計画書（全道編）補正
63	執筆委員会会議録の送付後の状況並びに追加資料について
63	教育史の時代区分
63	教育史全道編編集要領の送付
63	全道編三の記述要項作成について
63	教育史全道編3編集計画 ほか
63	学事視察復命書
63	学校校簿返納に関する件
63	日新尋常小学校保護者会保管金現在
63	日新尋常小学校要覧
63	日新尋常小学校保護者会保管金決算
63	保護者会席上口述要旨（その他の資料）
63	青年団関係
63	記念
63	『北海之教育』他（教育会雑誌など）
63	百人一首
63	『北海道旧土人教育会虻田学園報』
64	愛郷譚叢
65	昔話（目次、まえがき、あいぬ説話）
65	シシャムウエベケレ（和人昔話）
65	昔話目次
65	牝熊の丈は計らない
65	まま娘と狩人との奇縁
65	月中の人
65	鳥と少年
65	栗踊り
66	吉田巖公職年表
66	吉田巖履歴
66	吉田巖旅行年譜
66	吉田巖年譜
67, 68	帯広市史資料
69	虻田学園をめぐるて
69	旧土人ニ関スル調査
69	日記抄
69	日高目録抄
69	コタン人別
69	アイヌ研究資料
69	土人昔話帳
69	座席の制
69	幼い時の回想
69	地名の解釈
69	鈴屋翁学説
69	中村ソバウシ老談
69	その他雑記
70	あいぬ歌謡集
70	アイヌのオムタロ童話

箱番号	資 料 名
70	アイヌ、ウチャスクマ
70	日高沙流アイヌの童話（金の珠、銀の珠）
70	ウチャシクマ（俚諺）
70	アイヌの伝説について
70	火山地名の謎
71	イトクバ研究
71	イナウの種類・製法など
71	アイヌ語ヨハネ伝福音書
71	アイヌ語病名について
71	アイヌ医事関係語彙Ⅱ部
71	アイヌ土俗品古器物群解説
71	アイヌ人名調査
72,73	民生関係文書綴
74	吉田巖抄録－日本後記、他－
74	吉田巖抄録－原始文化の探求、他－
74	吉田巖抄録－和名類聚録、他－
74	日記
74	吾妻鏡をひもときて
74	曾根好忠の研究
74	短歌草稿（俳句を含む）他
74	古今樺太詩歌集
74	名の習慣について
74	一字一音の働き
74	西塔の武蔵房弁慶最後書き捨ての一通
74	書名解、その他メモ
75	稿本 瓦礫集
75	続稿本 瓦礫集
76,77	書簡、葉書（別途目録作成あり。本書では割愛）
78	日新堂随筆
78	職印の身の上話
78	地名懐古
78	アイヌ俚諺集
78	アイヌ説話
78	アイヌ舞踊
78	アイヌは滅びゆくか
78	アイヌの命名
78	アイヌの珍名奇名
78	アイヌの天然資源利用事例資料
78	北海道先住民族について
78	北海道先住民の風習について
78	日本語とアイヌ語について
78	漫談甘い辛い（とちあこれ）
78	録音聴取所感
78	土蜘蛛
78	動物に因んだ古代の人名
78	古今書画家半切相場
78	手紙の写し
79	聖旨奉札式感想文
79	紀元2600年式典参列記
79	天恩感激拝記
79	親菊御会御召宴拝載の光栄に対して
79	陸軍特別大演習、行幸を仰ぎて 一かしこみてよめる 25首－
79	御伝奏の光栄に浴したる方面委員の体験
79	行幸記念日に際して
79	社会事業に因みて
79	社会事業の一端について
79	北海道社会事業について（3点）
79	吉田巖略歴、他
79	聖旨奉旨に関する資料11点
79	秩父宮殿下巡幸の記録（伏して惟ふるに）
79	秩父宮殿下御成記念（姉妹編 2部）
79	年賀交礼
79	北海道社会事業視察団視察経過報告
79	北海道社会事業視察団視察日程
79	雑記表（随説随録）
79	年賀状雑感（2点）
79	地名の診断
79	来訪者名
79	随筆あいぬ（19点）
79	北海道アイヌ語方言語彙地区別比較一覧表

箱番号	資 料 名
79	年賀状雑感
79	北海道庁立日新尋常小学校説明書
79	帯広市公報
79	雑記（7点）
80	アイヌ語文法、カード
81	アイヌ語対日本語対訳(1)(2)
82	愛郷誌料
83	愛郷春秋
84	愛郷草子
84	帯広市並に十勝史参考古老等談話集
85	愛郷資料「ママ」
85	十勝国神居沼古謡
85	東北海道アイヌ古事風土記資料（生業編）
85	東北海道アイヌ古事風土記資料（十勝アイヌ）
85	国名十勝について
86	吉田メモ
86	書翰目録
86	中山亀太郎氏講演
86	「余輩の信念」諸書抜き書き
86	貯蓄戦士の叫び
86	大和国飛騨村につきて
86	銃砲刀剣類等所持許可申請書
86	読書抜き書き「太閤秀吉に関して」
86	森要人との和歌のやりとり
86	明治44年1月改版「よろず重宝目録」
86	神道教典（抄）
86	旅をめぐりて
86	人名録
86	標準の言い方と方言の違い「思い出すままメモ」
86	人道の要「出雲大社教」
86	道の手引き
86	『高砂民教化叢書』
86	「人生旅行」大宅社一著（抜き書き）
86	「世界の裏街道を行く」大宅社一著（抜き書き）
86	出雲風土記・常陸風土記
86	「ねごと随筆」真下五一
86	学校祭等プログラム
86	領取書と商標
86	『パンパ』（皇紀2591年）
86	書翰「封書」、お礼
86	帯広市野草園地図
86	米麦混食の奨励
86	民俗芸術の会員募集
86	米価高低表
86	太宰府天満宮
86	石井先生日程
86	泉先生を弔ふ
86	十勝郷土研究資料開墾たび
86	馬屋上村共同済世社安部倉支社規約
86	アイヌ研究基本資料
86	日高村五十年史の送付
86	貯金比較
86	大祓詞
86	北海道新聞読者のしおり
86	東京精神研究会催眠術実験の光景
86	長野県地理
86	書壇
86	皇太子殿下の行啓について
86	国民年金の請求手続
86	公民館祭案内状
87	日本医事週報（表紙のみ）
87	日新随筆
87	蝶に関するアイヌ語彙
87	学友会雑誌
87	催眠術研究実験録
87	アイヌの風習について
87	旧土人青年の教育
87	大言悔
87	帯広市弘報
87	落合君の思い出
87	晩成社入地直前の帯広地方

箱番号	資 料 名
87	教育勅語
87	性に関する俚語俚語の研究
87	人体に交渉ある諺語研究
87	消化液分泌機転について
87	説苑
88	アイヌ人の系図
88	荷負尋常小学校関係
88	学年毎児童成績報告
88	学事視察復命書
88	旧土人学校の片影
88	公文書（第二伏古尋常小学校校長より）
88	新聞切抜き帳（アイヌ関係）
88	豊頃報徳校関係
88	試問・応答・短歌（1枚）
88	第二回学芸演芸会順序
88	大正四年教育費予算書、その他メモ
89	江賀寅三のアイヌ語会話 国宝(1)(2)(3)
89	国宝の写し
89	アイヌ語メモ(1)(2)(3)
90	吉田巖アイヌ語辞典「用言助詞、金田一から」
90	蝦夷語撰からの写し
90	国宝からの転写「十勝方言」
90	アイヌ会話辞典
90	北見アイヌ人
90	イヨハイオチシ・パンンベとパンンベ
90	吉田巖アイヌ語辞典「用語助詞、接続動詞」
90	蝦夷語捷経からの写し
90	ビグルー語に類似するアイヌ語
90	吉田巖アイヌ語辞典「感嘆詞」
90	アイヌ語の話
90	緒言 アイヌ語文法
90	吉田巖アイヌ語辞典「昆虫の部」
90	追憶
90	説話
90	北海道蝦夷語地明「ママ」解からの抜き書
90	アイヌに関するあらゆる文献からの抜き書
90	ユカラ
90	アイヌ語
90	アイヌ語その折々
90	アイヌの神々
90	相馬ことば「鹿島方言」
91	アイヌ語編 勝壱
91	アイヌと数詞 勝壱
91	アイヌ語会話編 勝壱
91	パチエラー氏辞書以外のアイヌ語 勝壱
91	アイヌ語編 振天式
91	アイヌ語編 振地式
91	アイヌ数詞 振天式
91	アイヌ数詞 振地式
91	アイヌ語会話編 振天式
91	アイヌ語会話編 振地式
91	アイヌ語編 高参
91	アイヌ語会話編 高参
92	アイヌ語関係2
92	アイヌ語（ノート）
92	私案語源思索
92	アイヌ謎集校訂成績
92	アイヌ語
92	AINU-ITOKPA
92	アイヌのイトクバ A・B
92	アイヌ説話(一)～(八)
92	日蝕とアイヌ
92	アイヌ語文典、研究のいとくち
93	吉田巖文集
93	吹雪の土産
93	榛の落葉
93	我が体験した夢
93	北海道植民状況報文
93	洞寒外七ヶ村戸長田辺為光
93	北海道馬産地沿革及産地
93	十勝の産馬

箱番号	資 料 名
93	心霊雑談
93	感謝をめぐりて
94	略歴と日記
94	日本文法
94	歴史日課成績
94	見ると言う事について
94	年齢部門の偉人について
94	雑感
94	漢文科（テスト問題）
94	宝草紙 全一卷
94	謡曲の説
94	惟喬親王の伝
94	後世歴御岳話
94	国語科文典
94	古事記講義
94	今昔宇治抄講義
94	和魂漢才
94	論語講義・孟子講義
94	閑田咏草（和歌）
94	心の碑がとりもった、くしきえにし
94	心の碑をめぐりて
94	吉田巖日録抄（故沼田武男君参考資料）
94	吉田家往復文書発信控（故沼田武男君関係資料）
94	金銭簿
94	日録抄
94	アイヌに関する研究
94	諺集
94	アイヌ春秋読後観
94	アイヌの童話
94	吉田巖謄写集
94	雑記ノート(1)(2)
94	覚書（M39）1冊
94	蝦夷随筆につきて
94	ありし日の日新小学校について
94	巻紙（日記）M30
94	放送原稿（郷土の生活のうつりかわり）
94	方面委員の体験
94	伏根弘三よりの文書
94	宿直日誌
94	観菊御会召宴拝戴記
94	保元物語、他
94	妙案集、他
94	雑記ノート(3)
94	雑記ノート(4)
94	覚書
94	和歌
94	アイヌ調査書
95	日誌関係
95	明治28年～明治39年
95	明治31年3月1日
95	明治34年5月6日
95	明治37年1月～12月
95	大正5年2月26日より大正7年7月28日
95	大正5年1月1日より昭和6年12月31日
95	昭和6年7月12日～昭和10年12月31日
95	昭和10年
95	伏古17年日誌粹
96	書翰受信表 4枚
96	書翰受信表 6枚

付：「吉田巖著作稿本年表」より

吉田巖遺稿資料の情報を補い、また参照すべきデータとして、吉田巖自筆の「吉田巖著作稿本目録」の内容を以下にまとめた。これは、『吉田巖著作年表』に含まれているもので、吉田が自らの調査資料や書翰等をまとめて作った稿本類について、おおよそ作成した時期の順に目録形式でまとめたものと思われる。吉田巖遺稿資料の中の稿本・カード類について、吉田巖が所蔵していた当時の全体像や、稿本と叢書との関係などを窺う手がかりになると考え、ここに掲載することにした。

資料の性格を考え、表のつくり及び記述は原則として資料のままとしたが、「巻数量」欄（資料の分量を記したものと思われる）は割愛し、漢数字を算用数字に改め、年月日の記述は一部簡略化し、備考欄なども文字数の多い箇所を中心に一部割愛した。判読できなかった文字は■で表した。

稿 本 名	著作年次	備 考
明治廿八年日誌	明治28	5月1日乃至12月30日
随筆	明治34、35	4月24日乃至1月8日
後世への囁語	明治37	1月25日乃至6月11日
菊紅葉	明治38	10月14日遡。37年4月乃至38年3月作品。鹿島校尋3女子
菊の落葉	明治38	4月1日より39年3月29日まで。
今昔宇治抄講義	明治38	7月1日より8月30日まで。評釈手控。
読子規言行録		
相馬言葉		言葉のみなと。(34年)ことばのいづみ。(35年)俗語解。相馬言葉。
詠草		恩師岩崎宗山大人添削批評
詠草		川上先生添削批評
詠草		鈴木先生添削批評
詠草		武井孝之助先生添削批評
吉田巖雑集	明治33、34	中学校、答案作品
吉田巖集（正、続）		消息、書翰、雑文
吉田巖文集		
吉田巖文辞集		
吉田巖書翰控		明治篇
吉田巖書翰控		大正篇
吉田巖書翰控		昭和篇
吉田巖日誌抄	明治39、40	12月9日乃至7月18日、アイヌ関係
吉田巖日誌抄	大正5 昭和6	2月6日乃至6月26日
吉田巖日誌抄	大正5 昭和9	追加稿、1月21日乃至1月3日
吉田巖日誌抄	大正9	厚岸、春採、白糠探訪
吉田巖日誌抄	明治39 昭和8	紀行、7月26日乃至2月8日
吉田巖還暦記念叢誌	昭和17	
吉田巖還暦記念叢誌 ■ 略稿	昭和17	
稿本 瓦礫集		
続 稿本 瓦礫集		
吉田巖詩集		
曾根好忠		
吾妻鑑をひもときて		
催眠術研究実験録		
我が体験したる夢		
霊界話		
書翰百篇		
書翰百章		
書翰群芳		
河野常吉氏書簡集		
伴野親史君送翰集		
恩師小谷部全一郎大人書稿		
年賀状雑感		
柴の舎主人との連歌		
詠歌五十年		
蝦夷の口碑目録 （一名アイヌの古事記）	明治44	甘露寺侍従を経て皇太子殿下に献上の控
千載一遇の光栄		殿下奉迎、侍従謁見録
旧土人学校の片影		甘露寺侍従謁見を賜ふ
アイヌ謎々集		甘露寺侍従謁見を賜ふ
アイヌ命名考		甘露寺侍従謁見を賜ふ
アイヌ命名考 附録		甘露寺侍従謁見を賜ふ
アイヌ語と日本語 その類似		甘露寺侍従謁見を賜ふ
アイヌ語より見たる日本地名		甘露寺侍従謁見を賜ふ
アイヌ童話壱百集		甘露寺侍従謁見を賜ふ
国宝打聴並拾遺		甘露寺侍従謁見を賜ふ
蝦夷勇士物語		甘露寺侍従謁見を賜ふ
国宝拾遺		甘露寺侍従謁見を賜ふ
アイヌの古英雄 ボンヤウンベ		甘露寺侍従謁見を賜ふ
国宝打聴集		甘露寺侍従謁見を賜ふ
有珠嶽とアイヌの伝説		甘露寺侍従謁見を賜ふ
国宝打聴集		甘露寺侍従謁見を賜ふ

稿 本 名	著作年次	備 考
星に関するアイヌの伝説		甘露寺侍従謁見を賜ふ
国宝打聴集		甘露寺侍従謁見を賜ふ
国宝集		甘露寺侍従謁見を賜ふ
国宝集珍		
国宝資料目録		
愛族調査 資料表題目録		
愛族調査 既定〔？〕目録		
アイヌ研究資料		昭和3年2月28日、秩父宮雍仁殿下親しく台覧を賜ふ。
アイヌ童話	賜台覧	
十勝 芽室太、毛根、音更アイヌ童話	賜台覧	
日高沙流 アイヌ童話	賜台覧	
胆振白老 アイヌ童話	賜台覧	
胆振有珠 アイヌ童話	賜台覧	
胆振虹田 アイヌ童話	賜台覧	
渡島長万部 アイヌ童話	賜台覧	
アイヌ英雄神話（上）	賜台覧	
アイヌ英雄神話（中）	賜台覧	
アイヌ英雄神話（下）	賜台覧	
アイヌ勇士物語	賜台覧	
アイヌ謎々集	賜台覧	
後篇アイヌ謎々集	賜台覧	
アイヌ俗謡集	賜台覧	
学事復命書（写）	賜台覧	
台湾の旅	賜台覧	
アイヌ童話		開道五十年記念博覧会出品 褒状を受く
アイヌ調査書 第一編 緒言		財団法人啓明会補助事業報告書 控
アイヌ調査書 第二編 社会		財団法人啓明会補助事業報告書 控
アイヌ調査書 第三編 宗教、道德〔？〕		財団法人啓明会補助事業報告書 控
アイヌ調査書 第四編 衣食住及器具〔？〕		財団法人啓明会補助事業報告書 控
アイヌ調査書 第五編 祭儀社式		財団法人啓明会補助事業報告書 控
アイヌ調査書 第六編 産業		財団法人啓明会補助事業報告書 控
アイヌ調査書 第七編 教育		財団法人啓明会補助事業報告書 控
アイヌ調査書 第八編 衛生		財団法人啓明会補助事業報告書 控
アイヌ調査書 第九編 歌曲		財団法人啓明会補助事業報告書 控
アイヌ調査書 附篇 その壹		財団法人啓明会補助事業報告書 控
アイヌ調査書 附篇 その貳		財団法人啓明会補助事業報告書 控
アイヌ調査書 附篇 その参		財団法人啓明会補助事業報告書 控
秩父宮殿下北海道庁立日新尋常小学校台臨記	昭和3	
心の碑（原稿）	昭和9	昭和十年出版す 秩父宮家に献本へ
文書選	大正5～昭和6	日新小学校、肉筆日誌
伏古拾七年	大正5～昭和6	公私日誌抄本
日新随筆	昭和9	心の碑 続編
帯広市史稿	昭和	肉筆五巻 帯広図書館保管 謄写刷
伏古アイヌ調査資料		
帯広市アイヌ概要		
帯広市年表		
アイヌ研究余録	昭和9 12	
アイヌ随筆	明治42 昭和2	
筆にまかせて		
日新堂百話	昭和14 15	
日新堂随筆		
日新堂漫筆	昭和10 14	
日新堂漫筆	昭和14 18	
火山地名の謎	昭和23	
とかちアイヌ研究		
とかちあいぬ		
吉田巖年譜		

稿 本 名	著作年次	備 考
吉田巖履歴		
吉田巖旅行年譜		
吉田巖著作年表		
古川コサンケンシ翁談話		
アイヌ語法資料	昭和26	
古川コサンケンシ翁談話	昭和26 10.5	日本民族学協会民族学研究発表 吉田巖日誌抄に拠る
古希譚叢	昭和26 10.8	日本民族学協会民族学研究発表 吉田巖日誌抄に拠る
杖のみたま	昭和26 10.17	吉田巖日誌抄に拠る
榛の落葉	昭和26 10.17	吉田巖日誌抄に拠る
吹雪の土産	昭和26 10.22	吉田巖日誌抄に拠る
愛郷誌料（生業篇）	昭和27 6	十勝国伏古別アイヌ古事風土記資料
愛郷誌料（土俗篇）	昭和27 6	十勝国伏古別アイヌ古事風土記資料
愛郷誌料（説話編）	昭和27 6	十勝国伏古別アイヌ古事風土記資料
愛郷誌料（古譚小品）	昭和27 6	十勝国毛根茅室太アイヌ古事風土記資料
愛郷誌料（学童保健）	昭和27 6	十勝国伏古別アイヌ資料
とかちあいぬ	昭和27 6	
北海道あいぬ方言語彙集成	昭和27 10.10	十勝釧路あいぬ方言語彙（東北北海道編）
北海道あいぬ方言語彙集成について	昭和27.11.13	
あゝころ	昭和27.9.21	
映画中尊寺について	昭和27.11.12	
十勝国上川郡清水町参考資料	昭和27.11.14	清水町応問控
そぞろごと	昭和27.11.23	
シシャムウエベケレ（和人昔話）	昭和27.12.20	
コタンのささやき	昭和28.3.15－16	需に応じて、雑誌教育新潮に寄稿す。
北海道あいぬ方言語彙集成稿	昭和28.2.13	日高あいぬ方言篇
北海道あいぬ方言語彙集成稿	昭和28.4.26	胆振あいぬ方言篇
愛郷化育二十八年	昭和29.2.4	北海道教育研究所提出 北海道教育史特殊篇
同 附録・図表 図版 基本資料	昭和29.2.4	北海道教育研究所提出 北海道教育史特殊篇
アイヌの昔話	昭和29.3.28	旧稿2、新稿6、計8冊につづる
沙流の山つど	昭和29.4.20	3冊に綴る（364枚）
アイヌ謎	昭和29.5.13	
胆振の浜つど	昭和29.5.23	2冊に綴る（235枚） （前出）
故小谷部全一郎大人書翰	昭和29.6.24	第二冊。夫人、御家族その他をふくむ。
哲人を語る	同	晴耕雨読抄
虻田学園をめぐりて	昭和29.6.24	二百五十字語×四十七枚 四百字語換算二十九枚
北海道あいぬ方言動物語彙	昭和28.7.2	昭和29年7月2日処理
同（参考資料）	昭和28.7.14	松浦武四郎蝦夷日誌集抄 同
懐古帖	昭和29.7.14	元日新小学校在職中來観者控、贈写による
アイヌ方言資料(A)(B)(C)	昭和29年7月23、24、26	日本語部
十勝アイヌ発音 用語資料	昭和29.7.28	日本語部
アイヌ方言語法資料	昭和29年9月1、3、4	あいぬ語部 胆振、日高、十勝各1
日高アイヌ方言語法資料	昭和29.9.9	日本語部
虻田学園子弟発音用語資料	昭和29.9.14	日本語部 胆振、十勝、釧路
北海道あいぬ方言語法点晴〔？〕	昭和29.10.15	
あいぬ歌謡集	昭和29.11.11	胆振、日高、十勝、釧路
あいぬ俗謡集	昭和29.12.8	胆振、日高、十勝、釧路
カード式あいぬ会話	昭和29.12.17	胆振、日高、十勝、釧路その他 仮に紙面に収む。（別冊江賀国宝を含む）。
国郡別北海道アイヌ地名語彙	昭和30.2.3	永田方正氏著北海道蝦夷語地名解析にヨル 仮ニ紙面ニ収ム解説一冊ヲ附ス カード4716
懐古帖補遺	昭和30.3.7	
北海道あいぬ人体語彙	昭和30.5.26	
書翰自叙伝 恩師篇	昭和30.7.11	
書翰自叙伝 学兄篇	〃	
書翰自叙伝 友兄篇	〃	
薫風帖	昭和30.7.26	
書翰自叙伝 赤焼火〔？〕篇	昭和30.8.4	
書翰自叙伝 馬陵少年篇	昭和30.8.6	
書翰自叙伝 永劫篇	昭和30.8.8	
書翰自叙伝 同化篇	昭和30.8.22	
書翰自叙伝 道南篇	同	
書翰自叙伝 松堂篇	同	
書翰自叙伝 成蹊篇	同	
書翰自叙伝 有朋篇	昭和30.8.31	

稿 本 名	著作年次	備 考
書翰自叙伝 質疑篇	昭和30.9.24	
書翰自叙伝 感激篇	同	
書翰自叙伝 大人篇	同	
書翰自叙伝 高砂篇	同	
書翰自叙伝 総目次	昭和30.9.30	
アイヌ語彙研究	昭和30.7.28	東西南北、コイ、アヅマ、コシ
カード式分類語彙	昭和31.1.26－2.24	知里ユキエ、同貞志保氏による アイヌ神謡集1796、アイヌ民謡集1923 語彙
カード式分類語彙 函入	昭和31.3.3－3.16	知里貞志保氏による アイヌ民俗研究資料第一、同第二1065語彙
カード式分類会話語彙 函入	昭和31.5.1－5.11	神保金沢アイヌ語会話字典による 504カード
日誌抄	昭和31.5.29－6.3	吉田巖個人日録による
アイヌ青少年の使用日本語に表はれたる語調	昭和31.6.19－6.26	昭和11.6.1－同27.11.11 57章 司馬力作、江賀寅三日誌による
相馬ことば（鹿島方言）	昭和31.7.12－7.23	吉田巖個人日録による 北海道移住五十年記念石井国次先生に捧ぐ
吉田式語法要	昭和31.8.22	移住五十年記念
日録抄		
東北（奥羽）地方に於ける「沢」を含める市町村名について	昭和32.3.1	昭和5年職員録に拠る調査稿
同（続）	昭和32.3.11	
地名のかき ナイについて	昭和32.3.9	
和漢三才図絵 蝦夷国語について	昭和32.7.13	カード附
名の慣習について	昭和32.7.21	
あいぬ語いろいろ	昭和31.6.28	
林野の十勝	昭和32.7	帯広営林局樹水会のもとにより寄稿
故沼田武男君関係資料	昭和32.9.13	往復文書 発信 受信控
故沼田武男君関係資料	昭和32.9.6－13	吉田巖日録抄
沼田武男書翰集	昭和33.10	前後両篇
沼田武男もゆる涙	昭和34.8.26	前書に吉田日記を合せたもの
親日アイヌ研究家	昭和34.9.2	第5集愛郷誌料によせる
金田一博士アイヌユカラ集 推せんのことば	昭和34.9.6	東京三省堂に贈る
薫風帖	昭和34.9.10	第5集愛郷誌料によせる
あららぎの雫	昭和34.9.11	第5集愛郷誌料によせる
録音聴取所感	昭和32.4.29	
アイヌは滅びゆくか	昭和32.5.14～15	
漫談甘い辛い	昭和32.5.22	
地名懐古	昭和32.5.22	
ふきとかばのにおい	昭和32.6.8	
武隈徳三郎関係資料	昭和32.7.24	
地名の診断	昭和34.4.24	
ジョン・パチュラー博士年譜	昭和35.4.6	未定稿
伏根弘三翁年譜	昭和35.4.8	
アイヌの天然資源利用事例資料	昭和35.4.25	
日新堂友朋誌	昭和35.11.1	昭和6年以降同35年の間現住居來訪者芳名簿
北海道図引用解説	昭和35.12.7	1頁、12頁 帯広市域を中心とする集落の変遷 千葉小太郎
北方古典語研究所蔵アイヌ調査資料選	昭和35.3.13	吉田巖所蔵日新文庫目録
ことしの市文化賞		

(2) 帯広市図書館以外の公的機関が所蔵する吉田巖関係資料の概要

■北海道立図書館所蔵 吉田巖遺稿資料（複写）

帯広市図書館が所蔵する「吉田巖遺稿資料」を1968年に電子複写し製本したものを、同館北方資料室で閲覧に供している。目録は『北の資料』第14号（北海道立図書館、1975年9月）に掲載され、その後同館の北方資料の冊子目録及びインターネット上の蔵書検索データにも収録されている。

冊子体に綴じられていることもあり、札幌近郊での利用には便利である。ただし、1）複写されているのは「遺稿資料」の一部にとどまっていること 2）道立図書館では資料の表紙の記述をもとに資料名を記しており、現在の「遺稿資料」の目録とは表題が異なる場合があること 3）40年前の電子複写であるため文字の判読が困難な状態の箇所が比較的多いと思われること（試みに幾つか照合してみたところ、道立では判読できないが帯広でなら読める、という箇所が若干あった）等について予め了解しておく必要がある。

この複写製本と「遺稿資料」との対応関係を別表にまとめたので参照されたい。

■幕別町教育委員会所蔵 吉田菊太郎資料

吉田菊太郎（1896～1965）は幕別の白人（チロット）に生まれ、十勝アイヌ旭明社（1927年）の創立に参加、1929年に白人古潭矯風会設立、1936年から幕別村議、同年には侍従派遣の「榮譽」に浴し、1946年北海道アイヌ協会副会長、1959年には幕別町千住にアイヌの民具や考古資料を収集・保存・展示した「蝦夷文化考古館」を設立した。同館は今も設立された場所にあり、中の展示では吉田巖に触れた箇所もある。

吉田菊太郎のもとにあった文書・図書・写真資料は、現在幕別町教育委員会が所蔵し同町ふるさと館が保管している。この中に、吉田巖からの書翰や、蝦夷文化考古館展示の原稿と思われる「故吉田巖先生を偲ぶ」と題された草稿などがある。資料の概要は『吉田菊太郎資料目録Ⅱ』（幕別町教育委員会、1998年）で見ることができる。

■森町教育委員会所蔵 村岡文庫

渡島管内森町において、医者をつとめるかたわらアイヌ文化に関する記録や資料収集を目的に掲げた「ピリカ会」を主催した村岡格（1850～1923）の旧蔵資料が「村岡文庫」として森町教育委員会に所蔵されている。村岡は吉田巖と交友があり、アイヌ文化に関する資料や情報の交換などを行っていた。吉田巖遺稿資料中には村岡から吉田宛て書翰が、村岡文庫中には吉田から村岡宛の書翰が残されており、両者を照合することで、両者のやりとりの経緯や内容などもうかがうことができる。

森町教育委員会によって『村岡文庫目録』（1978年）が編まれている。また当研究センターによる『ピリカ会関係資料の調査研究 北海道立アイヌ民族文化研究センター調査研究報告書1』（2005年）も参照されたい。

■財団法人渋沢史料館所蔵資料

日本の近代社会経済の成立期に大きな功績をしるした渋沢栄一、民俗学研究の分野で大きな役割を

果たしたアチックミュージアムを主宰した渋沢敬三らの資料が、東京都北区の渋沢史料館に所蔵されている。それぞれにアイヌ史・アイヌ文化関係資料が少なからず含まれているが、吉田巖に関するものでは、渋沢敬三のもとに届いた書簡を集めた『^{がんしん い えんしゅう}雁信怡衍集』の中に、吉田からの書簡が1通含まれている。同館において目録が作成されている。

■板橋区立郷土資料館所蔵 石田収蔵資料

石田収蔵（1879～1940）は秋田県鹿角郡の生まれ、東京帝国大学理学部に入学して坪井正五郎に師事し、東京人類学会の幹事をつとめ、サハリンなどで民族学調査を行い多くの資料を収集した。その旧蔵資料が、1993年に、遺族のご厚意により石田が暮らしていた板橋区の区立郷土資料館に寄贈され、同館で保管されている。この資料の中に、吉田巖からの年賀状、吉田から石田に提供されたものと思われる北海道関係の統計の写し、そして「アイヌの育児に地なめる説話」と題された原稿が確認されている。

これらについては、小西雅徳・内田祐一「板橋区立郷土資料館所蔵の石田収蔵資料に含まれていた吉田巖関係資料について」『帯広百年記念館紀要』第20号、2002年に詳しく記されており、その中で上記の原稿も全文が掲載されている。

このほか、アイヌ民族資料のコレクションで、その収集に吉田巖関わった事例としては、網走管内遠軽町にある社会福祉法人北海道家庭学校の博物館のアイヌ民族資料が挙げられる。これは、同校の博物館の運営に携わった職員品川儀介（1889～1982）が吉田と交友を持ち、吉田を介して入手したものであることがわかっている。このことについては、内田祐一「北海道家庭学校博物館所蔵のアイヌ民具コレクション」『帯広百年記念館紀要』第17号、1999年に詳しい。吉田巖関係文献目録中にも、品川の著書『我羊独語』や品川が発行していた雑誌『野人の叫び』などが見られる。なお、現在これらの資料は、帯広百年記念館に寄託され、同館が保管している。

■北海道立アイヌ民族文化研究センター 久保寺逸彦文庫

当北海道立アイヌ民族文化研究センターが所蔵する、アイヌ口承文芸やアイヌ文化の研究に大きな業績を遺した久保寺逸彦（1902～1971）の旧蔵資料である久保寺逸彦文庫の中にも関係資料がある。

久保寺逸彦は、國學院大学在学中の1923年に初めて北海道でアイヌ口承文芸の聞き取り調査を行った。このときの調査地が帯広であり、吉田巖の日記に、久保寺逸彦の来訪を受けたことが記されている。久保寺が、吉田に対して、その学問の内容は勿論、小学校教員という、学界から見れば在野と呼ばれるような立場にありながら、精力的に資料の収集と整理を続けたという点を高く評価していたことが、吉田巖遺稿資料中に遺されている久保寺からの書翰や、久保寺による文章「アイヌ研究における吉田巖氏の功績と足跡」（『民族学研究』第19巻第3・4号、1956年）などから窺うことができる。

当研究センターが所蔵する久保寺逸彦文庫の中にも、吉田巖からの書翰が若干点含まれており、上記の村岡格と同様、吉田巖遺稿資料側の書翰と対照することで相互の内容の理解が深まるものと思われる。ただ、当研究センターでは書簡資料は現在整理中のため未公開である。

付：北海道立図書館所蔵複写製本一覧

- ・「道立図書館コピー」欄は、『北海道立図書館蔵書目録 第13分冊』（北海道立図書館、1981年）の記載をもとに、一部情報を補った。
- ・「帯広市図書館資料」欄には、これに対応する資料を帯広市図書館において閲覧利用に供しているコピー製本中に確認できた場合、本書Ⅳに掲載した概要目録の「No」により、そのおおよその所在を示した。その際、資料の表題が異なっている場合のみ、カッコ内に帯広市図書館における表題を記した。空欄は現時点で筆者には確認できていないものである。「マイクロフィルム」となっているのは、コピー製本中では確認できなかったが、マイクロフィルム中では確認できた場合である。

No.	道立図書館所蔵コピー 表 題	備 考	帯広市図書館資料 (製本)
1	アイヌ原語日本語対訳書 集 1	148p	No35 (アイヌ祝詞、 祈り言葉「ウチャシク マ、カムイユカラ」)
2	アイヌ原語日本語対訳書 集 2	164p	No35 (祈り言葉「ヤ イサマ、カムイユカラ」)
3	アイヌ原語日本語対訳書 集 3	119p	No35 (「ボ マシク チャ」か)
4	アイヌ原語日本語対訳書 集 4	59p	No35 (「オキクルミト サマユンクル」か)
5	北海道あいぬ方言語法資料	短冊状 28p「昭和29.9.29」 とあり。	No18
6	十勝あいぬ方言語法資料	短冊状 16p。「昭和29.8.1日 ～10整理/9.4版浄写」とあり	No18
7	日高あいぬ方言資料 (音韻 語法)	短冊状 16p。「昭和29.9.19 /整理浄写」とあり	No18
8	虻田学園子弟発音用語調査 資料	短冊状 15p。「29.9.14」とあり。	No18
9	胆振あいぬ方言語法資料	短冊状 26p。「昭和29/8.18 ～8.24 整理/9.1 版浄写」 とあり。	No18
10	北海道あいぬ方言語法点精	短冊状 49p。「昭和29.10. 15」とあり。	No18
11	北海道あいぬ方言語法点精	短冊状 29p。「昭和29.9. 24」とあり。	No18
12	アイヌ調査書 第宅篇	原稿用紙 とびらに「い」とラ ベル貼付。	No24
13	アイヌ調査書 第式篇	原稿用紙 とびらに「ろ」とラ ベル貼付。	No24
14	アイヌ調査書 第参篇	B4タテ原稿用紙 (アイヌ調 査用紙とあり (式までは野村 商店製) 102p	No24
15	アイヌ調査書 第四編 (※ 編注意)	一冊 (買付なし)、原稿用紙 (野村商店製品)	No24
16	アイヌ調査書 第五編	B4タテ原稿用紙 (アイヌ調 査用紙) 82p (ナンバリング 記入は途中からなので、p 数 未確認といえは未確認)	No24
17	アイヌ調査書 第六編	原稿用紙 (野村商店製品) 83p とびらに「へ」とラベル貼付	No24
18	アイヌ調査書 第七編	原稿用紙 (野村商店製品) 116p とびらに「と」とラベル貼付	No24
19	アイヌ調査書 第八編	原稿用紙 (野村商店製品) 21p とびらに「ち」とラベル貼付	No24
20	アイヌ調査書 第九編	原稿用紙 (野村商店製品) 59p とびらに「り」とラベル貼付	No24
21	アイヌ調査書 (附録その壱)	原稿用紙 87p とびらに「ぬ」 とあり	No23
22	アイヌ調査書 (附録その弐)	原稿用紙 109p とびらに「る」 とあり	No23
23	アイヌ調査書 (附録その参)	原稿用紙 104p (109?) とび らに「を」とラベル貼付あり	No23
24	吉田巖日誌抄 一	B4か 48p 1906年7月26日 から1913年2月14日までか	No40
25	吉田巖日誌抄 二	B4か 114p か 1916年2月 6日から1939年8月13日まで、 その後1928年などの日新尋 常小学校児童への試問の記録	No40
26	吉田巖日誌抄 三	B4か 114p か 1906年12月 9日から1908年4月頃までか。	No40
27	吉田巖日誌抄 四	B4か 29p 1920年1月か	No40
28	十勝の部 アイヌ調査資料 一	24p	No30
29	十勝の部 アイヌ調査資料 二	32p	No30
30	十勝の部 アイヌ調査資料 三	33p	No30
31	胆振の部 アイヌ調査資料 四	55p	No30
32	胆振の部 アイヌ調査資料 五	32p	No30
33	日高の部 アイヌ調査資料 六	33p	No30の一部をなすものか
34	北海道あいぬ方言語彙集成 (日高篇)	68p	No20
35	北海道あいぬ方言語彙集成 (東北道篇)	115p	No20
36	北海道あいぬ方言語彙集成 成稿 胆振方言語彙の部	20p。天文篇 (天体、天象)、 地文篇 (地体、地象)	No20

No.	道立図書館所蔵コピー 表 題	備 考	帯広市図書館資料 (製本)
37	北海道あいぬ方言語彙集成 成稿 胆振方言語彙の部	21p。地文篇 (動物 獣類)	No20
38	北海道あいぬ方言語彙集成 成稿 胆振方言語彙の部	26p。表紙は「胆振方言語彙 の部」とあるのみ。	
39	北海道あいぬ方言語彙集成 成稿 胆振方言語彙の部 人 文篇 言語	36p。「言語/助詞 感嘆詞 形容詞 代名詞」とあり	No20
40	北海道あいぬ方言語彙集成 成稿 胆振方言語彙の部 人 文篇 人倫	6 p。「昭和28.4.15」とあり。	No19
41	北海道あいぬ方言語彙集成 成稿 胆振語彙の部 人文篇 伝承舞踊 人名 (ほか)	16p。「伝承舞踊/人名/信仰儀 礼/神名/雑名/儀礼」とあり。 「昭和28.4.18～19」とあり。	No19
42	北海道あいぬ方言語彙集成 成稿 胆振語彙の部 言語 動詞	63p。「昭和28.4.21～24」 とあり。	No19
43	北海道あいぬ方言語彙集成 成稿 胆振語彙 人 文 器 具	15p。「人文篇」(伝承、舞踊)と 「器具」(衣類、食類、獣類)。昭和 28.4.16～17(器具) 4.18 (人文)とあり。人文は見出し のみで語彙なし。	No19
44	日高あいぬ方言語法資料	10p。「昭和29/8.9～8.18整理 /9.3版浄写」とあり。	No18
45	アイヌ論攻	22p。「明治四十一年九月二十 一日ヨリ執筆」とあり。	
46	アイヌの命名につきて	10p	No21
47	アイヌ民族史 高参	「行記百四十四」とあり。 「高」は日高の意。	No21
48	アイヌ民族史 振武天	「行記六十七」とあり。 「振」は胆振の意。	
49	アイヌ民族史 振武地	「行記百七」とあり。	No21
50	国都別北海道アイヌ地名語 彙カード	地名カードの解説。5 p。	No36
51	日高沙流アイヌの童話 金 の珠娘の珠	8 p	No70
52	日高沙流アイヌの童話 珍々集	126p	No34
53	ウエベケリ	墨書、29p。	
54	コロボックル考	22p	No57
55	コロボックル考	27p	No57
56	アイヌの命名につきて	17p	No21
57	アイヌ童話	8 p。「拾九」などラベル貼付、 「アイヌ説話概説」として約 述修正を要す」とあり。	
58	アイヌ語雑話	7 p	No21
59	昔譚集	39p。最後の1 pに1912年2月 豊野門次郎の名あり。	
60	旧土人解語	「頭字 (ア) ノ字ヲ附シモノ ノアイヌ/アヤボ」…と始ま る。19p。	(「マイクロフィルム 『文書類14』」にあり か)
61	国名飛騨語源考	7 p	No21
62	アイヌの婚姻につきて	6 p	No21 (「アイヌの結婚 につきて」)
63	中村要吉氏経歴談	「行記三十三」「勝巻」とあ り。12p。	No36
64	アイヌと数詞	「行記四十一」「勝巻」とあ り。2 p。	No91
65	アイヌと数詞 振武天	「行記七十六」「振武天」と あり。1 p。	No91 (「アイヌ数詞」)
66	アイヌと数詞 振武地	「行記巻五」とあり (五は訂 正されているか。潰れて見え にくい)。1 p。	No91 (「アイヌ数詞」)
67	単篇 アイヌお伽噺	16p。	No34 (「単編アイヌお伽」)
68	アイヌ話々集 (後篇)	15p。	No34
69	アイヌの動植物名について	6 p	No31
70	死に関するアイヌの観念と 風習	23p	No36
71	アイヌのオムタロ童話	3 p	No70
72	スノーホワイトとレット ローズとの話	5 p	No34 (「スノーホワイト /レットローズ」の話)
73	アイヌの伝説 北海道郷土 史研究講座放送資料	40p	No34

No.	道立図書館所蔵コピー		帯広市図書館資料 (製本)
	表 題	備 考	
74	国名飛騨語源考	6 p	No21
75	アイヌ雑事	14p.「戸口」十勝アイヌの由来「アイヌの生活状態」など。	No21
76	アイヌの謡曲説話等に現はれた地名	5 p.	No21
77	アイヌの謡曲説話等に現はれた地名	〔5〕 p	No31
78	アイヌ学童の発音と使用語	4 p	No18 (道立は一部のみか)
79	アイヌの踊	〔35〕 p	No14
80	相馬の方言とアイヌ語	〔9〕 p	No21
81	日本語対アイヌ語	9 p	No36
82	子の年に因めるアイヌの説話	21p	No31
83	アイヌに関する雑話	17p	No21
84	アイヌの命名につきて 応問	16p	No21
85	アイヌの生誕と命名につきて	相馬中学校校友会原稿用紙 7 p.	No21
86	胆振国虻田郡虻田村地方誌資料	5 p	No21
87	アイヌ語論	11p	No36
88	アイヌの生誕命名につきて (七月九日)	5 p	No21
89	アイヌ命名考附録	〔3〕 p	No21
90	明治四十三年五月 アイヌ昔話集 (懸賞応募)	〔22〕 p	No36
91	日高国沙流郡平取村地方誌資料	10p	No21
92	そぞろごと	20p	No21
93	北海道に於けるチャシ(砦)に因める地名分布表	7 p	No21
94	椎の葉 (応問)	2 p	No21
95	アイヌの三及六に因める説話	30p	No31
96	丹波国大江山の語源に就きて	2 p	No36
97	アイヌの植物説話	12p	No31
98	パチュラー氏辞書以外のアイヌ語 勝志	「行記四十二」とあり。本文 3 p.	No91
99	アイヌの墓標	本文冒頭の表題は「日高国沙流郡ポロサルアイヌの墓標」。7 p.	No36
100	アイヌの色彩観念	帯広市史編纂原稿用紙 6 p.	No21
101	アイヌ狸謠集	14p.	No78
102	アイヌ民族史参考資料	本文21p.	No21
103	罵詈雑言を表現するアイヌ語	3 p	No18
104	大正四年度 アイヌ話集	14p	No31 (「大正四年度アイヌ説話」)
105	アイヌの英雄神話 (附録)	6 p	No34
106	千載一遇の光栄	16p	No41
107	アイヌ民族と文芸	6 p	No21
108	アイヌ語文法	23p	No18
109	東宮殿下行啓記念 国宝全集目録	8 p	No33
110	愛族調査既定稿目録	20p	No31
111	国宝打聴並二拾遺	21p	No33
112	国宝拾遺	38p	
113	国宝打聴集	31p. 31p目は河川地名に関する図などあり。	
114	国宝打聴集	34p. 34p目は子どもの背負い方を示す図などあり。	
115	国宝打聴集	10p	
116	明治四十三年九月六日 国宝打聴集	11p	
117	国宝資料目録	21p	No33
118	国宝集珍	39p	
119	愛族調査資料類別目録	3 p	No31
120	国宝集	32p	No33
121	アイヌ調査書 (附録)	13p.	No23
122	源義経入夷並二末路考	12p.	No21
123	勅題松上鶴に因めるアイヌの説話	13p.	No36
124	アイヌ童話老百集 振武天	「行記七十七」とあり。124p.	No34
125	アイヌ語文典研究のいとくち	8 p.	No92
126	十勝国上川郡清水町参考資料 (清水町の応問)	7 p.「清水町五十年史」のうち、吉田巖より教示を受けた部分を抄録。	No21
127	アイヌ語童話概説	19p	No34
128	源義経入夷説並末路考資料	17p.「四四、六、一五」とあり。	No21
129	アイヌ童話集 振武 地	14p.「行記百十六」とあり。	No34
130	小学校歴史教科書 一抄録	21p.「小学歴史教科書」一〜三からの抄録。	No21 (「日本民族対アイヌ」)

No.	道立図書館所蔵コピー		帯広市図書館資料 (製本)
	表 題	備 考	
131	アイヌ語フンツウチカムイについて (昭和14年1月19日 執筆)	2 p.	
132	緒言	12p	
133	あいぬ語をりをりを草 明治43年5月	4 p. 長万部の司馬力作、江賀寅三 (いずれも虻田学園生徒) による。	No36
134	あいぬ語対日本語 (明治四拾参年四月拾五日 虻田学園寄宿生拾名自作)	12p	No29 (表紙に「正二位公卿二條基弘殿閣下御覧」とあり。)
135	北海道あいぬ方言語彙集成について	原稿用紙12p.	No19
136	北海道地名解 (駅名)	43p.「函館」から「相の内」まで。	No36
137	人種、人口及言語	10p	(マイクロフィルム「文書類2」の381〜392コマか)
138	愛奴 明治44年第3月	7 p.「和漢三才図説」からの筆写。	No21
139	十勝国名蹟神居沼古謡	〔3〕 p	No21
140	アイヌの古英雄ボイヤウンベ	14p	No31
141	アイヌ資料	53p	
142	アイヌ資料	一冊 (頁付なし)。金田一京助「北蝦夷史古謡遺篇」に関するメモ。	No33 (「国宝集メモ」。道立図書館コピーはこの中の一部か)
143	アイヌ資料	一冊 (頁付なし)。1931年の「ラヂオ放送」の依頼に関するやりとりのメモなど。	No33 (目録では「国宝集メモ」)
144	アイヌ資料	15p.「第一 やき(せみ)かむいゆから」など。	
145	アイヌ資料	32p.「応対会話」とあり。	
146	アイヌ資料	〔33〕 p. ノート一冊。	No32 (「国の宝 アイヌの話」)
147	アイヌ資料	一冊 (頁付なし)	
148	アイヌ資料	18p. ノート一冊。	No33 (「昔物語 (虻田学園 査野円次郎 ノート一冊)」)
149	アイヌ資料	9 p. ノート一冊。	No32 (「国の宝 アイヌの話」)
150	アイヌ資料	45p.	No32 (「国の宝 アイヌの話」)
151	アイヌ資料	1 p.	
152	アイヌ資料	6 p. ノート一冊。表紙に「国の宝」、後表紙に「虻田学園 砂山力太郎」とあり。	
153	アイヌ資料	10p. ノート一冊。表紙に「国の宝」、後表紙に「虻田学園 川村太市」とあり。	
154	アイヌ資料	6 p. ノート一冊。表紙に「国の宝」、後表紙に「虻田学園 生島松吉」とあり。	
155	アイヌ資料	11p. ノート一冊。表紙に「国の宝」、後表紙に「虻田学園 田村吉郎」とあり。	
156	アイヌ資料	36p. ノート一冊。	No33
157	アイヌ資料	30p. ノート一冊。	No32
158	アイヌ資料	13p. ノート一冊。	No32
159	アイヌ資料	17p. ノート一冊。	No33
160	アイヌ資料	〔9〕 p. ノート一冊。	No32
161	アイヌ資料	32p. ノート一冊。表紙に「国の宝(?)」、後表紙に「虻田学園 本科一学年小名慶造」とあり。	
162	アイヌ資料	一冊 (頁付なし)。ノート一冊。表紙に「国の宝」、後表紙に「虻田実業学校 司馬力作」とあり。	
163	アイヌ資料	19p. ノート一冊。表紙に「国の宝」、後表紙に「虻田学園 野本弁治」とあり。	
164	地名の診断 参考資料	33p.「1 アイヌ語入門テキスト」「2 語法資料」から「8 サリキ」までの目次あり。	

(3) 既刊の資料集・叢書の中の吉田巖著作の一覧

近年、『アイヌ語考』（全5巻、ゆまに書房、2001年）のように、アイヌ文化・アイヌ史関係の資料集・文献集が刊行される例が幾つか見られるが、その中では、『アイヌ史資料集』（河野本道選、北海道出版企画センター）が、その第2期（7巻まで発行、1984年）において、「吉田巖著作編」に3巻をあて、『人類学雑誌』等に掲載された論文や、河野常吉旧蔵資料中の関係資料を収録している。

ここでは、この『アイヌ史資料集』の吉田巖著作編の掲載文献・論文名を一覧表形式で紹介する。表の左側が文献・論文名、右側は備考欄。

●アイヌ史資料集（第2期）河野本道選 北海道出版企画センター

吉田巖著作編(一)	
アイヌの衣食住	出典名記載なし。以下は目次
アイヌの衣服	
(一) 十勝地方開書	
(二) 胆振地方開書(1)	
(三) 胆振地方開書(2)	
四 日高地方開書	
アイヌの食物	
(一) 十勝地方開書	
(二) 胆振地方開書(1)	
(三) 胆振地方開書(2)	
四 日高地方開書	
アイヌの住居	
(一) 十勝地方開書	
(二) 胆振地方開書(1)	
(三) 胆振地方開書(2)	
四 日高地方開書	
アイヌ聞見録	稿本か。
日新尋常小学校々舎改築落成記念 絵葉書 吉組	全8枚。吉田巖から河野常吉宛てに送付されたもの。 以下は各葉のキャプションから表題に相当する箇所を転記。
伏古日蓮〔ママ〕小学校開校記念／北海道庁立日新尋常小学校／十勝伏古々 澤旧土人矯風会発会式／明治天皇ヲ奉祀セル伏古神社（十勝アイヌの創建） ／十勝伏古アイヌ家屋全景／ムックリ（口琵琶）ヲ弄ベル十勝伏古アイヌ学 童／盛装セル十勝伏古アイヌ／室内ニ於ケル十勝伏古アイヌノ宝物	
心の碑	北海出版社、1935年。影印復刻ではなく、新たに活字が組み直されている。
河野常吉・河野広道宛書翰集	啓明会によるアイヌ調査事業に関する書翰など。
吉田巖著作編(二)	
『人類学雑誌』篇（上）	『東京人類学雑誌』『人類学雑誌』に掲載された論文等を収録。影印復刻ではなく、新たに活字が組み直されている。以下は表題のみ記載。
有珠岳とアイヌの伝説	
アイヌ命名考	
アイヌ命名考（続）	
日本語とアイヌ語との比較	
日本語とアイヌ語との比較（続）	
星に関するアイヌの伝説	
アイヌ語より見たる日本地名	
アイヌ語より見たる日本地名（続）	
丹波国大江山の語源に就きて	
死に関するアイヌの観念と風習	
死に関するアイヌの観念と風習（続）	
アイヌのト筵禁厭	
夢に関するアイヌの説話	
樹木崇拜より来れりと思はるるアイヌの人称につきて	
アイヌ勇士物語	
アイヌ謎々集 前篇	
アイヌ謎々集 後篇	
アイヌの命名につきて	
アイヌの命名につきて（続）	
『人類学雑誌』篇（下）	
アイヌの英雄神話	
アイヌの妖怪説話	
アイヌの妖怪説話（続）	
アイヌの写声語につきて	
相馬方言とアイヌ語	
アイヌ語会話篇(一)	
アイヌ語会話篇(二)	
アイヌ語会話篇(三)	
アイヌ語会話篇四	
アイヌ語会話篇(五)	
アイヌの動植物名について	
身体に因めるアイヌの説話	
アイヌの婦女掠奪物語(一)	

アイヌの婦女掠奪物語(二)	
アイヌの天地山水説話	
アイヌの植物説話	
トンボ舟について	
アイヌの発音上母音 i と鼻音 n との転呼について	
アイヌの魚介類説話	
アイヌの虫類説話	
アイヌの衣食住	
アイヌの言葉遣ひ	
アイヌ学童の発音と使用語につきて	
アイヌ婦丈夫の名を語らぬこと	
アイヌの遊戯	
アイヌの生誕と命名につきて	
アイヌの自家療法	
アイヌと年頭所感	
アイヌの暦と十二箇月	
アイヌ学童より観たる彼等同族の現代風習	
アイヌの鯨について	
三田氏に対して	
アイヌの薬用並に食用植物	
吉田巖著作編(三)	
『郷土研究』篇	『郷土研究』(1913～1917年)に掲載された論文等を収録。影印復刻ではなく、新たに活字が組み直されている。以下は表題のみ記載。
アイヌの桃太郎童話	
アイヌの動物説話(一)(其一、鳥類説話)	
アイヌの動物説話(二)(其二、鳥類説話)	
アイヌの鳥類説話(三)	
アイヌの鳥類説話四	
アイヌの鳥類説話(五)	
『民族学研究』篇	『民族学研究』に掲載された論文等を収録。影印復刻ではなく、新たに活字が組み直されている。以下は表題のみ記載。
アイヌと熊	
古川コサンケアン翁談叢	
古希談叢一と価値アイヌ十一故老の談話記録	
杖のみたま―十勝アイヌ故老談話記録	久保寺逸彦「アイヌ研究に於ける吉田巖氏の功績と足跡」を付す。
『阿夷奴研究』篇 『ドルメン』篇	
『阿夷奴研究』篇	『阿夷奴研究』(のち『アイヌ研究』)に掲載された論文等を収録。影印復刻ではなく、新たに活字が組み直されている。以下は表題のみ記載。
阿夷奴哀歌	
アイヌの祈禱詞	
カムイユカラ	
アイヌウチヤスクマ	
『ドルメン』篇	『ドルメン』に掲載された論文等を収録。影印復刻ではなく、新たに活字が組み直されている。以下は表題のみ記載。
コタン情景	
コタン・ニュース	
コタンそのをりをり	
『蝦夷往来』篇『北海道社会事業』篇	
『蝦夷往来』篇	『蝦夷往来』に掲載された論文等を収録。影印復刻ではなく、新たに活字が組み直されている。以下は表題のみ記載。
熊送・熊送の意義	
アイヌの飢饉について	
アイヌの俗伝と夢	
北海談叢(一)	
アイヌ説話	
付 漢字化せるアイヌ語地名	
『北海道社会事業』篇	『北海道社会事業』に掲載された論文等を収録。収録はアイヌ関係のものに限定されているようである。影印復刻ではなく、新たに活字が組み直されている。以下は表題のみ記載。
旧土人保護施設改概案	
アイヌへの御仁慈の跡	
アイヌ族を歌ふ	
方面事業奏上の光栄	
御盛徳をたたふる歌	
アイヌの正月	
新年言志	
イベチカレ物語	
アイヌのさげび―江賀寅三君に聴く	
ホテネ物語―伏根弘三氏直話聴取書	
アイヌの恐怖観念と風習	
北海道河西郡帯広町 伏古旧土人調査資料	1926年発行。影印復刻ではなく、新たに活字が組み直されている。

北海道立アイヌ民族文化研究センター調査研究報告書 4 吉田巖書誌

2008年3月25日発行

編・著 小川正人（北海道立アイヌ民族文化研究センター研究職員）

発 行 北海道立アイヌ民族文化研究センター

〒060-0001 札幌市中央区北1条西7丁目 プレスト1・7 5階

電話 011-272-8801～03 ファクシミリ 011-272-8850

<http://www.pref.hokkaido.lg.jp/ks/abc/>

印刷所 富士プリント(株) ☎011-531-4711

この報告書は、環境に配慮した再生紙を使用しています。